SOTEC

WinBook WJシリーズ
ユーザーズガイド

（電源を入れる・切るなど基本的な操作から、各機能の使い方を説明しています。）

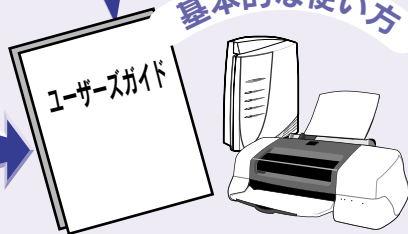
- ●ご使用になる前に
- ●使ってみよう
- ●Windows XPの基本操作
- ●周辺機器を使いこなす
- ●インターネットとホームネットワーク
- ●困ったときには
- ●付　録

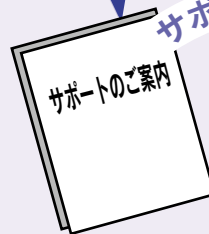
マニュアルマップ

必ずお読みください

まずこれを読もう!

基本的な機器の接続と、使用する前の準備について説明しています。

次にこれを読もう!

各種ドライブの使い方や周辺機器との接続方法について説明しています。

サポートに関しては

SOTECのサポート情報、本製品の保証について説明しています。

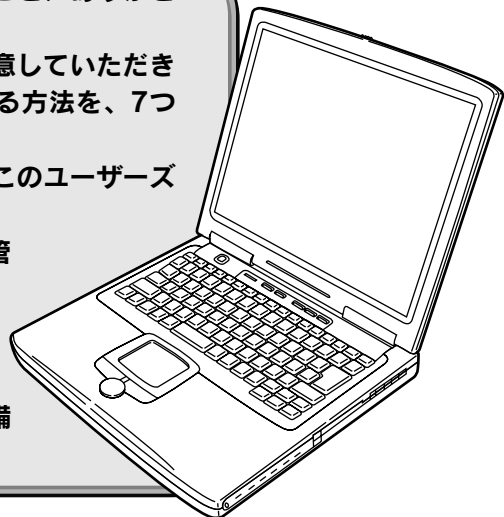
国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとした、オフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

本製品は、人命に関わる設備や機器(医療機器、原子力設備に関連する機器、航空宇宙機器、運輸設備に関連する機器など)や、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの使用や組み込みを目的として設計されていません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用された場合、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。

はじめに

このたびは、ソーテックWinBookをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
このユーザーズガイドでは、WinBookのご使用にあたって注意していただきたいことや、基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を、7つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBookを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。
読み終わった後は、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

また、このユーザーズガイドをお読みになる前に、別冊の「WinBook WJシリーズファーストステップガイド」に従って、機器の接続を終了させ、Windows XPが起動できるように準備しておいてください。

Windowsの起動後には、[スタート]ボタンを選択して表示される「本製品をご購入のお客様へ」を必ずお読みください。
この中には、WinBookを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windowsを再インストールする場合は「本製品をご購入のお客様へ」に書かれているとおりにドライバソフトなどのインストールを行わないとWinBookの性能を充分に発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

・本書の仕様、情報(本製品、ソフトウェアを含む)は予告なしに変更される場合があります。本製品ならびに、ソフトウェア、マニュアルを運用した結果については、いっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。
・本書で紹介されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき、同意書記載の管理責任者のもとでのみ使用することができます。よって、それ以外の目的で当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。
・本製品にあらかじめインストールされているWindows XP以外のOSについては、サポートの範囲外とさせていただきますので、ご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報処理装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しくお取り扱いください。

本製品を正しく安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

● 記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜いてください」という意味です。

⚠ 警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
火災･感電の原因となります。

●電源が100～240Vの範囲内であることを確認して使用してください。
100～240Vを超える電源を使用すると火災･感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理･改造をしないでください。
火災や感電の原因となります。
また、無償修理の対象外となります。
修理はSOTECテクニカルサポートセンタにご相談ください。

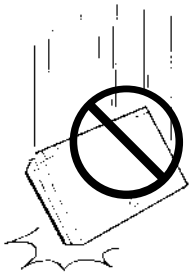
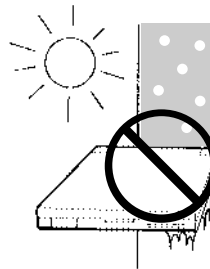
電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり､表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災･感電の原因となります。
SOTECテクニカルサポートセンタにご相談ください。

●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。
（発熱することは異常ではありません。）

⚠ 注意

●ACアダプタの電源プラグを抜くときはケーブルを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。

●落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。

●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～35℃)/使用周囲湿度(20～80%ただし結露しないこと)を超える範囲では使用・保存しないでください。

●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

●タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。

●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。

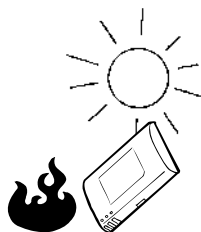
●タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

⚠ 警告

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。
また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。
発熱・発火・破裂の原因になります。

●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれています。分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

●バッテリを火の中に入れないでください。破裂の恐れがあります。

●バッテリから液が漏れて、液が眼に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。

注意

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(＋と－の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

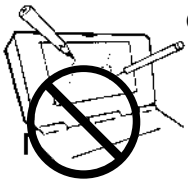
⚠ 注意

●バッテリを水や、海水につけたり、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

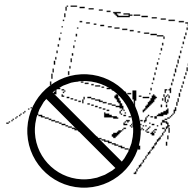
●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているか確認してください。

●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないでください。SOTECテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●バッテリは乳幼児の手の届かない所へ保管してください。

⚠ 取り扱い上の注意

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり､引っかいたりしないでください。

●液晶ディスプレイの汚れは､清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って､定期的にクリーニングしてください。

●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは､移動させないでください。

●本製品に付属のCD-ROMディスクは大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは､定期的にバックアップをお取りください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～35℃)の環境に放置した後、お使いください。

このマニュアルの読みかた

各ページの構成

STEP1 ご使用になる前に

2 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本機の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

初めて使うときは

バッテリは十分に充電されていない状態で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、ACアダプタを接続してご使用ください。
ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

警告
・弊社純正のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

ACアダプタの接続とバッテリの充電

1 **ACアダプタのプラグを、本体背面のDC入力端子に差し込みます。**

2 **プラグのもう一方をACコンセントに接続します。**

バッテリLED( )が点灯し、充電が始まります。

アドバイス **使用できるAC電源は何ボルト?**
本製品に付属のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。

バッテリLED( )が消灯したら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。
AC電源でお使いのときは、このままACアダプタを接続したままでお使いください。

20

このページは、構成の説明用に作成したもので、実際のページとは異なります。

インデックス
各章ごとに区切られています。

大見出し

この項目の概要

中見出し

補足的な説明や、知っておくと便利なポイントです。

操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントです。

参照していただきたい別冊のマニュアルやオンラインヘルプを紹介しています。

用語について説明しています。巻末の用語集もご覧ください。

☞参照ページ

その単語の詳細が別ページに紹介、または説明されています。本文とあわせてご覧ください。

章の構成

このユーザーズガイドは、お客様のレベルや使いかたに応じて、大きく７つのセクションに分けて説明しています。

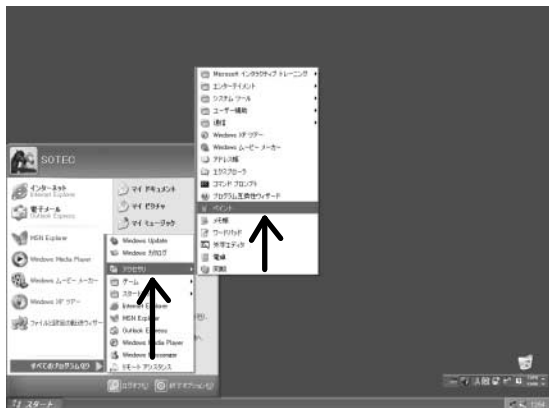
説明	章	
本体各部の名前とはたらき、付属のバッテリパックとACアダプタの取り付け方、電源の入れ方までを説明しています。	**ご使用になる前に STEP1**	
タッチパッド、キーボード、CD-ROMドライブなど、WinBookが標準で持っている機能について、基本的な使い方および注意事項を説明しています。	**使ってみよう STEP2**	
Windows XPの基本的な操作方法について説明しています。Windows XP標準の「ヘルプとサポート」の操作方法も記載していますので、Windows XPを使っていて困ったときは、この「ヘルプとサポート」でお調べください。	**Windows XPの基本操作 STEP3**	
PCカードやUSB機器など、WinBookと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。	**周辺機器を使いこなす STEP4**	
インターネットへの接続方法、ホームネットワーク(LAN)の設定方法について説明しています。必要に応じてお読みください。	**インターネットとホームネットワーク STEP5**	
WinBook、およびWinBookに接続している周辺機器を使っていて、困ったことがあれば参照してください。また、Windows XPの便利な機能について紹介しています。	**困ったときには STEP6**	
WinBookの内部プログラム(BIOS)の操作方法と、その機能について説明しています。また、パソコンに関する用語集、および索引を掲載しています。必要に応じて参照してください。	**付　録**	

WinBookを使うのは初めてという方は、「STEP1 ご使用になる前に」および「STEP2 使ってみよう」をまずお読みください。タッチパッド、キーボード、CD-ROMドライブなどの使い方を説明しているので、WinBookを一通り使いこなすための知識が身につきます。また、Windows XPを使用するのは初めてという方は「STEP3 Windows XPの基本操作」をお読みいただくと、Windows XPの操作が一通りわかるようになります。

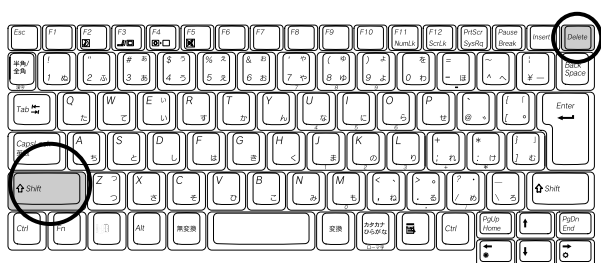
USB対応のスキャナを使いたい、PCカードに保存されているデジタルカメラの画像をパソコンに取り込みたいなど、本製品をより有効に活用したいときは、「STEP4 周辺機器を使いこなす」、「STEP5 インターネットとホームネットワーク」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「STEP6 困ったときには」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなるでしょう。

マニュアルの表記について

操作の表記ルール

次々とメニューを選択していく動作を本マニュアルでは「→」を使って省略している箇所があります。例えば、左画面のように、スタートボタンから「ペイント」のプログラムまでを選ぶ動作を、

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ペイント]

と表記しています。

何かのキーを押しながら、他のキーを押す動作を本マニュアルでは「＋」を使って省略しています。例えば、左図のように、Shift（シフト）キーを押しながら、Delete（デリート）キーを押す動作を、

Shift ＋ **Delete**

と表記しています。

また、キーボード上の絵は、次のように簡略化して表記しています。

キー表記とキーボードの対応表

本書の表記	実際のキー
Esc	Esc
Tab	Tab
Ctrl	Ctrl
Shift	Shift
Alt	Alt
Space	
Enter↵	Enter

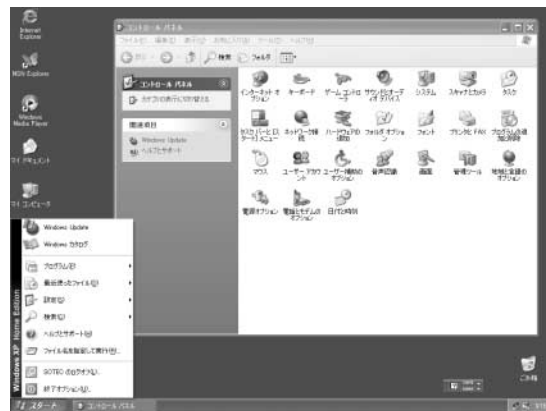
本書の表記	実際のキー
BackSpace	Back Space
Insert	Insert
Delete	Delete
Home	PgUp Home
End	PgDn End
↑ ↓ ← →	
PageUp	PgUp Home

本書の表記	実際のキー
PageDown	PgDn End
F1 F2…	F1 F2
変換	変換
半角/全角	半角/全角
NumLk	F11 NumLk

Windows XPの表記ルール

カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

Windows XPには、カテゴリ表示モードと呼ばれる通常の表示方法と、Windows2000など従来の表示イメージにあわせたクラシック表示モードと呼ばれる表示方法があります。本マニュアルでは、カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

カテゴリ表示モード

クラシック表示モード

Windows XP Homeの画面で説明しています。

Windows XPには、Windows XP ProfessionalとWindows XP Home Editionの２種類のバージョンがあります。機能の違いはほとんどありませんが、Windows XP Professionalは、マルチプロセッサおよびリモートデスクトップの機能に対応しています。本マニュアルでは、Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

本マニュアルでは、Microsoft Windows XP Professional日本語版およびMicrosoft Windows XP Home Edition 日本語版を、Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

モデル名の表記ルール

本製品に付属の製品仕様書から、マニュアルで表記しているモデル名を確認してください。

●光ディスクドライブの区別による表記

・CD-ROMドライブモデル
　CD-ROMの読込みのみできるドライブを搭載しているモデル
・CD-R/RWドライブモデル
　CD-ROMの読込みとCD-R/RWメディアへの書込みができるドライブを搭載しているモデル
・コンビネーションドライブモデル
　CD-ROM、DVD-ROMの読込みとCD-R/RWメディアへの書込みができるドライブを搭載しているモデル
　※本書では光ディスクドライブを総称してCD-ROMドライブと表記しています。

●CPUの区別による表記

・Celeronモデル
　Intel製CPU、Celeronを搭載しているモデル
・Pentium4モデル
　Intel製CPU、Pentium4を搭載しているモデル

●OSの区別による表記

・Xp Homeモデル
　Windows XP Home Editionをインストールしているモデル
・Xp Proモデル
　Windows XP Professionalをインストールしているモデル

・本マニュアル中の画面・イラストはモデル、ご使用の環境により実際のものと異なる場合がございます。
・記載しておりますホームページの内容やアドレス、サポートセンタへのお問い合わせ番号は、本マニュアル制作時点のものであり、変更する場合がございます。

目　次

STEP3 Windows XPの基本操作

STEP4 周辺機器を使いこなす

STEP5 インターネットとホームネットワーク

STEP6 困ったときには

付　録

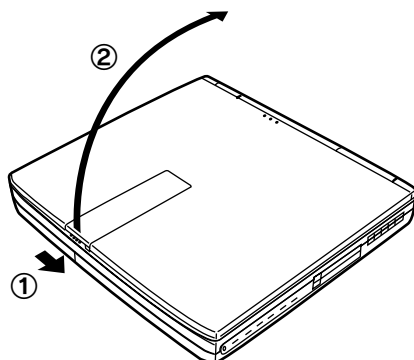
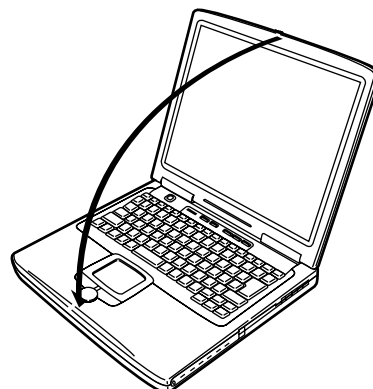
STEP 1

ご使用になる前に

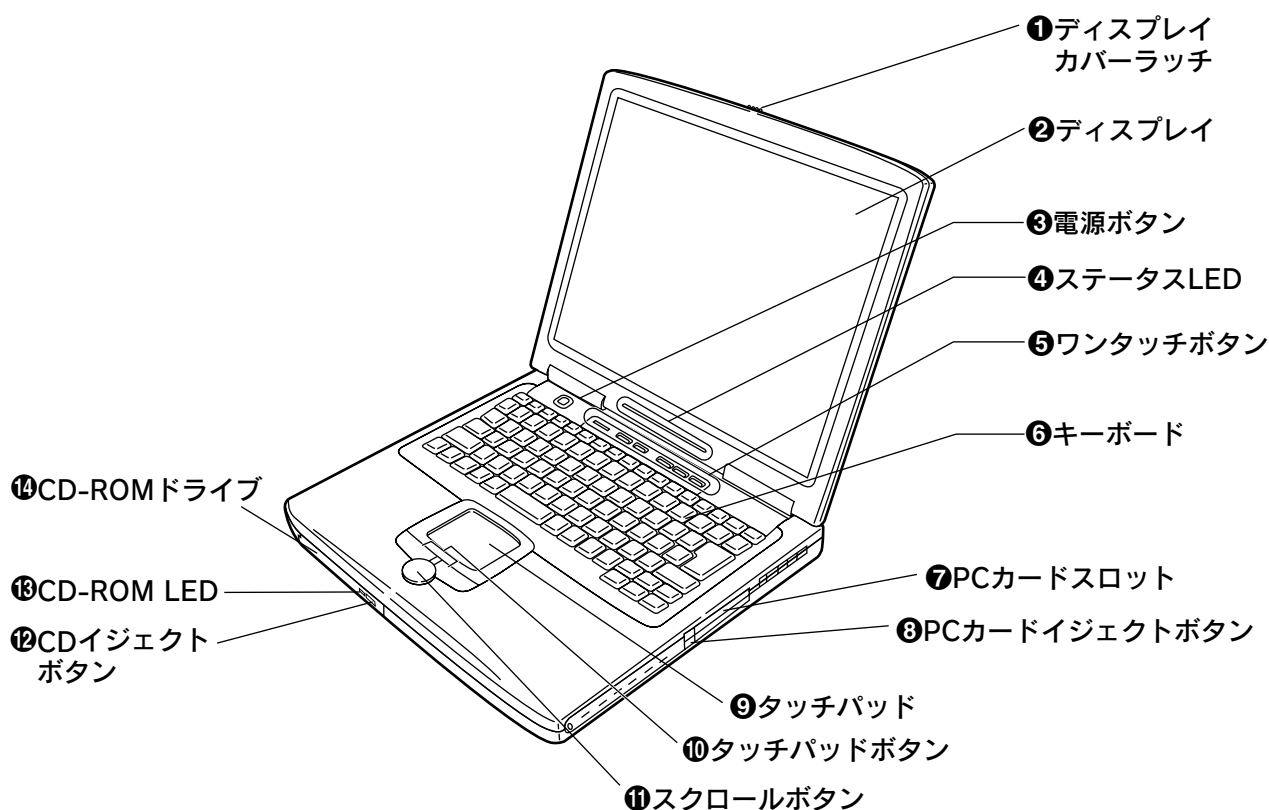
本体各部の名前とはたらき、付属のバッテリパックとACアダプタの取り付け方、電源の入れ方までを説明しています。これからWinBookを使いこなしていくために基本的なことがらを説明しています。必ずお読みください。

1 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明しています。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

ディスプレイカバーの開け閉め

ディスプレイカバーを開けるときは、手前のディスプレイカバーラッチを右へスライドして(①)、ロックを解除し、見やすい角度まで開きます(②)。

ディスプレイカバーを閉じるときは、ディスプレイカバーラッチがロックされるようにします。

前面/右側面

❶ディスプレイカバーラッチ
❷ディスプレイ
❸電源ボタン
❹ステータスLED
❺ワンタッチボタン
❻キーボード
❼PCカードスロット
❽PCカードイジェクトボタン
❾タッチパッド
❿タッチパッドボタン
⓫スクロールボタン
⓬CDイジェクトボタン
⓭CD-ROM LED
⓮CD-ROMドライブ

❶ ディスプレイカバーラッチ
右へスライドさせてディスプレイのロックを解除します。ディスプレイを閉じるときは、ディスプレイカバーラッチが本体にロックされるようにします。

❷ ディスプレイ
文字やグラフィックが表示されます。
省電力機能(☞ 49～54ページ)によりパソコンが動作していなければ、自動的にディスプレイの表示が消えるように設定することもできます。

❸ 電源ボタン
電源をON/OFFにします。(☞ 24ページ)
また、電源ボタンを押したときに、省電力機能(☞ 49～54ページ)で設定した動作を実行させることができます。

注意

HDD LED、CD-ROM LEDおよびフロッピーディスクアクセスLEDが点灯しているときにパソコンの電源をOFFにしたりリセットしないでください。データが壊れる恐れがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにするときは5秒以上待ってから操作してください。

❹ ステータスLED
パソコンの動作状態が表示されます。
(☞ 19ページ)

❺ ワンタッチボタン
Windowsが起動している状態でこれらのボタンを押すと、各種アプリケーションソフトが起動します。(☞ 33ページ)

❻ キーボード
キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。(☞ 31～35ページ)

❼ PCカードスロット(TypeII×2またはTypeIII×1)
PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。
(☞ 101ページ)

❽ PCカードイジェクトボタン
PCカードスロットに挿入したPCカードを取り出すボタンです。(☞ 103ページ)

❾ タッチパッド
指を軽くのせて動かすと、ディスプレイ上のマウスポインタが移動します。(☞ 28ページ)

❿ タッチパッドボタン
それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(☞ 28ページ)

⓫ スクロールボタン
ウィンドウのスクロールに使用します。
(☞ 28ページ)

⓬ CDイジェクトボタン
CD-ROMドライブにCD-ROMなどを挿入するときに押すボタンです。(☞ 38～39ページ)

⓭ CD-ROM LED
CD-ROMドライブへのアクセス中に点灯します。

⓮ CD-ROMドライブ
(CD-ROMドライブモデルの場合)

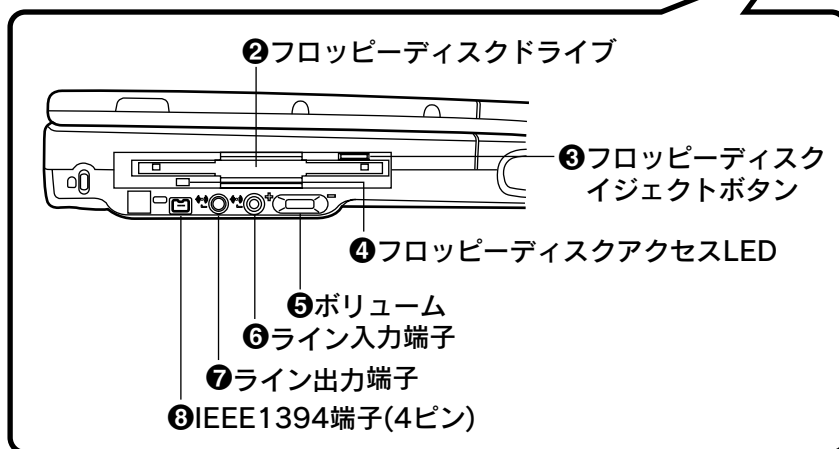
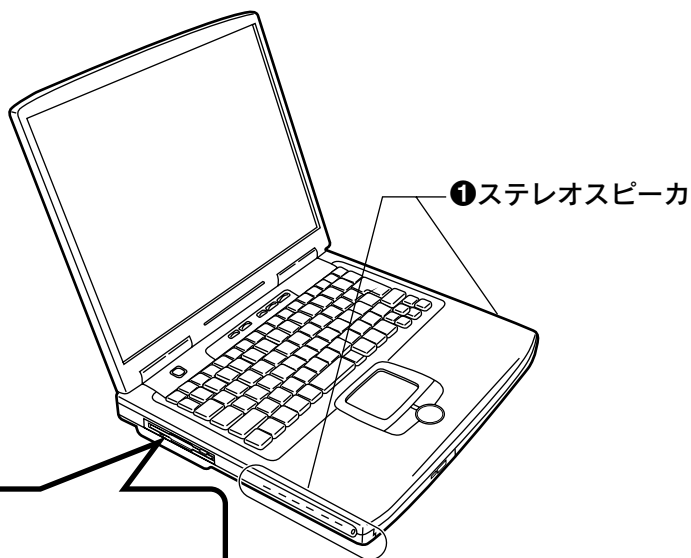
CD-R/RWドライブ
(CD-R/RWドライブモデルの場合)

コンビネーションドライブ
(コンビネーションドライブモデルの場合)

CD-ROM、CD-R/RW、またはDVD-ROMディスクを挿入します。使用できるメディアはモデルによって異なります。

左側面

STEP1

ご使用になる前に

❶ **ステレオスピーカ**
Windowsのシステム音や、マルチメディアを使用したときの音声が、ステレオで出力されます。
(☞ 99ページ)

❷ **フロッピーディスクドライブ**
フロッピーディスクを挿入します。(☞ 37ページ)

❸ **フロッピーディスクイジェクトボタン**
フロッピーディスクドライブに挿入したフロッピーディスクを取り出すボタンです。(☞ 37ページ)

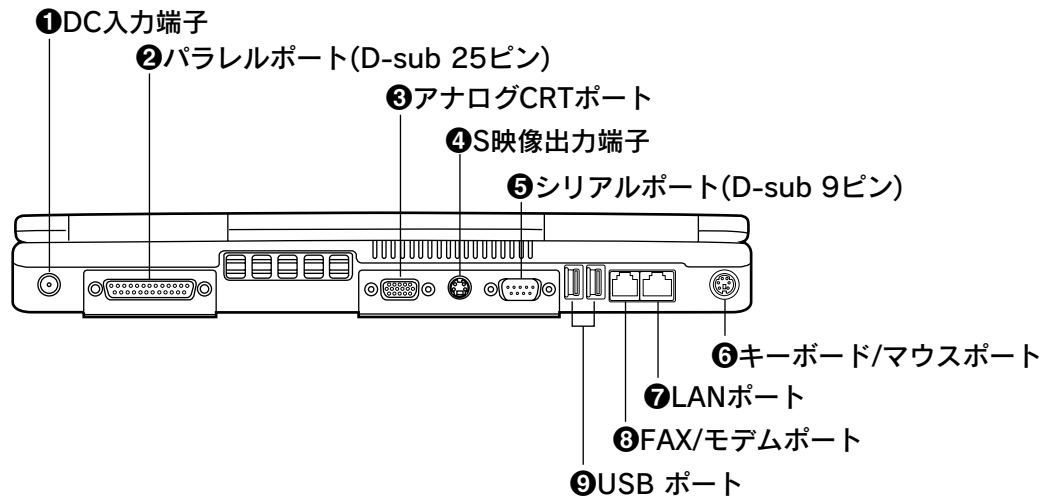
❹ **フロッピーディスクアクセスLED**
フロッピーディスクのデータを読み書き中に点灯します。(☞ 19ページ)

❺ **ボリューム**
コンピュータの音量を調整します。(☞ 44ページ)

❻ **ライン入力端子**
外部オーディオ機器を接続し、音声をコンピュータに取り込みます。
(☞ 99ページ)

❼ **ライン出力端子**
外部スピーカや市販のヘッドホンを接続します。音声はステレオで出力されます。
(☞ 98ページ)

❽ **IEEE1394(アイトリプルイー)端子(4ピン)**
DV端子付きのデジタルビデオ等を接続します。
(☞ 99ページ)

後　面

❶ DC入力端子
付属のACアダプタを接続します。
(☞ 20ページ)

・付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

❷ パラレルポート(D-sub 25ピン)
プリンタなどのパラレルポートを使う周辺機器に接続します。

❸ アナログCRTポート
外部ディスプレイを接続します。
(☞ 114ページ)

❹ S映像出力端子 Pentium 4 モデルのみ
S映像を出力する端子です。
(☞ 98ページ)

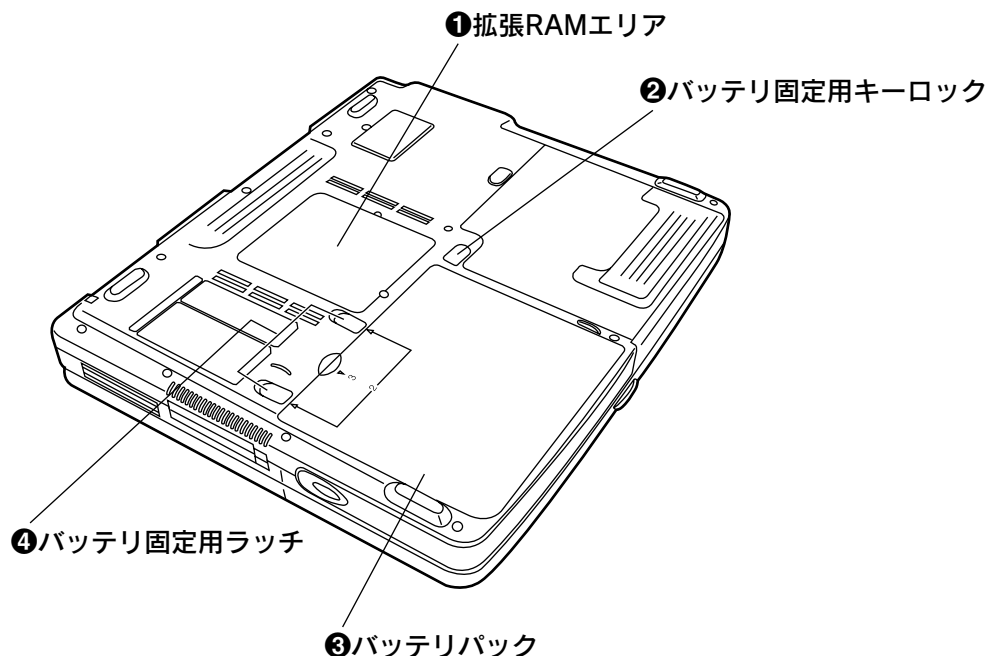
❺ シリアルポート(D-sub 9ピン)
外部モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。

❻ キーボード/マウスポート
PS/2規格のキーボードおよびマウスを接続します。
(☞ 113ページ)

❼ LANポート
10M/100Mbpsファーストイーサネット対応のLANポートです。(☞ 124ページ)

❽ FAX/モデムポート
アナログ電話回線を接続します。
(☞ 118ページ)

❾ USB（ユーエスビー）ポート
USB規格準拠の周辺機器を接続します。
(☞ 106ページ)

底　面

❶ 拡張RAM（ラム）エリア
増設メモリを装着します。
(☞ 111ページ)

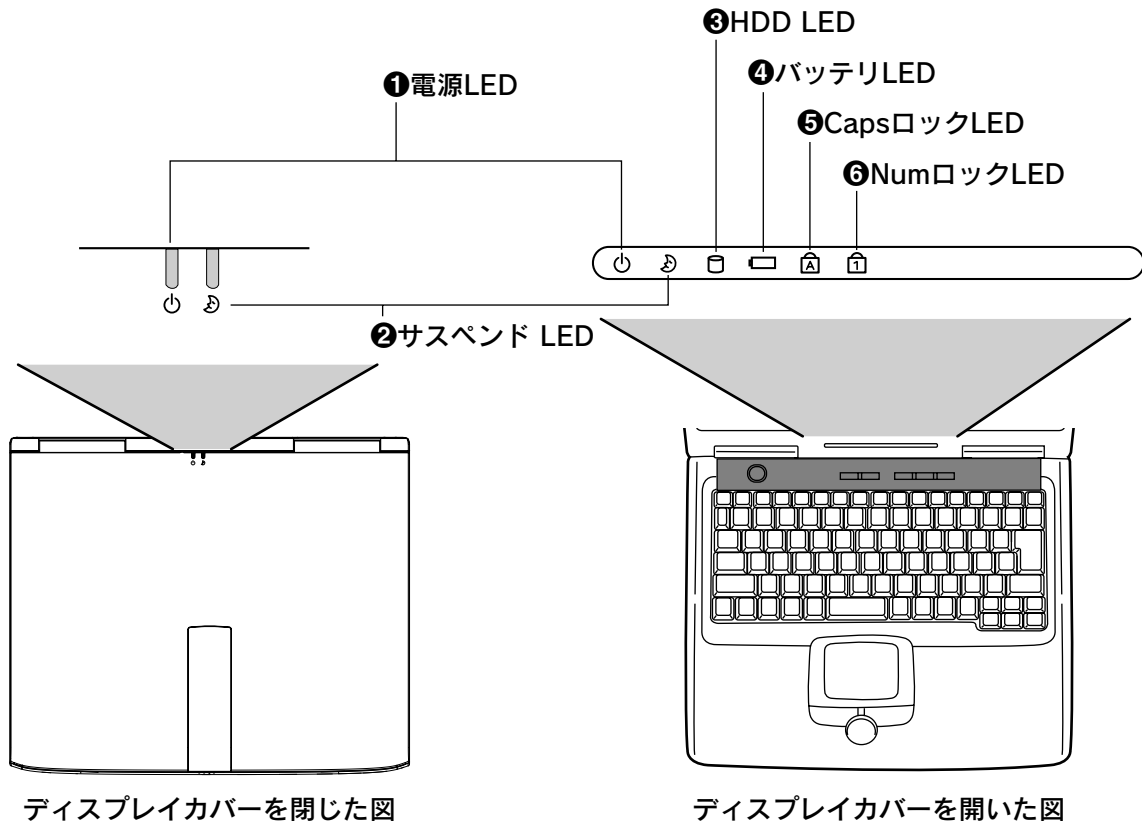
❷ バッテリ固定用キーロック
バッテリパックを取り外すときに、このキーロックをスライドさせて、ロックを解除します。
(☞ 23ページ)

❸ バッテリパック
ACコンセントが無い場所でパソコンを動作させるためのバッテリです。
(☞ 23ページ)

❹ バッテリ固定用ラッチ
バッテリパックを取り外すときに、このラッチをスライドさせながら取り外します。
(☞ 23ページ)

ステータスLEDについて

パソコンの動作状態はステータスLEDで確認できます。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。

ディスプレイカバーを閉じた図　　ディスプレイカバーを開いた図

❶ 電源LED

パソコンの電源がONのとき点灯します。
(☞ 20、24ページ)

❷ サスペンド LED

パソコンが省電力モードのとき点灯します。
(☞ 49ページ)

❸ HDD（エイチディーディー） LED

ハードディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❹ バッテリLED

バッテリの充電・放電状態が表示されます。
(☞ 20ページ)

❺ Caps（キャップス）ロックLED

[CapsLock] キーがロック状態のときに点灯します。ロック状態のときは、[Shift] キーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

❻ Num（ニューメリック）ロックLED

[NumLk] キーがロック状態のときに点灯します。

注 意

HDD LED、CD-ROM LEDおよびフロッピーディスクアクセスLEDが点灯しているときにパソコンの電源をOFFにしたりリセットしないでください。データが壊れる恐れがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにするときは5秒以上待ってから操作してください。

2 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本機の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の２通りあります。

初めて使うときは

バッテリは十分に充電されていない状態で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、ACアダプタを接続してご使用ください。
ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

警　告

・弊社純正のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

ACアダプタの接続とバッテリの充電

1 ACアダプタのプラグを、本体背面のDC入力端子に差し込みます。

2 プラグのもう一方をACコンセントに接続します。

バッテリLED(▭)が点灯し、充電が始まります。

アドバイス

使用できるAC電源は何ボルト？

本製品に付属のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。

バッテリLED(▭)が消灯したら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。
AC電源でお使いのときは、このままACアダプタを接続したままでお使いください。

・バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず「バッテリパックの交換」(☞ 23ページ)の説明に従って交換してください。
・バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生する恐れがあります。バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。バッテリの警告音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。

スタンバイと休止状態

スタンバイはアプリケーションソフトなどの動作状態をメモリに保存し、パソコンの電源をOFFにする機能です。次回、電源をONにすると、電源をOFFにした直前の状態で、パソコンが起動されます。
使用中のアプリケーションソフトを終了させることなく電源をOFFにできるので、アプリケーションソフトを起動しなおす必要がありません。ただし、スタンバイの状態では、少量の電力が消費されているため、バッテリのみで使っているときに長時間スタンバイの状態にしておくことはお勧めできません。
休止状態も電源をOFFにする直前の状態で起動させる機能ですが、動作状態をメモリではなく固定ディスクに保存するため、休止状態の間に電力を消費することはありません。
スタンバイと休止状態の設定方法は、「省電力機能について」(☞ 49～54ページ)をご参照ください。

バッテリの残量警告と終了動作の設定

バッテリ残量が少なくなってきたことを知らせる警告音と、バッテリ残量が無くなったときにパソコンをどのような状態で電源をOFFにするかを設定できます。

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]を選択します。**

2 **【電源オプションのプロパティ】ダイアログが表示されます。**

3 **[アラーム]タブを選択します。**

4 **チェックを入れると、バッテリ残量が警告表示されます。**

5 **[アラームの動作]ボタンをクリックすると、警告表示後のパソコンの動作を設定できます。**

6 **警告の通知方法を音で知らせるか、メッセージで表示させるかを選択します。**

両方を選択することもできます。

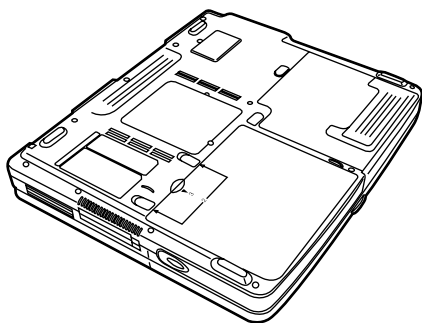
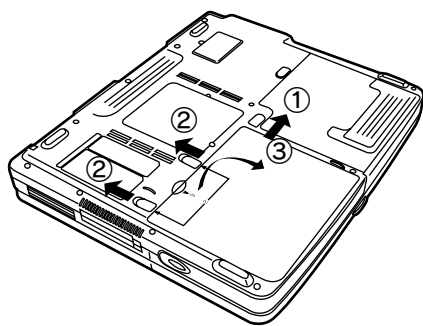
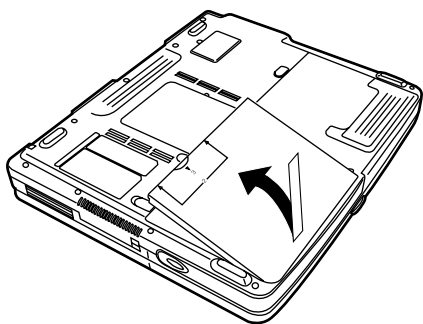
7 **警告表示後のパソコンの電源状態を、スタンバイ、シャットダウン、休止状態から選択します。**

8 **[OK]ボタンをクリックします。**

バッテリパックの交換

注　意

・弊社純正のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。爆発したり火災を起こす恐れがあります。
・バッテリパックの取り扱いについては「本製品を正しく安全にお使いいただくために」(☞ 2～5ページ)も必ずお読みください。

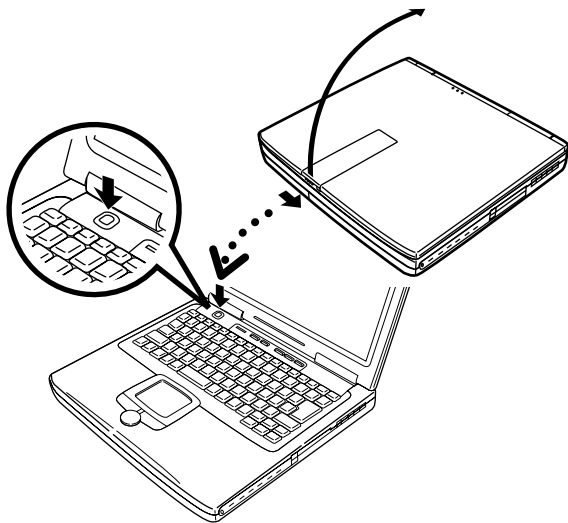
バッテリパックの交換は、電源がOFFのときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯している事を確かめてください。

1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。

2 バッテリ固定用キーロックを解除し①、バッテリ固定用ラッチを矢印の方向にスライドさせながら②、バッテリパックを持ち上げます③。

3 交換用のバッテリパックを矢印の方向にはめ込みます。

3 電源を入れる

機器の接続を確認したら、電源を入れてみましょう。

初めて電源を入れたときは

ご購入後初めて電源を入れたとき、または何らかの不具合によりリカバリCD-ROMを使用してWindows XPを再インストールした直後は、Windows XPセットアップが始まります。画面に表示される指示に従って、Windows XPセットアップを終了させてください。

1

本体の前面にあるディスプレイカバーラッチを右へスライドしてディスプレイカバーを開け、パソコンの電源ボタンをONにします。

参照

機器の接続については、付属の「WinBook WJシリーズファーストステップガイド」をご参照ください。

2

しばらくすると、Windows XPセットアップが起動します。

3

画面に表示される指示に従って、Windows XPセットアップを終了させると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

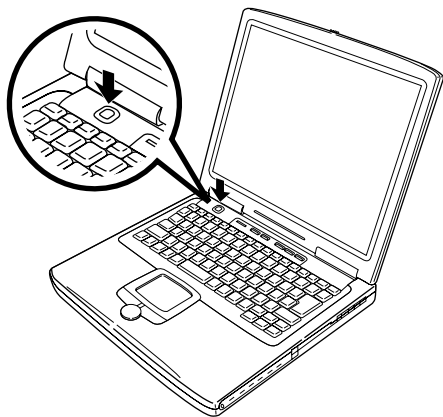
参照

Windows XPセットアップの手順については付属の「WinBook WJシリーズファーストステップガイド」をご参照ください。

※表示される画面はモデルによって異なります。

2回目以降に電源を入れたときは

Windows XPセットアップを終了させておけば、次に電源を入れたときに、そのままWindows XPのデスクトップ画面が表示されます。

1

本体の前面にあるディスプレイカバーラッチを右へスライドしてディスプレイカバーを開け、パソコンの電源ボタンをONにします。

複数のユーザーを登録している場合は、ユーザーの選択画面が表示されます。

ユーザーにパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度確認してください。Windows XPでは、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。

2

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

・パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。

・リカバリCD-ROMをCD-ROMドライブにいれたままパソコンの電源をONにすると、リカバリの開始画面が表示されてしまいます。その場合、画面の指示に従い、再インストールを中断した後、リカバリCD-ROMを取り出してから再起動してください。

4 電源を切る

パソコンを使い終わったら、電源を切りましょう。
少し休憩する間などパソコンの消費電力を抑えたいときは、省電力機能(☞ 49～54ページ)を使用できます。

電源を切る

1 **[スタート]ボタンから[終了オプション]を選択します。**

いきなり電源ボタンを押して電源を切る動作を繰り返すと、Windows XPのシステムが壊れて、Windows XPの再インストールが必要になることがあります。電源を切るときは正しい手順で操作してください。

2 **[電源を切る]をクリックします。**

[スタンバイ]の使い方については、49ページをご参照ください。

キーボードを使ってWindowsを終了するには

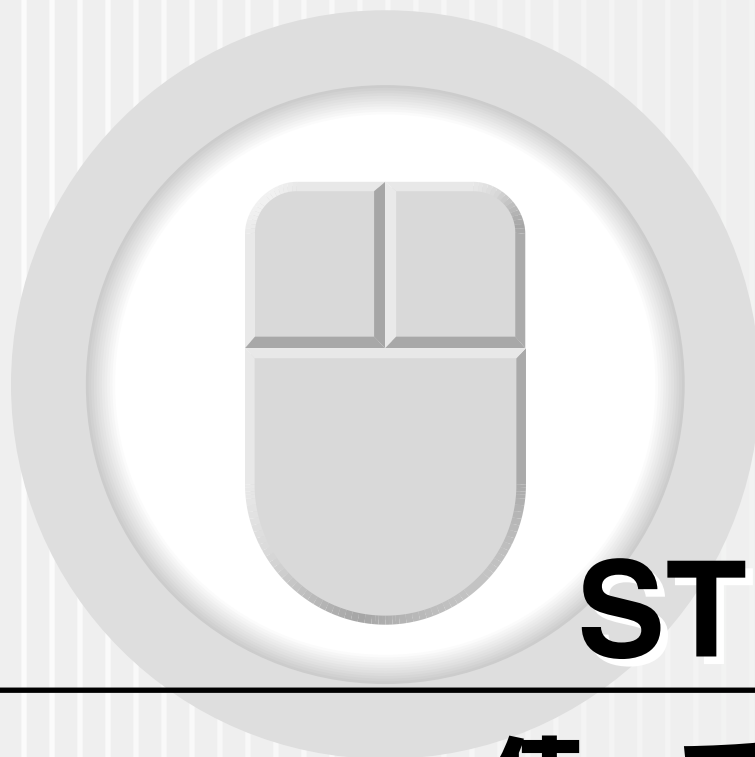
⊞キーを押し、Uキーで[終了オプション]を選択します。【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されたら、再度Uキーを押します。

3 自動的に本体の電源が切れます。
周辺機器の電源も必要に応じて切ります。

電源を切らずに再起動させる

デバイスドライバ(☞ 142ページ)のインストールが終了した後や、Windowsの動作が不安定(画面が乱れたり、画面が動かない)になったときは、次の手順で、Windowsを再起動させます。

1 **【コンピュータの電源を切る】ダイアログから[再起動]をクリックします。**

アプリケーションソフトの操作中に、マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、操作が続けられないときは、Ctrl＋Alt＋Deleteキーを同時に押すことで、特定のアプリケーションソフトを終了させることができます。

STEP2

使ってみよう

タッチパッド、キーボード、CD-ROMドライブなど、本機が標準で持っている機能について、基本的な使い方および注意事項を説明しています。
また、スタンバイ、休止状態といった省電力機能の使い方についても説明しています。本機を初めて使う方は、必ずお読みください。

1 タッチパッドを使ってみよう

本機には、マウスと同じ機能を持つ「タッチパッド」と左右2つのボタンがあります。これらを使って画面上のマウスポインタ(マウスカーソルともいう)を動かし、Windowsを操作します。

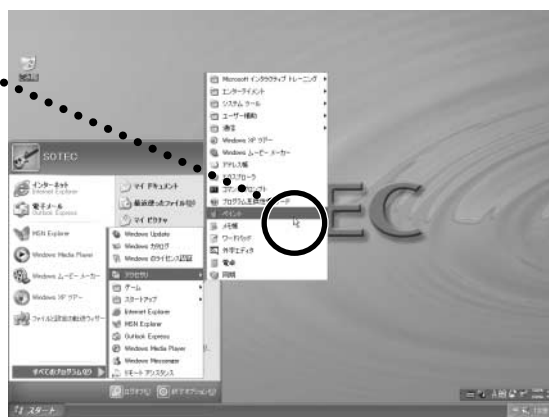
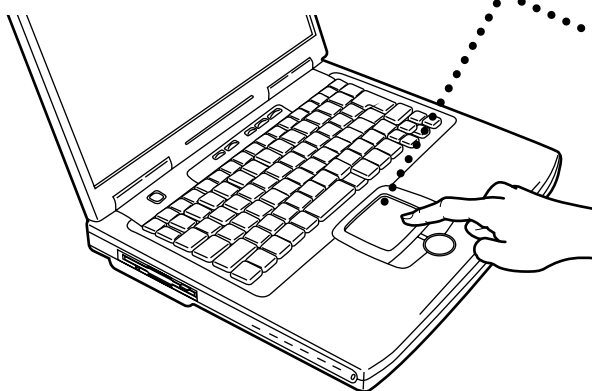
注 意

・タッチパッドをペン先などの先の尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。

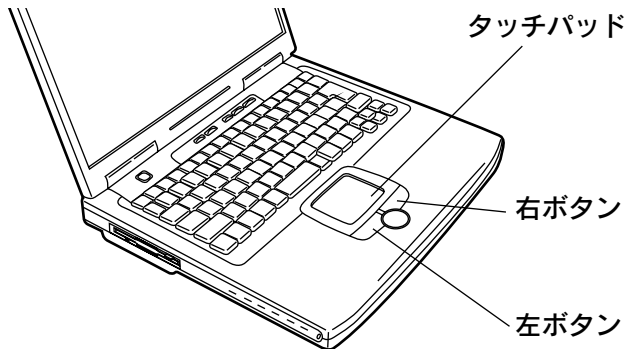
・2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂や汚れによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、十分に汚れを取りのぞいてからご使用ください。

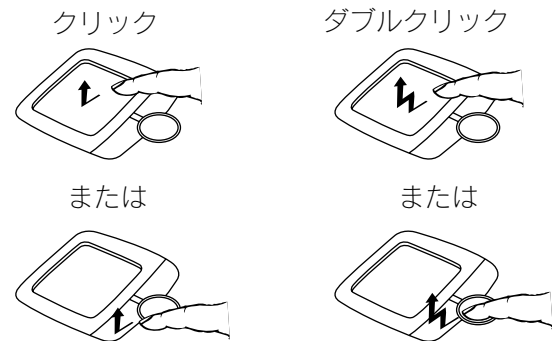
・マウスポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

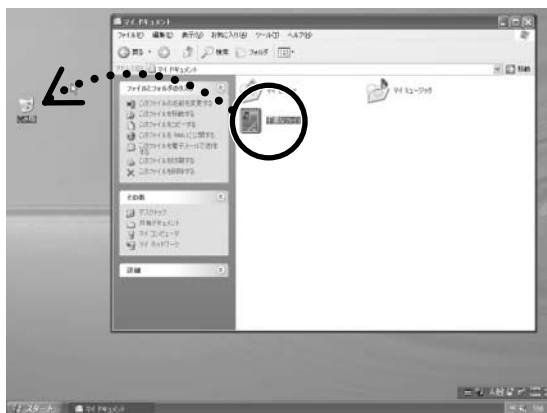
タッチパッドの名前と機能

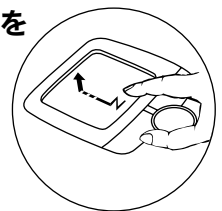
タッチパッドは、本製品のキーボードの手前中央にあります。タッチパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のマウスポインタがその動きに応じて動きます。

本製品のタッチパッドには次のような名前と機能があります。

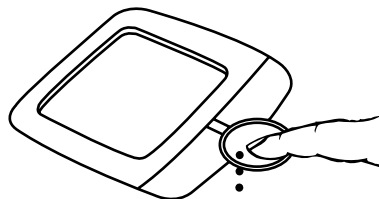
タッチパッドの操作方法

クリックとダブルクリック

クリックとは、右または左ボタンを1回押すことです。タッチパッド上を1回たたくことでもクリックできます。

ダブルクリックとは、右または左ボタンを2回押すことです。
タッチパッド上を2回たたくことでもダブルクリックできます。

ドラッグ&ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだままの状態で別の場所に動かすことです。
ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、目的の場所に置くことです。
ドラッグはアイコンなどの上にマウスポインタを移動し、左ボタンを押し続けたまま(またはタッチパッドを2回たたき)、指をタッチパッドから離さず動かしていきます。

左ボタンを押したまま動かします。

「ごみ箱」アイコンの上でボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入ります。

スクロール

スクロールボタンの上下左右を押すと、ウィンドウの画面を上下左右にスクロールできます。Webページなどではこのスクロールボタンは大変便利です。

スクロールボタンの下を押す。

画面が下にスクロールする

STEP2 使ってみよう

2 キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーは、その機能によって大きく5つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。

Windowsキー

単独で押すとWindows XPの「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows XPの代表的な機能がすぐに使えます。

[Windows]+F1	Windowsの「ヘルプとサポートセンター」を表示
[Windows]+M	ウィンドウの最小化
[Windows]+Tab	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
[Windows]+R	【ファイル名を指定して実行】ダイアログを表示
[Windows]+E	マイコンピュータを起動
[Windows]+F	ファイルとフォルダ検索画面を起動
[Windows]+Pause	【システムのプロパティ】ダイアログを表示
[Windows]+Ctrl+F	パソコンの検索画面を起動

アプリケーションキー

マウスの右ボタンに相当する機能があります。使用するアプリケーションによって動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルをご参照ください。

制御キー(薄いアミ部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、パソコンに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。
これらのキーだけを使って文字を直接入力することはできません。

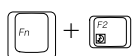
文字入力キー

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。
1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CapsLock Shift NumLk ひらがな カタカナ の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

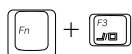
ファンクションキー(アミの部分)

制御キーの一つである Fn キーとファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、コントラストを調整できます。

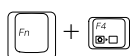
スタンバイモードに入る

Fn ＋ F2

F2 キーを1回押すと、スタンバイモード(☞ 49～51ページ)に入ります。

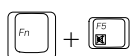
本体ディスプレイ表示か外部ディスプレイ表示かを切り替える

Fn ＋ F3

F3 キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。(☞ 114ページ)

本体ディスプレイのバックライトのON/OFFを切り替える

Fn ＋ F4

F4 キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのバックライトのON/OFFを切り替えます。

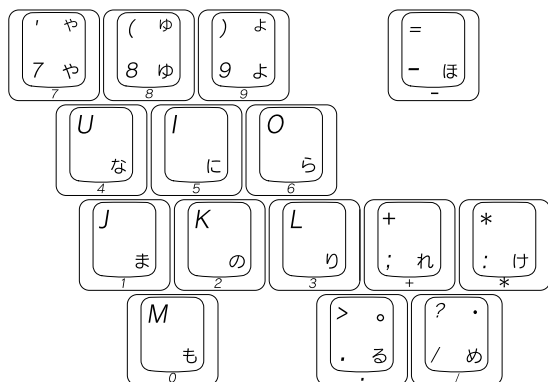
音量の出力を一時止めたり、バッテリの警告音(ビープ音)を止めます

Fn ＋ F5

F5 キーを1回押すと、音声の出力を一時止めたり、バッテリの警告音が止まります。

輝度を調整する

Fn ＋ → / ←

→ キーを押すごとにディスプレイの輝度が増大、← キーを押すごとにディスプレイの輝度が減少されます。

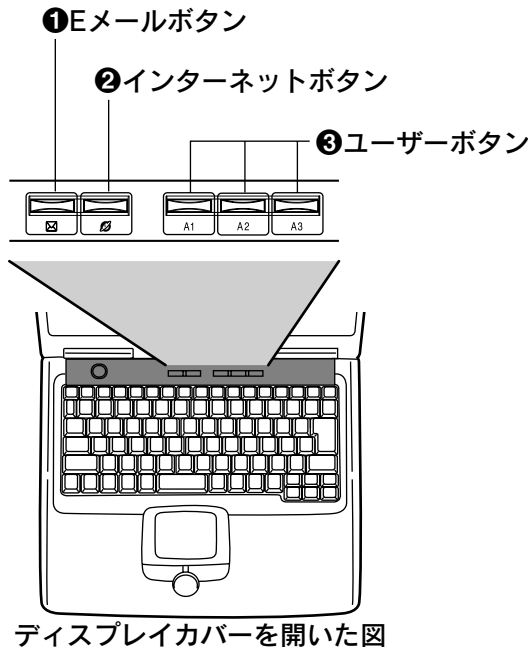
テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、Fn ＋ NumLk キーを押すことで、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができます。

外部キーボードマウスコネクタに外部キーボードが接続されているときには、テンキー機能は使用できません。

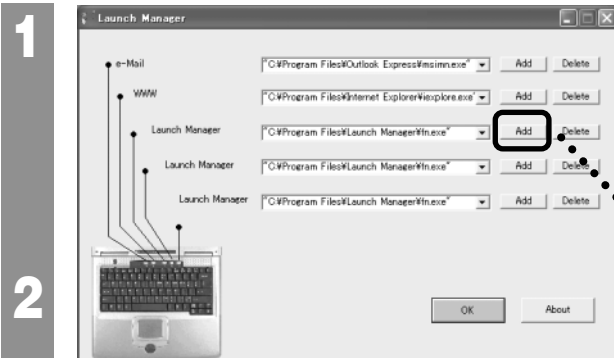
STEP2 使ってみよう

ワンタッチボタン

ボタンを押すと、ワンタッチで次の機能が使用できます。

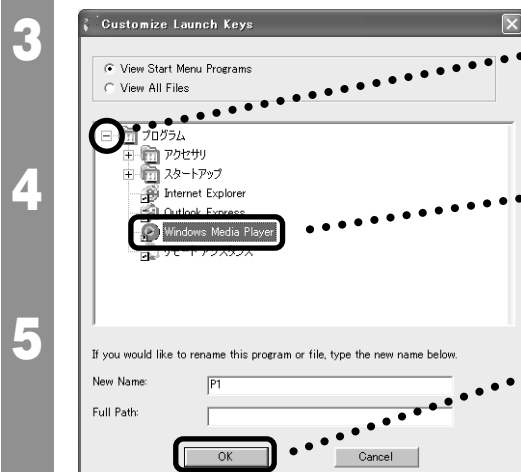
ディスプレイカバーを開いた図

❶ Eメールボタン
Outlook Expressが起動します。

❷ インターネットボタン
設定で指定したホームページにアクセスします。

❸ ユーザーボタン
ユーザーボタンに起動したいファイルやプログラムを登録することができます。

ユーザーボタンの設定

1 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[Launch Manager]→[Launch Manager]の順に選択します。**

Launch Manager が起動します。

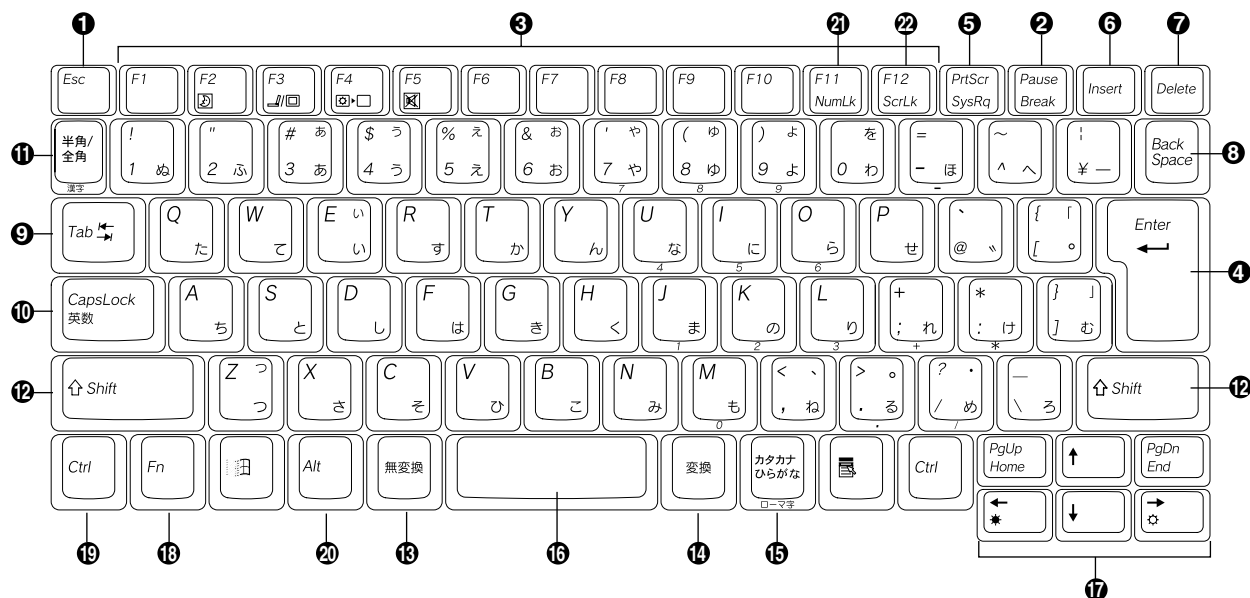
2 **使用するユーザーボタンの[Add]ボタンをクリックします。**

3 **[プログラム]の⊞の部分をクリックし、⊟に変更させます。**

4 **Windows Media Playerをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。**

5 **使用するユーザーボタンの設定部分が変更されたことを確認し、[OK]ボタンをクリックします。**

ユーザーボタンを押すと「Windows Media Player」が起動します。

各キーの機能

ここでは、キーボードの各キーの名前と機能を説明しています。

中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ Esc(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときに押します。

❷ Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ ファンクションキー

F1から F12 までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。キーを押したときの動作はアプリケーションソフトにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹ Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させる場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行ができます。

画面のハードコピーをとったり、Windowsの画面を取り込むのに使います。

❺ PrtScr(プリント・スクリーン)キー

表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻ Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼ Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

ロック状態について

キーには、1回押すと状態が固定されて、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
固定されるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。

❽ Back Space(バックスペース)キー
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

❾ Tab(タブ)キー
文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shift+Tabキーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻ります。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われます。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿ CapsLock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】
アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫ 半角/全角キー【ロックされます】
文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows XPの日本語入力システムMicrosoft IMEでは、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン、オフになります。また、Altキーを押しながらこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓬ Shift(シフト)キー
他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力ができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭ 無変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくない場合に、このキーを押すとモードが変わります。

⓮ 変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯ カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】
「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと切り替わります。また、CtrlShiftキーと同時に押すとカナキーのON/OFFが切り替わります。

⓰ スペースキー
文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース(空白)が入ります。

カーソルを動かしたりページをめくるときに使います。

⓱ カーソルキー
通常、キーに表記されている矢印の方向にカーソルが動きます。
他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲ Fn(エフエヌ)キー
キーボード上に青い文字で表記されている機能を使うときに、同時に押します。

⓳ Ctrl(コントロール)キー
文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⓴ Alt(オルト)キー
オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能を変えることができます。

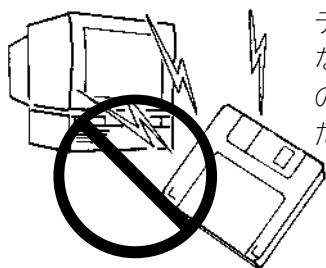
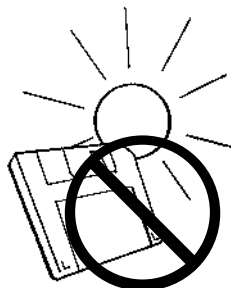
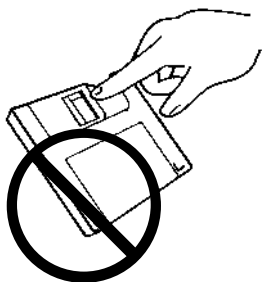
㉑ NumLk(ニューメリックロック)キー【ロックされます】
Fnキーと併用することで、キーボードの右半分を数字キーとして使えるようになります。

㉒ ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】
キーを押したときの動作は各アプリケーションソフトにより異なります。通常、Fnキーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

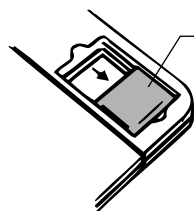
3 フロッピーディスクを使ってみよう

本機には、3.5インチフロッピーディスクドライブがあります。ここでは、フロッピーディスクを取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するときに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、パソコンの電源をオフにする前に必ずフロッピーディスクドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。

特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。

内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。

ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

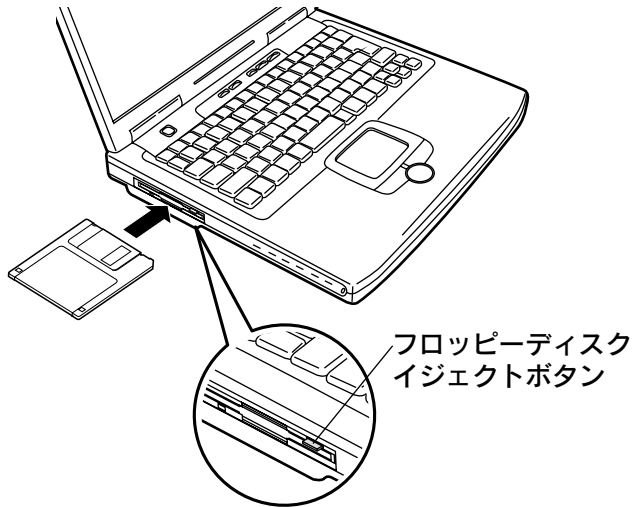
データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。
ライトプロテクトを行なうにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。

書き込み可能状態

書き込み禁止状態

■ライトプロテクトノッチが「上側」になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。

■ライトプロテクトノッチが「下側」になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

フロッピーディスクの出し入れ

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にして、フロッピーディスクドライブの中に挿入します。

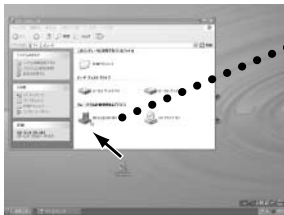
フロッピーディスクが正しくセットされると、フロッピーディスクイジェクトボタンが飛び出します。

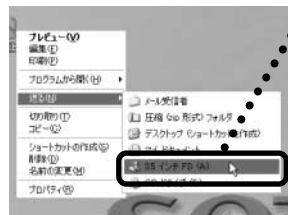
フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクアクセスLEDが点灯していないことを確認してから取り出してください。点灯しているときに取り出すと、フロッピーディスクのデータが壊れる恐れがあります。

ファイルをフロッピーディスクにコピーする

ファイルをフロッピーディスクにコピーするには、次の２通りの方法があります。

[マイコンピュータ]の中にある[3.5インチFD]のアイコンに、コピーしたいファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルを選択した状態で右クリックして表示されるメニューから、「送る」→「3.5インチFD」を選択します。

操作後、フロッピーディスクにファイルがコピーされます。

本機のフロッピーディスクドライブは、「3.5インチ2HDタイプ」と「3.5インチ2DDタイプ」のフロッピーディスクが使用できます。それ以外のフロッピーディスクは使用できません。

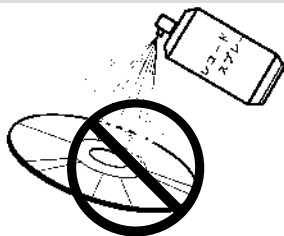
2HDと2DD

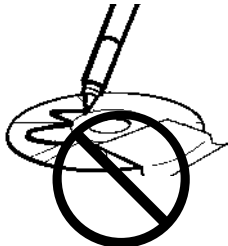
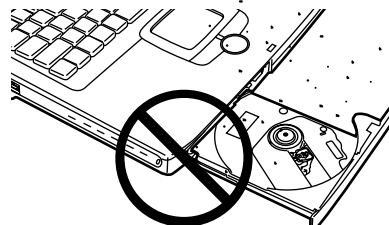
2HDは「両面高密度倍トラックタイプ」、2DDは「両面倍密度倍トラックタイプ」の略です。2HDには1.44MBの、2DDには720KBのディスク容量があります。

4 CD-ROMを使ってみよう

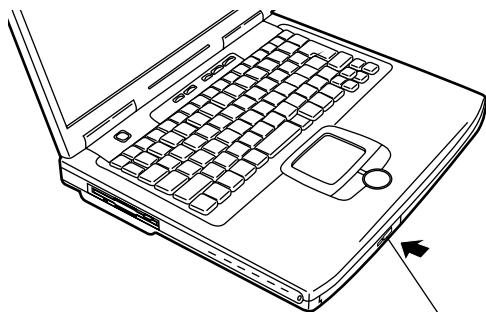
ここでは、CD-ROMを使う方法について説明します。

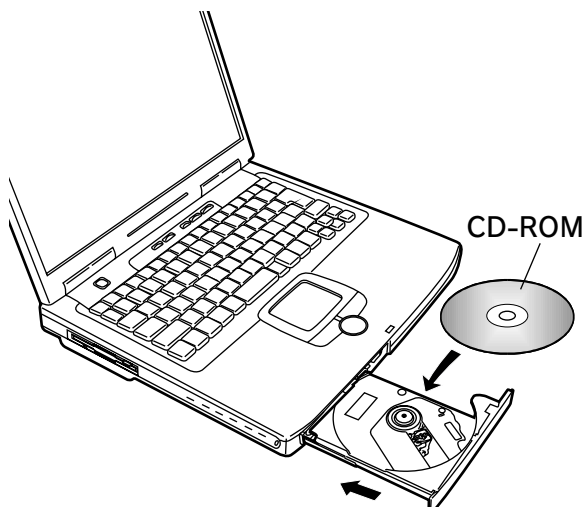
CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、パソコンの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

記録面にラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。

CD-ROMディスクの出し入れ

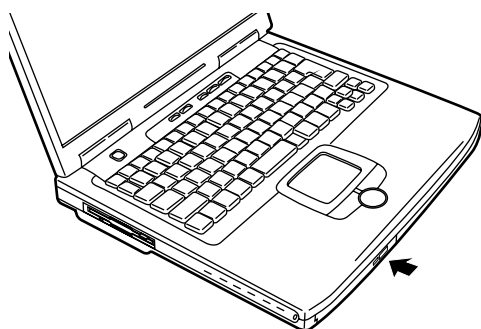
1

パソコン本体の電源がONになっているのを確認してから、CD-ROMドライブのCDイジェクトボタンを押します。

2

CD-ROMの記録面を下にして、トレイにCD-ROMをセットします。

CD-ROMディスクはトレイの中心部で固定します。「カチッ」という音がするまで確実にCD-ROMディスクをトレイにセットしてください。

3

トレイを押し込みます。

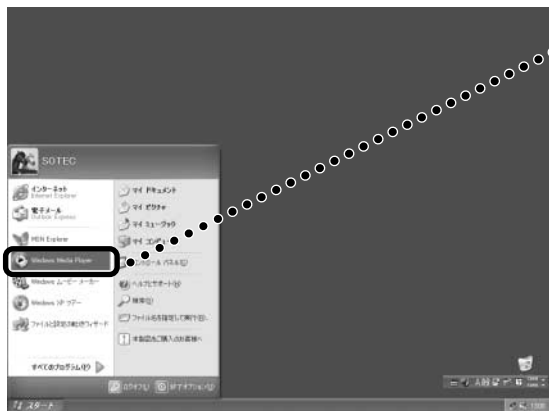
4

CD-ROMを取り出すときは、再度CDイジェクトボタンを押します。

音楽CDを聴く

音楽CDをCD-ROMドライブに入れると、自動的にWindows Media Playerが起動し、音楽CDの再生が始まります。自動的に再生が始まらない場合は、次の手順で再生してください。

1

CD-ROMドライブに音楽CDのディスクを入れます。

2

[スタート]ボタン→[Windows Media Player]の順に選択します。

「Windows Media Player」が起動します。

3
4

Windows Media Playerの(再生)ボタンをクリックします。

音楽CDを再生します。

をクリックすると、Windows Media Playerを終了します。

参照

Windows Media Playerの使い方は、Windows Media Playerのヘルプをご参照ください。

アドバイス

CD-ROMの規格について

現在市販されているCD-ROMには次のような規格があり、本機ではこれらすべての規格を再生できます。

■CD-DA、CD-Extra(エキストラ)

CD-DAは音楽用のCDです。音楽CDをCD-ROMドライブにセットし、Windows XPの「Windows Media Player」を起動して音楽を聞きます。
CD-Extraは音楽用CDですが、パソコン用のソフトや、画像、音声ファイルなどのデータも記録されています。

■CD-ROM XA

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在使われている多くのCD-ROMは、この規格に基づいています。

■Video CD

MPEG-1方式の動画を記録する規格です。Windows Media Playerで再生します。

■Photo(フォト) CD

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

■CD-R

一度だけ任意のデータの書き込みが可能なCDです。書き込めるデータ量はメディアによりさまざまです。

■CD-RW

何度でも任意でデータの書き換えが可能なCDです。書き込めるデータ量はメディアによりさまざまです。

CD-R/RWでデータディスクを作成する

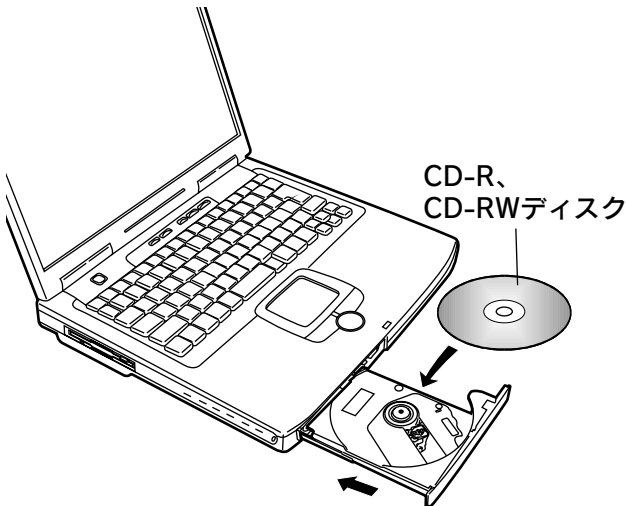
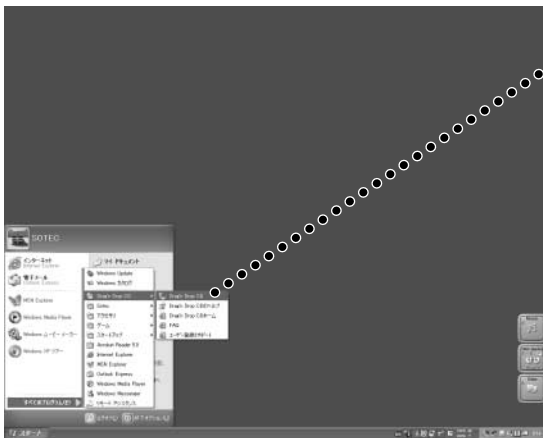
※CD-R/RWドライブモデルおよび
　コンビネーションドライブモデルのみ

CD-R、CD-RWディスクを使って、音楽CDやデータディスク(CD-ROM)の作成ができます。
CD-Rディスクを使うと、一度記録したデータを書き直すことはできません。
CD-RWディスクは記録したデータを何度でも書き換えることができます。
音楽CDやデータディスク(CD-ROM)の作成には、付属のDrag'n Drop CDを使用します。

Drag'n Drop CDを使用するには、別途インストール作業が必要です。

1

CD-ROMドライブにCD-R、またはCD-RWのディスクを入れます。

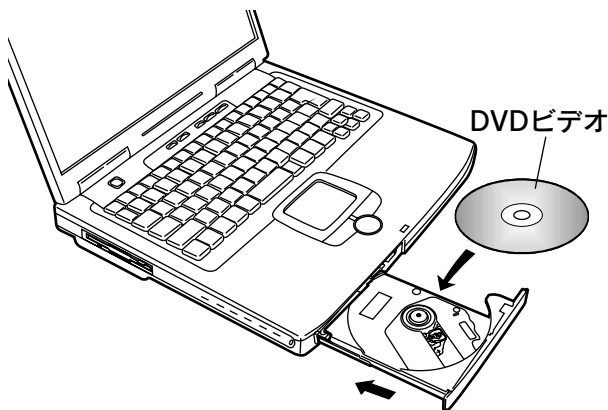
2

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[Drag'n Drop CD]→[Drag'n Drop CD]の順に選択します。

「Drag'n Drop CD」が起動します。

Drag'n Drop CDの使い方については、「Drag'n Drop CD」のオンラインヘルプをご参照ください。

DVDビデオを見る(TideoDVD)

※コンビネーションドライブモデルのみ

DVDビデオの再生は、TideoDVDを使用します。DVDビデオのディスクをCD-ROMドライブに入れると、自動的にTideoDVDが起動し、DVDビデオの再生が始まります。自動的に再生が始まらない場合は、次の手順で再生します。

TideoDVDを使用するには、別途インストール作業が必要です。

1 **CD-ROMドライブにDVDビデオのディスクを入れます。**

2 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[SOTEC]→[TideoDVD]→[TideoDVD]の順に選択します。**

「TideoDVD」が起動します。

3 **TideoDVDの再生ボタンをクリックします。**

DVDビデオが再生されます。

TideoDVDの使い方については、「オンラインヘルプ」をご参照ください。

DVDの規格について

現在市販されているDVDには次のような規格があり、本機(コンビネーションドライブモデルのみ)ではこれらすべての規格を再生できます。

■DVD-ROM

パソコンなどで作成したデータを記録したもので、DVDメディア片面(一層記録)に最大4.7GBのデータが記録されています。

■DVD-Video(DVDビデオ)

DVD-Video規格で収録された映画タイトルなどです。コンビネーションドライブモデルには、DVDビデオを再生するための「TideoDVD」が付属しています。

・コンビネーションドライブモデルに搭載されているドライブはROM(Read Only Memory)です。DVDディスクから読み込みはできますが、DVDディスクへの書き込みは一切できません。
・海外で販売されているDVDビデオの中には、本機では再生できないものもあります。

5 サウンド機能を使ってみよう

本機には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子やスピーカなどが用意されています。ここではそれらの使い方を説明します。

内蔵スピーカについて

本体にはステレオスピーカが内蔵されています。このスピーカからは次の３種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、Windowsのアクセサリの「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調整したり、ミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	ライン入力端子に接続されたマイクからの音声です。

スピーカの音量を調整する

内蔵スピーカの音量は次のように調整します。

Windowsでスピーカの音量を調整するとき

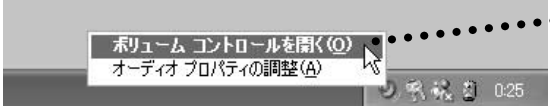
1 タスクバーの アイコンを左クリックします。

2 つまみをドラッグして調整します。
「ミュート」をチェックすると音声が消えます。

アドバイス

タスクバーに[スピーカ]アイコンを表示させるには

[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[サウンド、音色、およびオーディオデバイス]→[サウンドとオーディオデバイス]を選択すると、プロパティの画面が表示されます。[音量]のタブから「タスクバーに音量アイコンを配置する」をチェックし、「適用」ボタンを選択してください。

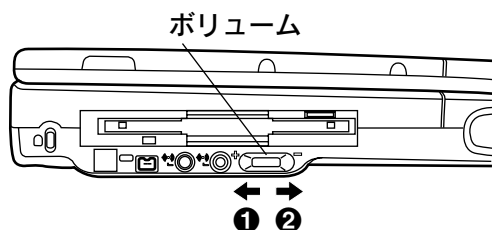
Windowsで音量の左右のバランスや、音源ごとの音量を調整するとき

1 タスクバーの[スピーカーアイコン]を右クリックします。

2 「ボリュームコントロールを開く」を左クリックします。

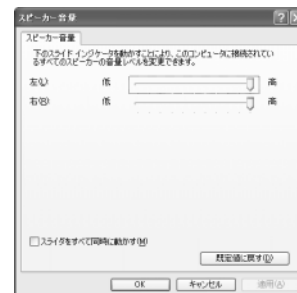
3 各音量のつまみをドラッグして調整します。

ボリュームで音量を調整するとき

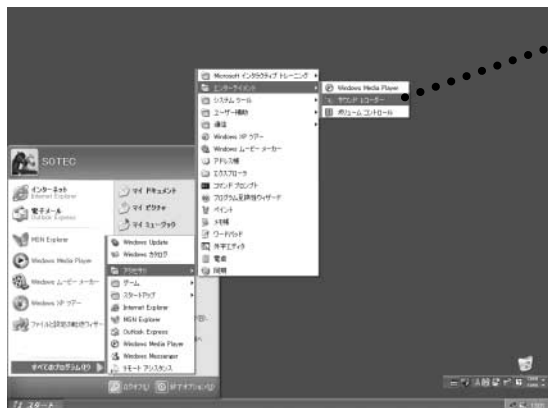
本機の左側面にあるボリュームで音量を調整できます。

■本機左側面

❶ボリュームを左に回す
：内蔵スピーカから出力される音声が大きくなります。

❷ボリュームを右に回す
：内蔵スピーカから出力される音声が小さくなります。

アドバイス
【サウンドとオーディオデバイスのプロパティ】ダイアログの[スピーカー音量]のタグ画面で、ステレオスピーカの左右の音量を別々に調整できます。

録音をする

オーディオ機器などから音声を録音するときは、Windows XPの「サウンドレコーダー」を使用します。録音した音声は、ファイルとして、本機のハードディスクに保存できます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エンターテイメント]→[サウンドレコーダー]の順に選択します。

【サウンドレコーダー】ダイアログが表示されます。

2

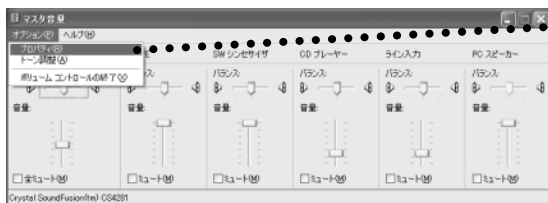
録音を始めるときは、[●]ボタンをクリックします。

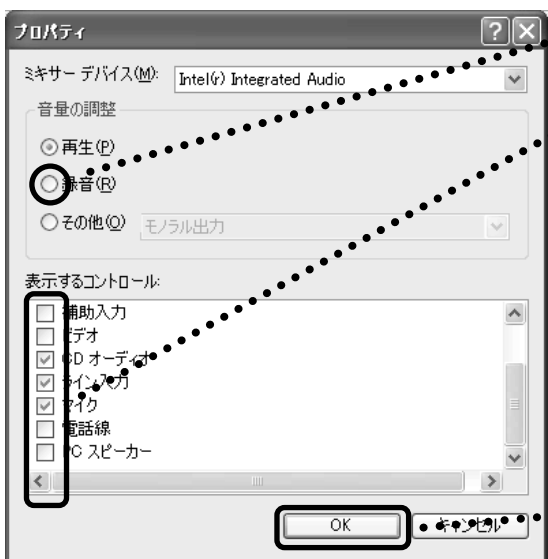
録音の音量を調整するには

本機に入力される音量が小さすぎたり、大きすぎたりするときは、Windows XPのボリュームコントロールで調整します。

1 **タスクバー上にある をダブルクリックします。**

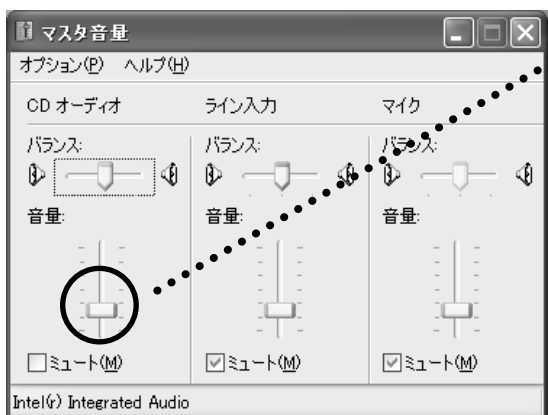
【マスタ音量】ウィンドウが表示されます。

2

マスタ音量の[オプション]から、[プロパティ]を選択します。

3
4
5

録音を選択します。

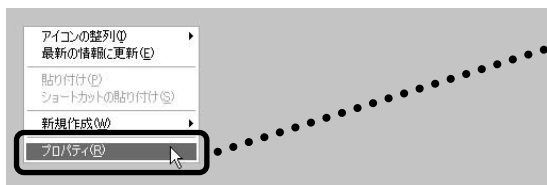
音量を調整するデバイスにチェックマークをつけます。

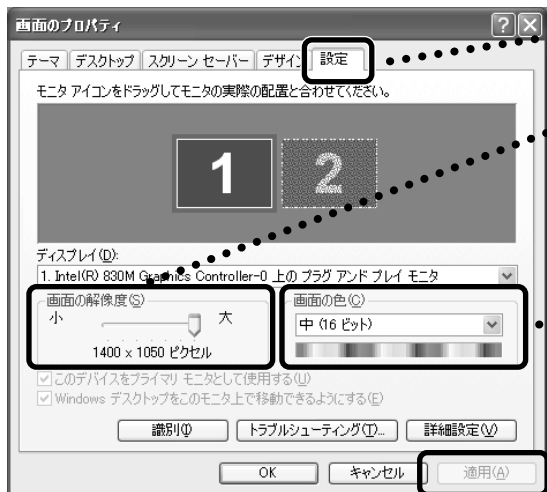
[OK]ボタンをクリックします。

6

選択したデバイスのつまみをドラッグして、音量を調整します。

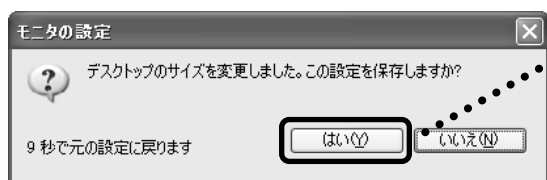
画面の解像度を変える

ディスプレイの解像度を変更して、より広い領域でWindowsを表示したり、フォントの大きさを変更して、文字をより見やすく表示させることができます。ここでは本機の解像度やフォントの大きさといった、画面の設定の変更方法について説明します。

解像度や色数を変更する場合

1 **デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。**

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 **[設定]タブを選択します。**

3 **を左右にスライドさせ、画面の解像度を選択します。**

4 **ボタンをクリックし、画面の色(表示する色数)を選択します。**

5 **[適用]ボタンをクリックします。**

6 **変更を確認するダイアログボックスが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。**

ご購入いただいたモデルによって、設定できる解像度、色数は異なります。本製品に付属の「製品仕様書」をご参照ください。

フォントサイズを変更する場合

1 **【画面のプロパティ】ダイアログで[デザイン]タブを選択します。**

2 **▼をクリックし、フォントの大きさを選択します。**

3 **[適用]ボタンをクリックします。**

しばらくするとフォントサイズが変更されます。

アプリケーションソフトによっては、インストール時などに自動的に画面設定が変更される場合があります。アプリケーションソフトに適した画面設定の変更方法については、アプリケーションソフトの取扱説明書をよくお読みください。

7 省電力機能を利用する

省電力機能の使用方法を説明します。

省電力機能について

本製品には 2 種類の省電力機能があります。
使用状況に応じてご利用ください。

スタンバイ

ハードディスクドライブ、本体ディスプレイ、本体ディスプレイのバックライトの電力消費を最小にする機能です。
スタンバイ機能は、少しの間席をはずすときなどに、バッテリの消費を抑えるのに役立ちます。

休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、電源を切る機能です。
次に起動するときに、作業を中断する前の状態で立ち上がります。

スタンバイの設定

スタンバイに入るには次の５つの方法があります。

- 「スタート」メニューからスタンバイに入る(初期設定)
- 電源ボタンでスタンバイに入る
- 液晶ディスプレイを閉じてスタンバイに入る(初期設定)
- キーボードからスタンバイに入る(初期設定)
- 自動的にスタンバイに入る

「スタート」メニューからスタンバイに入る方法

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]をクリックします。**

2 **[スタンバイ]を選択します。**

これでスタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押します。

STEP2 使ってみよう

電源ボタンでスタンバイモードに入る方法

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

2 **[詳細設定]タブをクリックします。**

3 **「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。**

4 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これで本機の電源ボタンを押すと、スタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイに入る方法

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

2 **[詳細設定]タブをクリックします。**

3 **「電源ボタン」欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。**

4 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これで液晶ディスプレイを閉じると、スタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

キーボードからスタンバイに入る方法

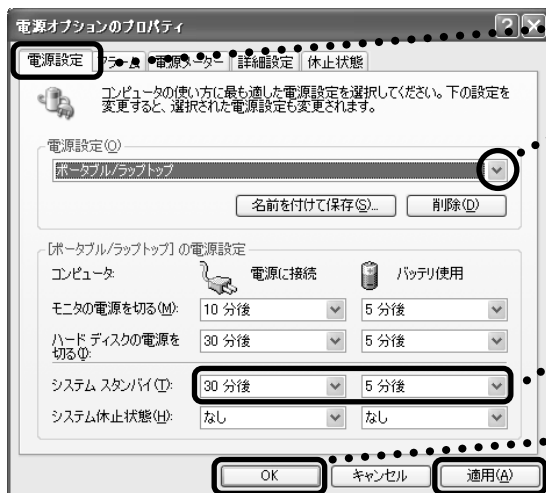
1 「電源ボタンでスタンバイに入る方法」の手順1.2を行います。

2 「電源ボタン」欄の「コンピュータのスリープボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

3 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これでキーボードのFnキーとF2キーを同時に押すと、スタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

自動的にスタンバイに入る方法

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。

2 [電源設定]タブをクリックします。

3 「電源設定」欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

4 「システムスタンバイ」欄にスタンバイに入るまでの時間を設定します。

5 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

設定した時間、本機を操作しないでいると、自動的にスタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

休止状態の設定

休止状態に入るには次の5つの方法があります。

・「スタート」メニューから休止状態に入る
・電源ボタンで休止状態に入る
・液晶ディスプレイを閉じて休止状態に入る
・キーボードから休止状態に入る
・自動的に休止状態に入る

「スタート」メニューから休止状態に入る方法

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]の順に選択します。**

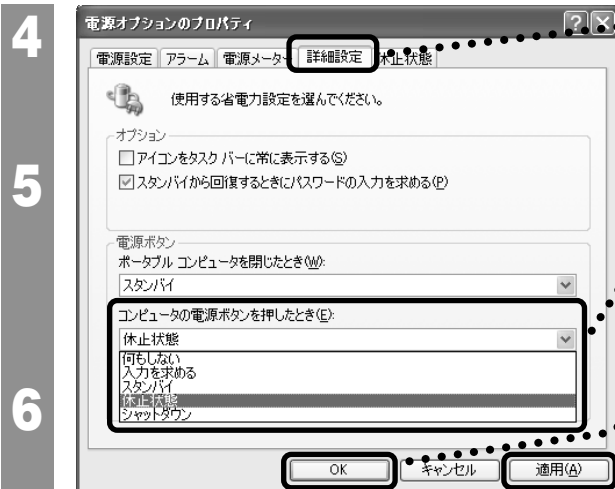
2 **Shift キーを押すと、[スタンバイ]が[休止状態]に変わりますので、Shift キーを押しながら[休止状態]ボタンをクリックします。**

これで休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

電源ボタンで休止状態に入る方法

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

2 **[休止状態]タブをクリックします。**

3 **「休止状態を有効にする」にチェックを入れて、[適用]ボタンをクリックします。**

4 **[詳細設定]タブをクリックします。**

5 **「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。**

6 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これで、本機の電源ボタンを押すと、休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

液晶ディスプレイを閉じて休止状態に入る方法

1 **「電源ボタンで休止状態に入る方法」の手順1.2.3を行います。**

2 **「電源ボタン」欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「休止状態」に設定します。**

3 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これで液晶ディスプレイを閉じると、休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

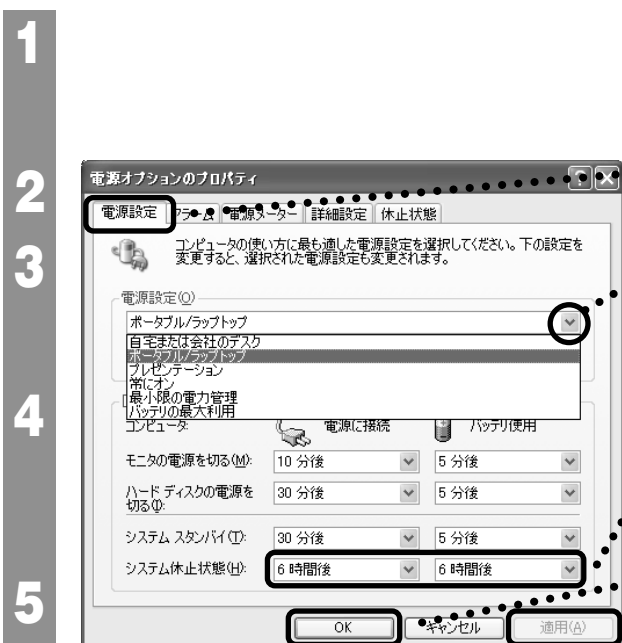
キーボードから休止状態に入る方法

1 「電源ボタンで休止状態に入る方法」の手順1.2.3を行います。

2 「電源ボタン」欄の「コンピュータのスリープボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。

3 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これでキーボードの Fn キーと F2 キーを同時に押すと、休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

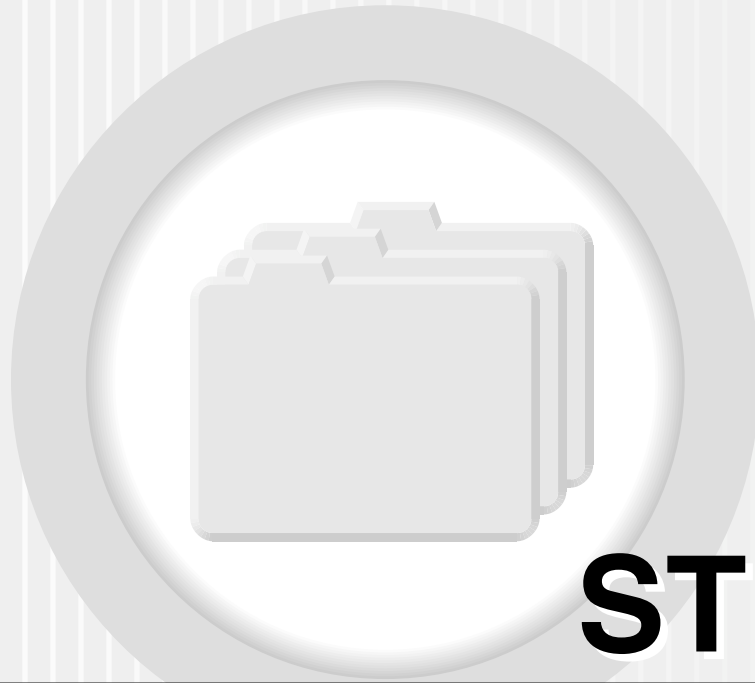
自動的に休止状態に入る方法

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。

2 [電源設定]タブをクリックします。

3 「電源設定」欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

4 「[ポータブル/ラップトップ]の電源設定」で、「システム休止状態」欄の時間を設定します。

5 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

設定した時間コンピュータを操作しないでいると、自動的に休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

STEP3

Windows XPの基本操作

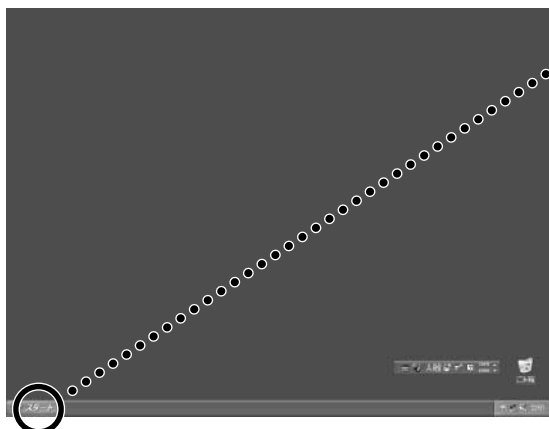
Windows XPの基本的な操作方法について説明しています。Windows XP標準の「ヘルプとサポート」の操作方法も記載していますので、Windows XPを使っていて困ったときは、この「ヘルプとサポート」でお調べください。

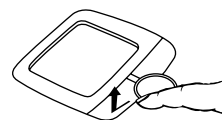
1 スタート からはじめよう

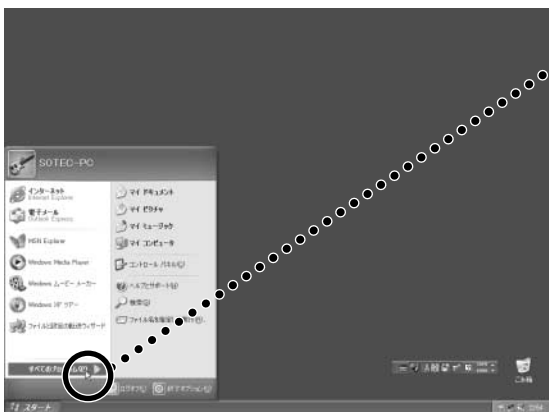
スタートメニューに登録されているアプリケーションを起動する方法と、終了する方法を「電卓」を使って説明します。

電卓を起動する

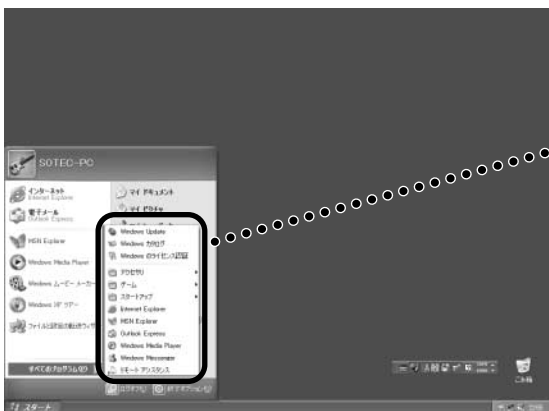
「電卓」は、[スタート]ボタンからメニューをたどって起動します。
[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[電卓]の順にメニューを選択します。

1

[スタート]ボタンにマウスポインタ( )を合わせて、タッチパッドの左ボタンをクリックします。

用語
クリック
タッチパッドの左ボタンを1度「カチッ」と押してはなすことをいいます。

【スタートメニュー】が表示されます。

2

マウスポインタを移動させて[すべてのプログラム]をポイントします。

用語
ボタンやアイコンなどにマウスポインタを合わせることを「ポイントする」といいます(クリックは必要ありません)。

ポイントすると、[すべてのプログラム]の項目が反転表示されます。そのまま少し待つと…

[すべてのプログラム]の内容が表示されます。

3

マウスポインタを右へ移動させて、[アクセサリ]をポイントします。

4

さらにマウスポインタを移動させて、[電卓]をクリックします。

手順3と同じように操作して[電卓]をポイントします。「電卓」が反転表示されたらクリックしてください。

[電卓] が起動します。電卓を使ってみましょう。

ボタンが少し違うだけで、普通の電卓と機能はほとんど同じです。ここは説明なしで、さっそく計算してみましょう。

1024×16÷24＝ を計算してみてください。

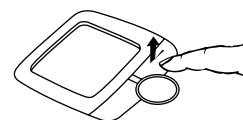
数字は、簡単にクリックできたと思います。でも「×」や「÷」はどこでしょう？
「×」は「＊」、「÷」は「/」を使います。

また、各ボタンは、キーボードにも対応しています。電卓のボタンをポイントして右クリックすると、が表示されます。ヘルプ(W)をクリックすると、対応するキーボードのキーが表示されます。

用語

右クリック

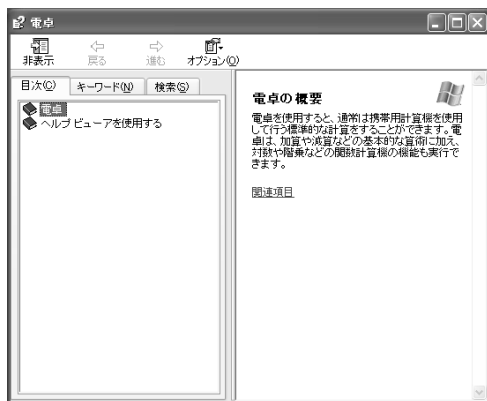
タッチパッドの右ボタンを1度「カチッ」と押してはなすことをいいます。

STEP3 Windows XPの基本操作

詳しい説明を知りたいときは…

1

ここでは誌面の都合上、電卓の詳しい使いかたについては説明していません。詳細は、電卓のヘルプをご覧ください。

[ヘルプ]をクリックし、メニューの中の[トピックの検索]をクリックします。

2

電卓のヘルプが表示されます。

ヘルプの使いかたについては、このマニュアルの「ヘルプの使いかた(☞ 85ページ)」を参照してください。

電卓を終了する

いろいろな計算を試してみましたか？キリの良いところで、そろそろ電卓を終了しましょう。

1

☒ **ボタンをクリックします。**

電卓が閉じます。

2 ウィンドウの操作

[マイコンピュータ]の中には、このパソコンが搭載しているハードディスクやフロッピーディスク、CD-ROMドライブなどのアイコンが入っています。ここでは、マイコンピュータを使ってウィンドウの操作を説明します。

マイコンピュータを開く

マイコンピュータを開いて、中の様子を見てみましょう。

1

[スタート]ボタンをクリックして、[マイコンピュータ]を選択します。

【マイコンピュータ】ウィンドウが開きます。

2

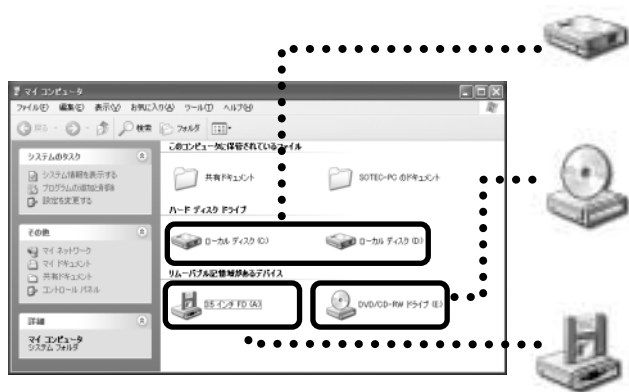
【マイコンピュータ】ウィンドウには、タイトルバーとメニューバー、ツールバーがついています。今は名前と位置だけ覚えておいてください。

タイトルバー
このウィンドウの名前が表示されます。右端には、ウィンドウのサイズを変えたり、ウィンドウを閉じたりするボタンがあります。(☞ 74ページ)

メニューバー
[ファイル]～[ヘルプ]までの文字の部分をクリックすると、それぞれに分類されている機能のメニューが表示されます。

ツールバー
メニューバーの機能の中で、よく使う機能をアイコン化したボタンが並んでいます。クリックすると、その機能を使うことができます。

マイコンピュータの中は・・・？

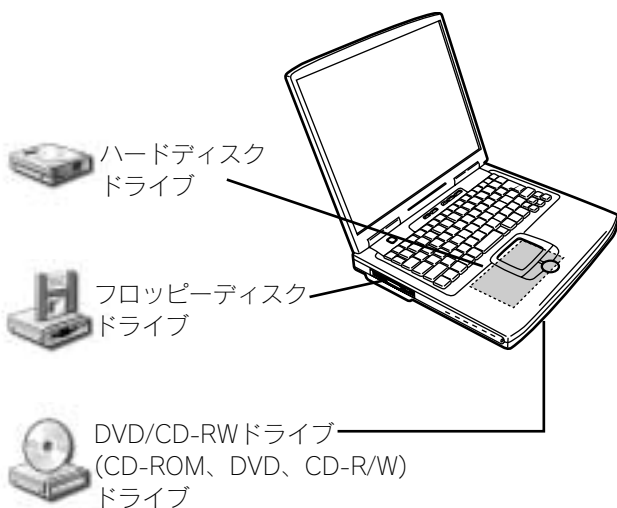
【マイコンピュータ】のウィンドウにあるアイコンについて説明します。

ローカルディスク
ハードディスクドライブです。

DVD/CD－RW ドライブ
CD-ROM ドライブ、DVD またはCD-R/W ドライブです。モデルによって、ドライブの名称が異なります。

3.5インチ FD
3.5インチフロッピーディスクドライブです。
ドライブ番号は A: です。

パソコンで説明すると次のようになります。

ディスクとドライブの違いは？

アドバイス

ディスクは、プログラムやデータを記録するための媒体で、フロッピーディスク、CD-ROM、CD-RW、DVD-ROMなどがあります。ドライブは、ディスクに記録された内容を読み出したり、逆にディスクに書き込んだりするための装置を指します。このパソコンは、フロッピーディスクドライブとハードディスクドライブ、CD-ROM ドライブを搭載しています。

C:ドライブを開く

C: ドライブの中には何が保存されているか見てみましょう。

1

[ローカルディスク(C:)]アイコンをダブルクリックします。

ここに、 C: ドライブの情報が表示されます。
開く前に、ある程度の情報を見ることができます。

今度は、実際に開いてみましょう。

2

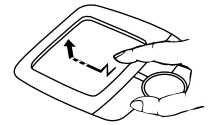
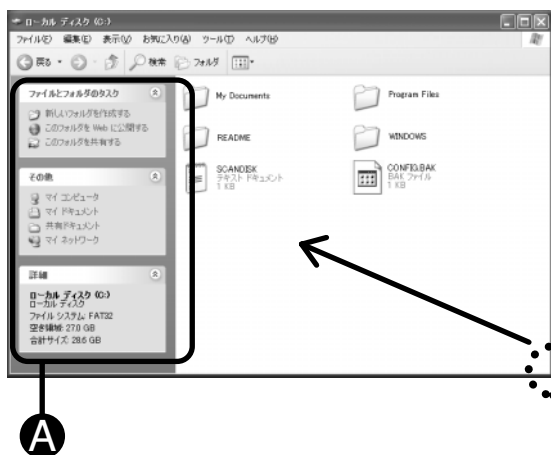
C: ドライブに保存されているファイルやフォルダのアイコンが表示されます。

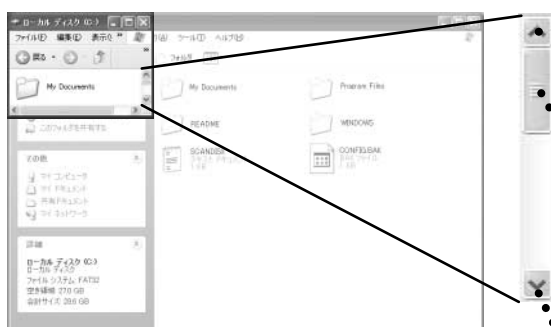
このようにドライブアイコンをダブルクリックすることを「ドライブを開く」といいます。

ウィンドウのサイズを変更するときは・・・
ここをポイントして、マウスポインタの形が から に変わったら、ドラッグしてウィンドウの大きさを調節します。

ドラッグ

タッチパッドのボタンを押したまま、マウスポインタを移動させることをいいます。

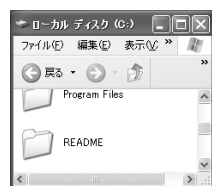
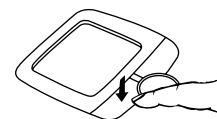
A

試しに、ドラッグして小さくしてみてください。

ウィンドウが小さいときは情報(A の部分)の表示が変わります(表示が省略されます)。
また、ウィンドウが小さくなってすべてのアイコンを表示しきれなくなると、スクロールバーが現れます。

スクロールバー
ここをクリックするとウィンドウ内の表示が下にスクロールします。つまり、上に隠れているアイコンが見えるようになります。プレスしている間はスクロールし続けます。

ここを上下にドラッグすると、ウィンドウの中もスクロールします。上にドラッグすると表示は下に、下にドラッグすると表示は上にスクロールします(文章ではややこしそうですが、実際にドラッグしてみてください。すぐに理解できるでしょう)。

ここをクリックするとウィンドウ内の表示が上にスクロールします。つまり、下に隠れているアイコンが見えるようになります。プレスしている間はスクロールし続けます。

下方にスクロールしたウィンドウ

用　語

プレス
タッチパッドのボタンを押したままにすることをいいます。

C:ドライブを閉じる

開いたウィンドウを閉じるには、いくつか方法があります。
ここでは、閉じるボタンとメニューバーから閉じる方法について説明します。

閉じるボタンを使う方法

1

(閉じる)ボタンをクリックします。

すぐに、ウィンドウが閉じます。

メニューバーから閉じる方法

1

メニューバーの[ファイル]をクリックします。

メニューが表示されます。

メニューの[閉じる]をクリックします。

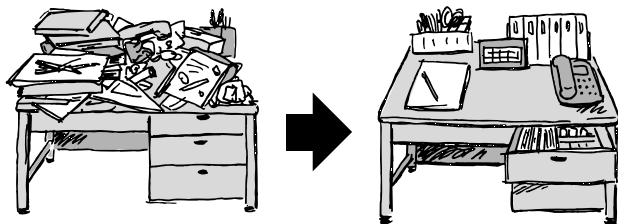
すぐに、ウィンドウが閉じます。

3 ファイルの操作

パソコンで作った文書やイラストのファイルは、1つのフォルダに詰め込んだり、あちらこちらに分散しないよう、きちんと整理しましょう。

整理のしかた

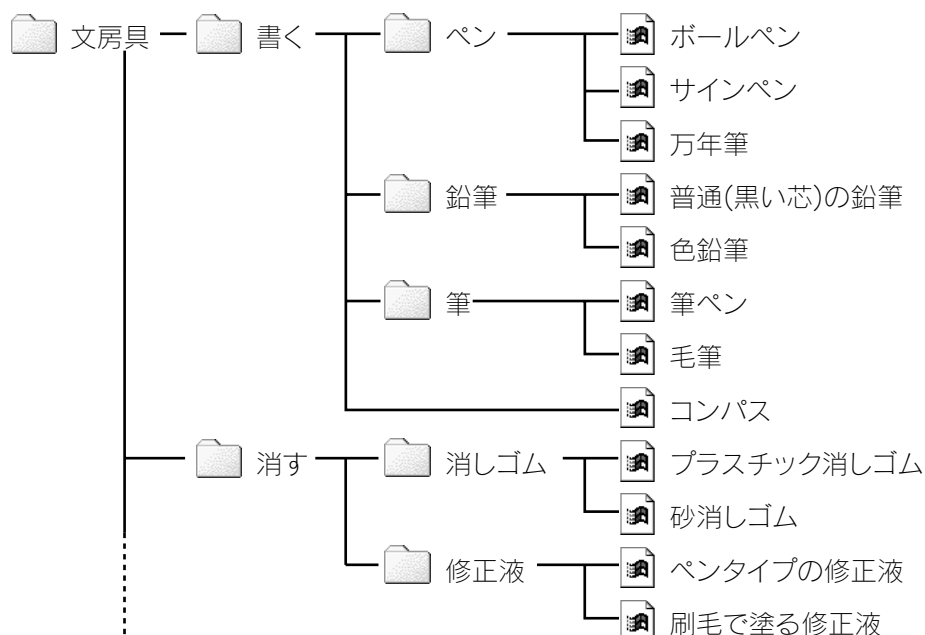
文書やイラストのファイルはフォルダを使って整理します。
ここではファイルを文房具、フォルダを引き出しや棚などにたとえて説明します。

分類して整理する

ボールペンやサインペン、ハサミやペーパーナイフ、クリップやステープラーなど、全てを机の上に散らかしておくと、ほしいものを探すだけでたいへんです。

本は本立てに、ペンはペン立てに、よく使うハサミや定規は上の引き出しに、あまり使わない資料は下の引き出しに…と、ルールを決めて分類しましょう。

Windows XPの場合は…

文房具は全て「ファイル」に相当します。机の上は、「デスクトップ」です。デスクトップには最初の起動時から、「マイ ドキュメント」というフォルダがありますし、「ごみ箱」だってあります。机の引出しは、マイコンピュータの中の「ドライブ」に相当します。引出しの中には「フォルダ」を入れることができて、ファイルが分類しやすくなっています。

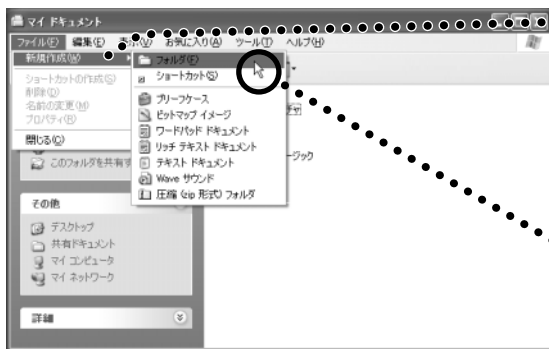
例えば、文房具をファイルとして機能別に分類すると、次のようになります。どうですか、分類するとわかりやすいでしょう？

新しいフォルダを作る

新しいフォルダを[マイドキュメント]の中に作ってみましょう。

1

スタートボタンをクリックし、[マイドキュメント]をクリックします。

【マイドキュメント】ウィンドウが開きます。

2

メニューバーの[ファイル]をクリックし、メニューの[新規作成]をポイントします。

[フォルダ]をクリックします。

3

マイドキュメントの中に「新しいフォルダ」という名前のフォルダができます。

フォルダの名前が反転表示されている場合は、名前を変更することができる状態になっていることを示しています。今は、名前を「新しいフォルダ」のままにしておいてください。
「新しいフォルダ」から、すこしはなれた場所で左クリックすると、反転表示が解除されて、通常の表示に戻ります。

フォルダをもうひとつ作る

前ページで紹介した方法とは別に、右クリックで表示されるメニューからフォルダを作る方法を説明します。

1

[マイドキュメント]フォルダの中の空白部分にマウスポインタを合わせて右クリックします。

メニューが表示されます。

2

[新規作成]をポイントします。

[フォルダ]をクリックします。

3

マイドキュメントの中に「新しいフォルダ(2)」という名前のフォルダができます。名前は「新しいフォルダ(2)」のままにしておいてください。

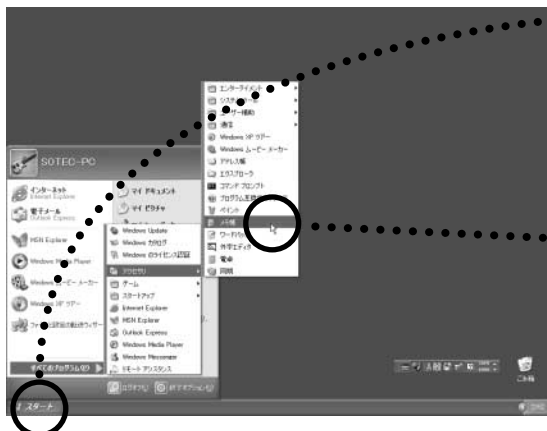
[新しいフォルダ(2)]アイコンから、すこしはなれた場所で左クリックすると、反転表示が解除されて、通常の表示に戻ります。

フォルダにファイルを保存する

フォルダができたので、中に入れるファイルを作ってみましょう。

試しにメモ帳でファイルを作る

ここでは「メモ帳」を使って文書ファイルを作ってみましょう。

1

[スタート]ボタンをクリックします。

[プログラム]→[アクセサリ]とメニューをたどり、[メモ帳]をクリックします。

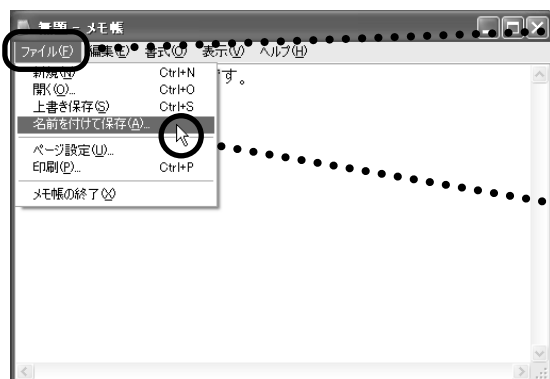
2

「メモ帳」が開きます。

何か文字を入力してみてください。
あなたの名前など、どんな文章でもかまいません。

ファイルを保存する

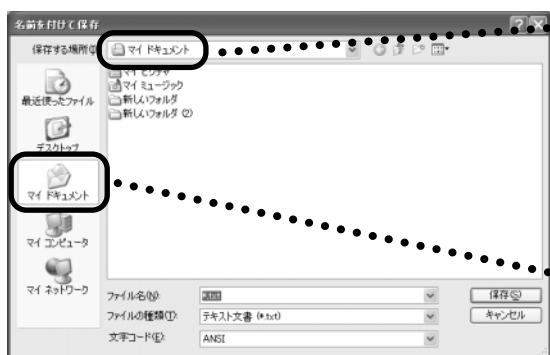
前ページで作ったファイルを、「新しいフォルダ」に保存してみましょう。

1

メニューバーの[ファイル]をクリックします。

メニューが表示されます。

メニューの[名前を付けて保存]をクリックします。

【名前をつけて保存】ダイアログが表示されます。

2

保存する場所を指定します。

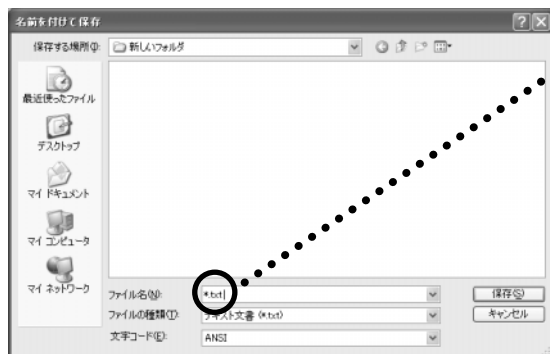
「保存する場所」はここでは「マイドキュメント」を指定します。

「保存する場所」が「マイドキュメント」になっていない場合は、【名前を付けて保存】ダイアログの左にある[マイドキュメント]アイコンをクリックします。

3

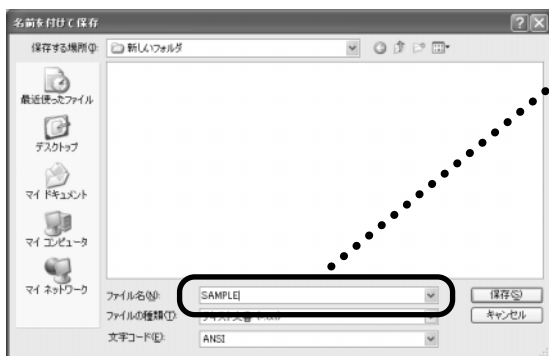
[新しいフォルダ]アイコンをダブルクリックします。

「保存する場所」が「新しいフォルダ」に変わります。

4

[ファイル名]の入力フィールドをクリックします。

入力フィールドにマウスポインタを合わせると、マウスポインタの形が から に変わります。これは、文字を入力するモードになったことを示しています。

ファイル名に、すでに「無題」と表示されている場合は、文字の後ろの空いているところをクリックして、BackSpaceキーを押して、文字を消してください。

5

ファイル名を入力します。

ファイル名は「SAMPLE」にしておきましょう。
キーボードから[S][A][M][P][L][E]と入力します。

デスクトップ右下のインジケータに[あ]というアイコンがあるときは、文字入力モードが「ひらがな」になっています。この状態で[S][A][M][P][L][E]とキーを押すと「さMPえ」や「さｍｐえ」と表示されたり、英字でも「SAMPLE」や「sample」のようにアンダーライン付きで(未変換として)表示されることがあります。
ここでは、インジケータの[あ]をクリックして表示されるメニューから[直接入力]を選択して、アイコンを[_A]に変えてから再度入力してください。

6

[保存]ボタンをクリックします。

メモ帳を終了する

メモ帳を終了しましょう。

1

タイトルバーの[×]ボタンをクリックします。

すぐに、メモ帳が閉じます。

ファイルを保存した後に、ファイルの内容に変更があった場合、変更を保存して終了するか、保存しないで終了するか確認のために【上書き保存】ダイアログが表示されます

ファイルを移動・コピー・削除する

ファイルを、フォルダ間で移動したり、コピー(複写)や、削除する方法について説明します。

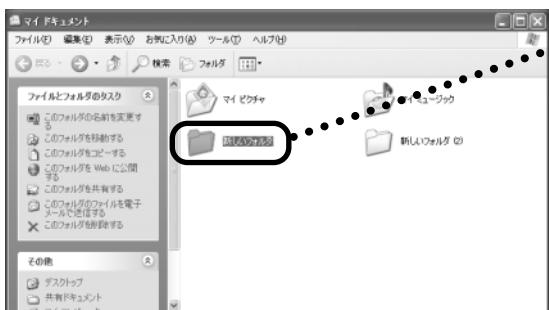
2つのフォルダを開く

準備として、デスクトップに2つのフォルダを開いておきましょう。

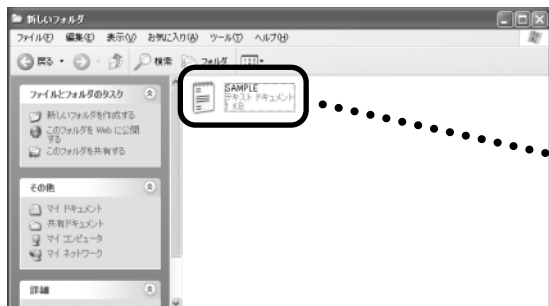
1

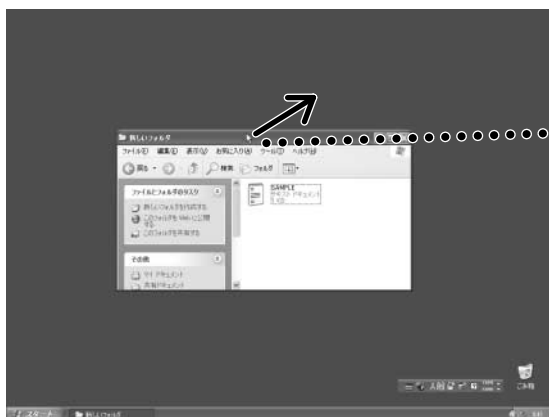
[スタート]ボタンをクリックし、[マイドキュメント]をクリックします。

【マイドキュメント】ウィンドウが開きます。
「新しいフォルダを作る」(☞ 65ページ)で作成したフォルダが2つあります。
「フォルダにファイルを保存する」(☞ 67ページ)で保存した「SAMPLE」ファイルは、「新しいフォルダ」というフォルダに入っているはずです。さっそく開いてみましょう。

2

[新しいフォルダ]アイコンをダブルクリックします。

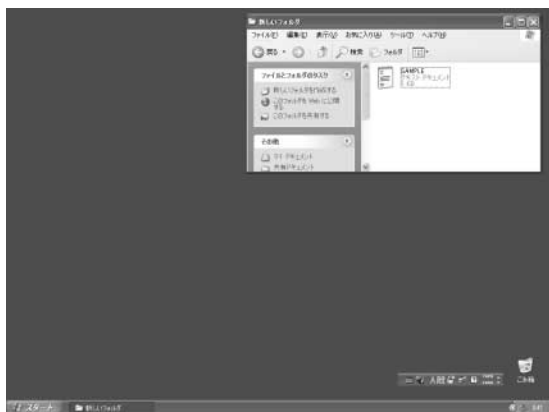
【新しいフォルダ】ウィンドウが開きます。

3

「フォルダにファイルを保存する」(☞ 67ページ)で保存した「SAMPLE」ファイルがありました。

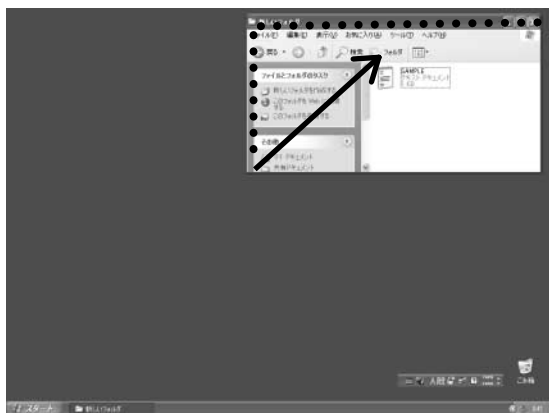
4

もうひとつフォルダを開きたいので、ウィンドウの位置とサイズを変えておきましょう。

ウィンドウを移動させます。

【新しいフォルダ】ウィンドウの**タイトルバーの青い部分**にマウスポインタを合わせ、ドラッグしてください。ウィンドウと同じサイズの枠が移動します。

5

今は、右端に寄せておきましょう。枠の右端が画面の右端に合ったら、タッチパッドのボタンをはなしてください。

これでウィンドウが移動しました。

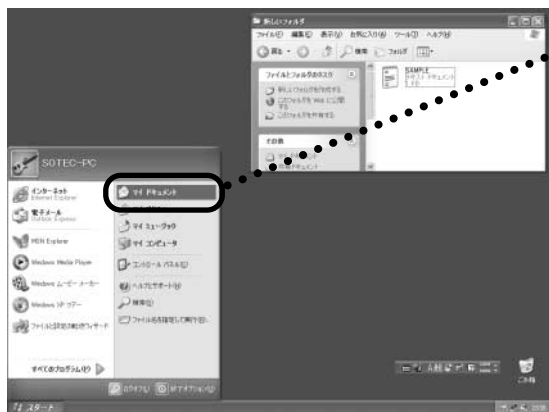
6

ウィンドウを小さくします。

【新しいフォルダ】ウィンドウの**左下の角**にマウスポインタを合わせます。マウスポインタが から に変わったらそのままドラッグしてください。

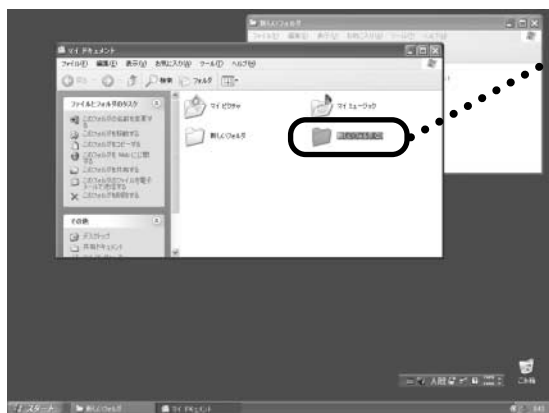
左右のサイズが画面の半分くらいの大きさになったら、タッチパッドのボタンをはなしてください。

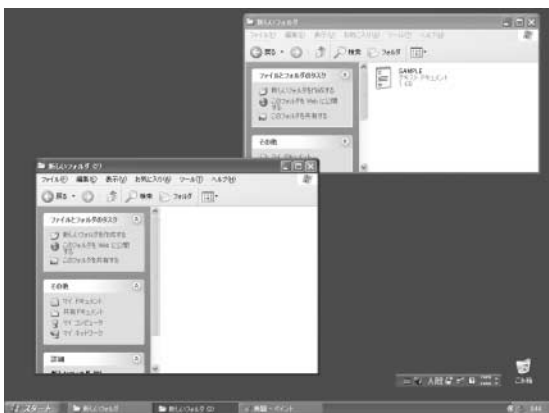
これでウィンドウが小さくなりました。

[新しいフォルダ(2)]を開く

1

[スタート]ボタンをクリックし、[マイ ドキュメント]をクリックします。

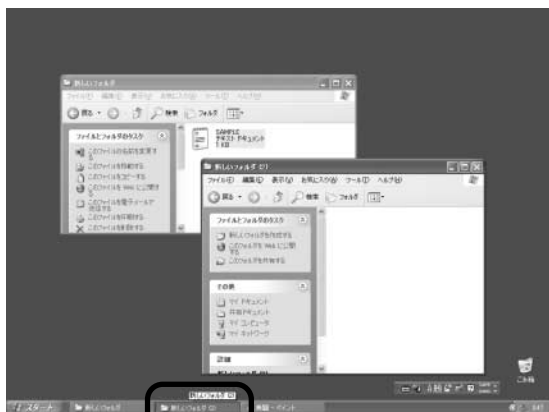
【マイドキュメント】ウィンドウが開きます。

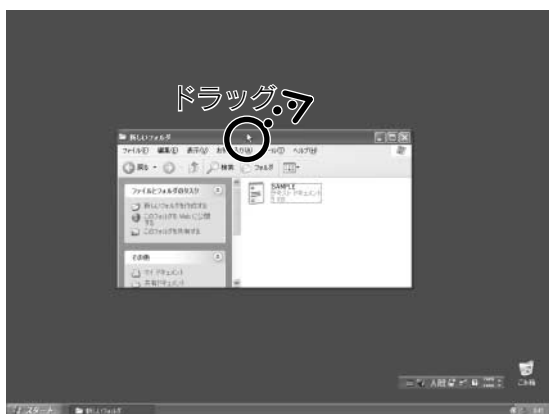
2

[新しいフォルダ(2)]アイコンをダブルクリックします。

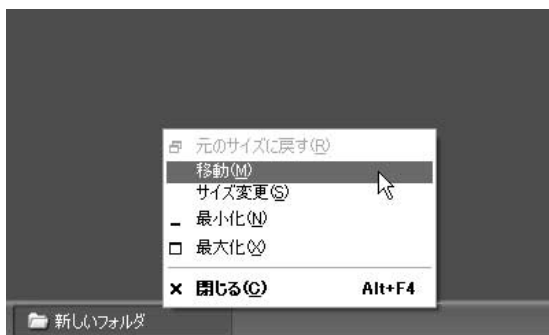
3

【新しいフォルダ(2)】ウィンドウが開きます。
フォルダの中身は空っぽのはずです。

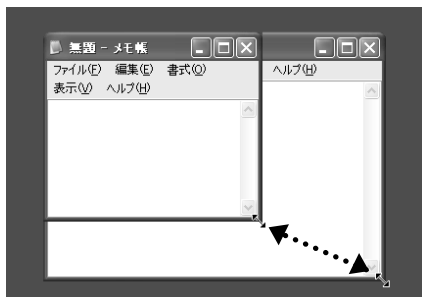
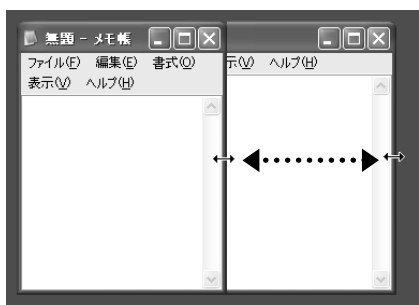
ウィンドウの操作について

いくつかのウィンドウを開くと、ウィンドウが重なりあって見えにくくなります。そういうときは、ウィンドウの位置や大きさを変えて、必要な部分が見えるようにします。

●目的のウィンドウを一番手前にもってくる

画面にウィンドウを表示すると、そのウィンドウに対応するボタンが画面下のタスクバーに表示されます。タスクバーに表示されたボタンをクリックすると、そのウィンドウは一番手前に表示されます。

●ウィンドウの位置を変える

ウィンドウの位置を変える(移動する)ときは、そのウィンドウのタイトルバーをドラッグします。

●タイトルバーが見えなくなってドラッグできないときは

画面下のタスクバーに表示されているボタンを右クリックして、表示されるメニューの[移動]をクリックします。ウィンドウの4辺がグレー表示され、ポインタが から に変わるので、キーボードのカーソルキーを押してウィンドウを移動します。

●ウィンドウの大きさを変える

ウィンドウの角にマウスポインタを合わせると・・・
ウィンドウの角にマウスポインタを合わせると、マウスポインタの形状が から や に変わります。その状態でドラッグすると、その角を作っている2つの辺が移動します(対角側は移動しません)。

ウィンドウの辺にマウスポインタを合わせると・・・

ウィンドウの辺にマウスポインタを合わせると、マウスポインタの形状が から↔や ↕ に変わります。その状態でドラッグすると、その辺が移動します(他の辺は移動しません)。

●タイトルバーのボタンについて

タイトルバーの右側にある3つのボタンは、それぞれ、次のような機能を持っています。

● タスクバーにいれてしまう(最小化する)

ボタンをクリックするとウィンドウが閉じて、タスクバーにボタンとして表示されます。タスクバーのボタンをクリックすると、ボタンを押す前のウィンドウ表示(位置も大きさも元通り)に戻ります。

● 画面(デスクトップ)いっぱいに表示する（最大化する)

ボタンをクリックするとウィンドウが画面(デスクトップ)いっぱいに表示されます。最大化するとボタンはボタンに変わります。

● 最大化したウィンドウを元に戻す

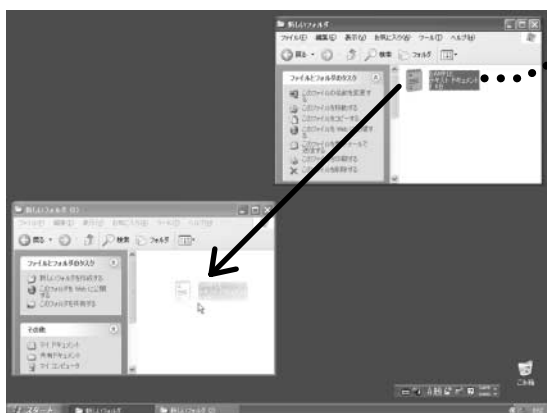
ボタンをクリックすると、ボタンを押す前のウィンドウ表示(位置も大きさも元通り)に戻ります。元に戻すと、ボタンはボタンに変わります。

● ウィンドウを閉じる(終了する)

ボタンをクリックすると、そのウィンドウを閉じます。タスクバーの表示もなくなります。

ファイルを移動する

[SAMPLE]ファイルを[新しいフォルダ(2)]に移動させてみましょう。

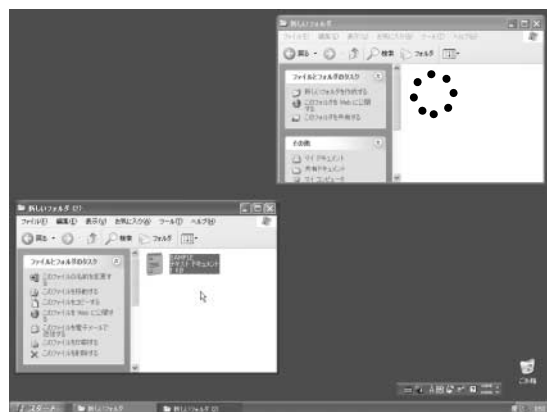
1

[SAMPLE]を【新しいフォルダ(2)】ウィンドウまでドラッグします。

操作を間違えた！

アドバイス

●誤って[SAMPLE]アイコンをダブルクリックすると、「メモ帳」が起動してしまいます。【メモ帳】ウィンドウの ✕ をクリックして「メモ帳」を終了してください。

●ドラッグ中にデスクトップに落としてしまった場合は、デスクトップから【新しいフォルダ(2)】までドラッグしなおしてください。

2

ボタンをはなすと、移動が完了します。

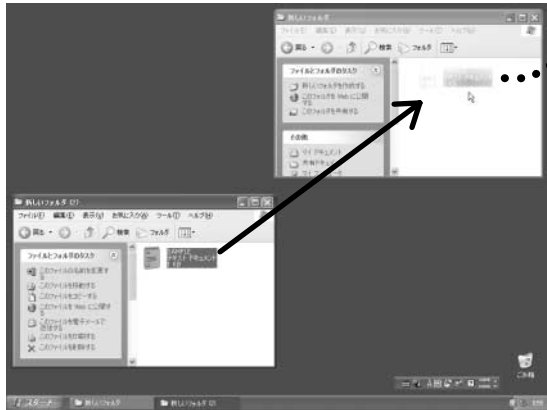
このように、ファイルをドラッグして、他に移動することを「ファイルをドラッグアンドドロップで移動する」といいます。

2つのフォルダが同じドライブにある場合は、このようにドラッグアンドドロップすると「移動」になります。

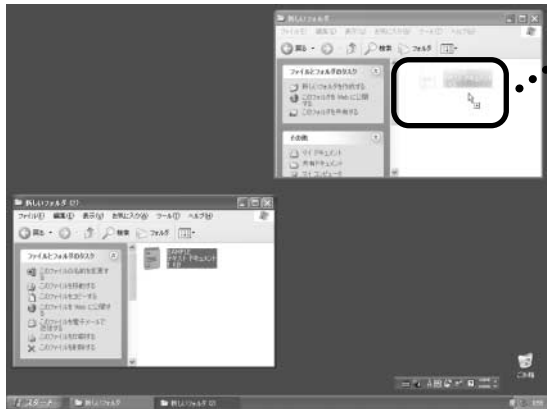
元のフォルダにファイルを残したまま、他のフォルダにも同じファイルが必要なときは、「コピー(複写)」を使います。次は、コピーをしてみましょう。

ファイルをコピーする

【新しいフォルダ(2)】の[SAMPLE]ファイルを、【新しいフォルダ】ウィンドウにコピーしてみましょう。

1

[SAMPLE]を【新しいフォルダ】ウィンドウまでドラッグします。

まだタッチパッドの左ボタンは押したままです。

2

Ctrl キーを押します。

まだタッチパッドの左ボタンは押したままです。

Ctrl キーを押している間は、マウスポインタが から に変わります。

3

Ctrl キーを押したままマウスの左ボタンをはなします。

[新しいフォルダ]に[SAMPLE]ファイルがコピーされました。

Ctrl キーを押すタイミング

ドラッグ中か、移動(/コピー)先のウィンドウにマウスポインタが入っていたら Ctrl キーを押してください(マウスポインタを から に変える)。

ドラッグアンドドロップのテクニック

2つのフォルダ間で、ドラッグアンドドロップを使い、ファイルを移動・コピーするときのテクニックについて説明します。

●2つのフォルダが同じドライブにある場合

ファイルをドラッグして、移動(コピー)先のウィンドウ内に入ってもマウスポインタは のままです。

移動するには	←このポインタを使います。何もキーを押さずに、マウスポインタが のままドラッグアンドドロップします。
コピーするには	←このマウスポインタを使います。Ctrl キーを押し、マウスポインタを に変えてからドラッグアンドドロップします。

●2つのフォルダが違うドライブにある場合

ファイルをドラッグして、移動(コピー)先のウィンドウ内に入るとマウスポインタが から に変わります。

移動するには	←このマウスポインタを使います。Shift キーを押しながらドラッグアンドドロップします。
コピーするには	←このマウスポインタを使います。何もキーを押さずに、マウスポインタが のままドラッグアンドドロップします。

複数のアイコンを選択するテクニック

複数のファイル(アイコン)を選択して、一度に移動(コピー)する方法を説明します。

●範囲指定する

1

範囲の開始点にマウスポインタを合わせてタッチパッドの左ボタンをプレスします。

開始点をプレスするときには、まだアイコンが選択(反転表示)されないようにアイコンのちょっと外側でプレスしてください。

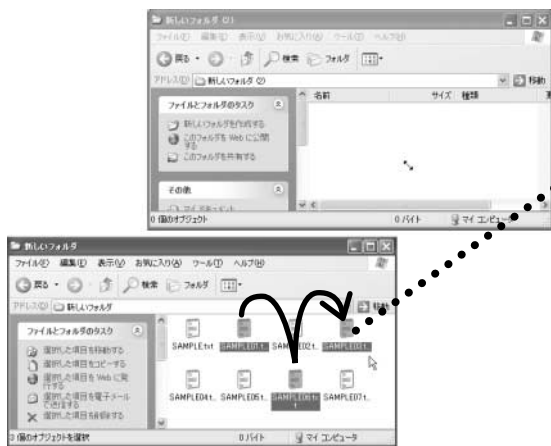
2

そのまま終了点までドラッグして、範囲を指定します。

選択されたアイコンは反転表示されます。必要なファイルのアイコンが全て反転表示されたらタッチパッドのボタンをはなしてください。これで範囲指定できました。

「●ドラッグアンドドロップする」へ進んでください。
(☞ 78ページ)

1

●個別に指定する

Ctrl キーを押します。

Ctrl キーは、押したままにしておいてください。

Ctrl キーを押したまま、必要なファイルのアイコンをクリックしていきます。

選択されたアイコンは反転表示されます。選択したアイコンをもう一度クリックすると、選択からはずされます。

必要なファイルのアイコンをすべて反転表示させたら Ctrl キーをはなしてください。

これで個別に指定できました。

次(**●ドラッグアンドドロップする**)へ進んでください。

2

●ドラッグアンドドロップする

ファイルが1つのときと同じように移動(コピー)先にドラッグします。

・反転表示しているアイコンならどれでもかまわないので、1つをドラッグしてください。それで、反転表示しているファイル全てが移動(コピー)の対象となります。

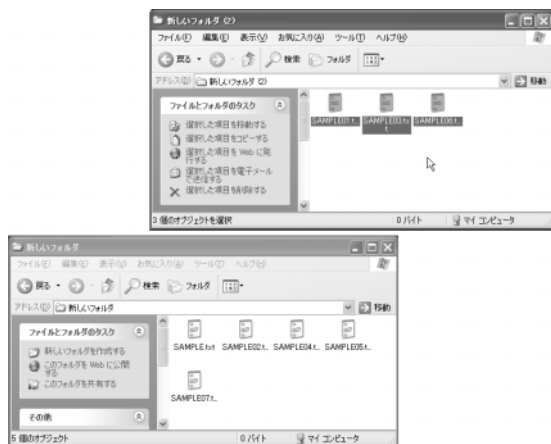
・操作を誤って、反転表示されなくなったら、手順1からやり直してください。

・移動・コピーの切り替え(Ctrl ・ Shift キーの)操作もファイルが1つのときと同じです。

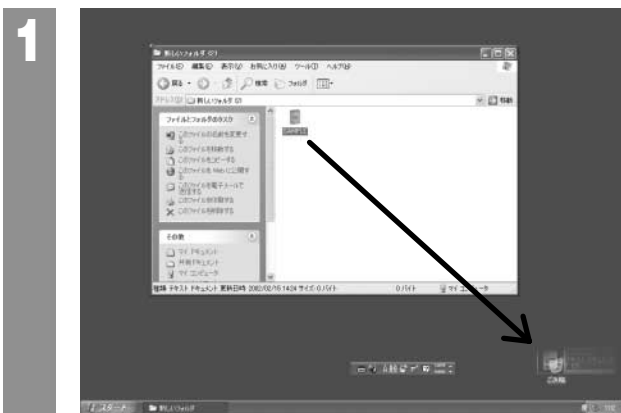
3

タッチパッドのボタンをはなします。

選択した数が多くて、移動(コピー)先のウィンドウからいくつかのアイコンがはみ出しても、**マウスポインタがそのウィンドウの中に入っていれば大丈夫です。**

選択したファイルが移動(コピー)されます。

ファイルを削除する(ごみ箱に捨てる)

必要のなくなったファイルやフォルダを[ごみ箱]を使って削除する方法について説明します。
先程コピーした[SAMPLE]ファイルを削除してみましょう。

1

[SAMPLE]ファイル を[ごみ箱]に移動します。

ドラッグアンドドロップしてください。ドラッグアンドロップによる「移動」の方法は覚えていますね？ごみ箱のアイコンが から に変わります。

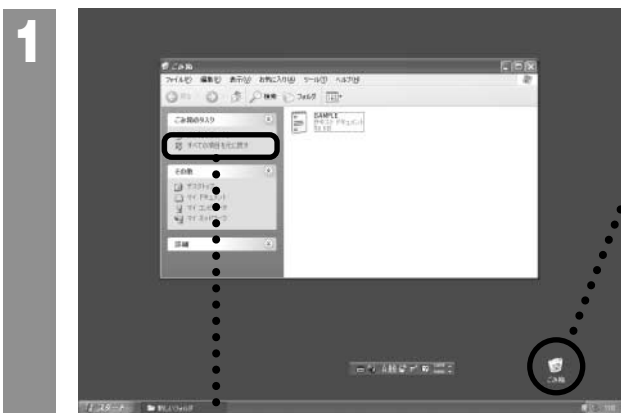
←このマウスポインタを使います。
←このマウスポインタを使うと削除になりません。

☞ 「ファイルを移動する」75ページ

[SAMPLE]ファイルが[ごみ箱]の中に移動します。
ウィンドウはそのまま、次の「ごみ箱に移動したファイルを元に戻す」に進んでください。

ごみ箱に移動したファイルを元に戻す

ごみ箱にファイルを移動しても、完全に消去されたわけではありません。次の手順で、元に戻すことができます。

1

[ごみ箱]をダブルクリックします。

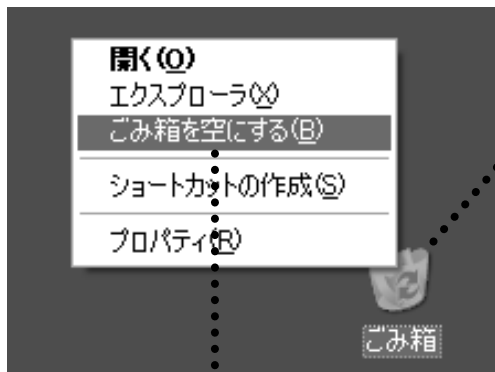
ごみ箱の中身が表示されます。

[すべて元に戻す]ボタンをクリックします。

これで、[ごみ箱]に移動する前の場所に戻りました。
【新しいフォルダ(2)】ウィンドウに戻っているか確認してください。

ごみ箱を空にする（完全に消去する）

ごみ箱の中身を完全に消去しても良い場合は、[ごみ箱]アイコンを右クリックして表示されるメニューの[ごみ箱を空にする]をクリックします。

1

[ごみ箱]アイコンを右クリックします。

メニューが表示されます。

[ごみ箱を空にする]をクリックします。

2

確認メッセージが表示されます。
[はい]ボタンをクリックすると完全に消去され、ごみ箱のアイコンが に変わります。
[ごみ箱]から削除したファイルは、元に戻すことができません。
削除の前に、本当に削除して良いファイルか確認してから[はい]ボタンをクリックしてください。

ごみ箱の設定を変えると･･･
[ごみ箱]アイコンを右クリックして表示されるメニューの[プロパティ]をクリックすると、「ごみ箱」の設定が変更できます。しかし、削除の確認メッセージを表示しなくなったり、ごみ箱に入れたとたん完全に消去されたり、「ごみ箱」の容量が小さくなって、結局あふれた分が消去されたりします。設定の内容が理解できないうちは、変更しないでください。

ファイル(フォルダ)の名前を変える

ファイルやフォルダの名前を変更する方法について説明します。ここでは、[SAMPLE]ファイルの名前を変更してみましょう。

変更方法その1

1

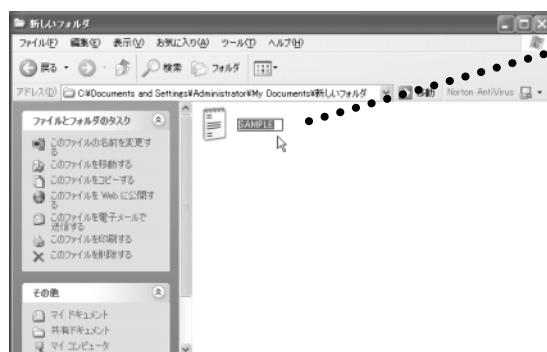
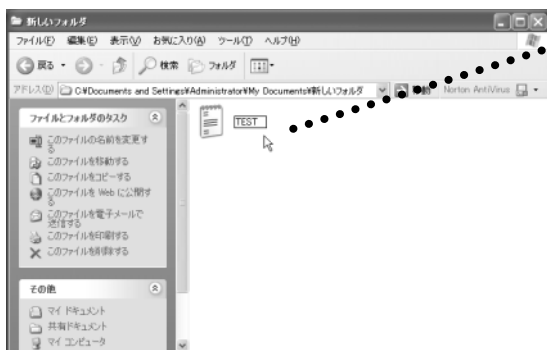
[SAMPLE]アイコンを右クリックします。

メニューが表示されます。

[名前の変更]をクリックします。

2

名前のところが、反転表示されます。

3

キーボードから変更したい名前を入力します。
「TEST」に変更してみましょう。
キーボードから[T][E][S][T]と入力します。

デスクトップ右下のインジケータに あ というアイコンがあるときは、文字入力モードが「ひらがな」になっています。この状態でTESTとキーを押すと「てＳＴ」や「てst」と表示されたり、英字でも「ＴＥＳＴ」や「test」のようにアンダーライン付きで(未変換として)表示されることがあります。
ここでは、インジケータの あ をクリックして表示されるメニューから[直接入力]を選択して、アイコンを _A に変えてから再度入力してください。

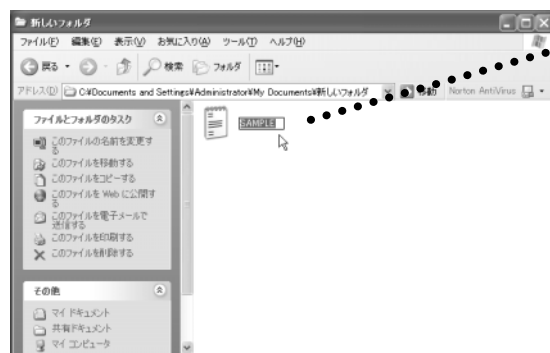
名前が入力できたら、[Enter]を押します。
これで名前が変更できました。
フォルダ名も同様に変更できます。

変更方法その２

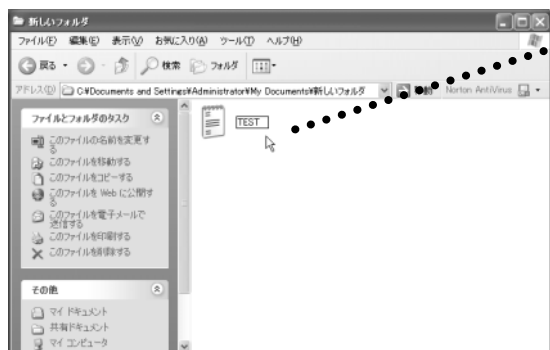
前ページで紹介した方法とは別に、名前を変更する方法を説明します。

1

アイコンをクリックします。

2

名前の文字の部分をクリックします。

名前のところが、反転表示されます。

3

キーボードから変更したい名前を入力します。

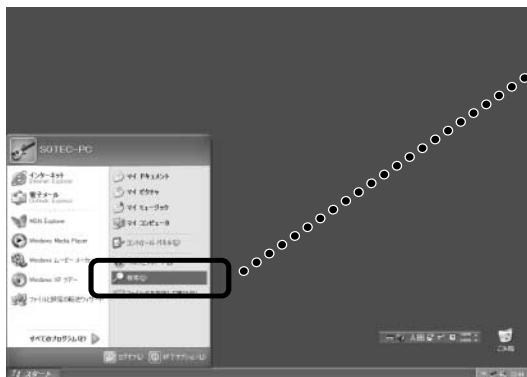
4

名前が入力できたら、ウィンドウ中の空白の部分をクリックします。

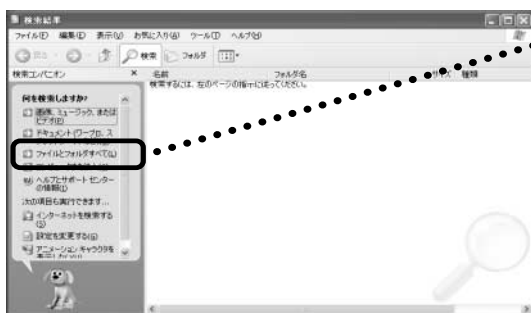
これで名前が変更されました。

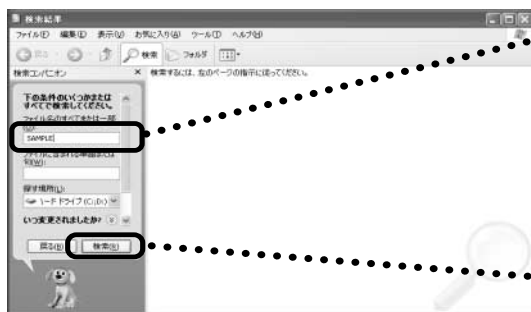
ファイルやフォルダを検索する

検索機能を使うと、ファイルやフォルダを簡単に検索できます。【検索】ウィンドウでは、検索条件を簡単に、しかも詳細に指定できます。また、条件を保存できるので、同じ条件を何度も使って検索できます。

1

[スタート]ボタンをクリックし、[検索]をポイントします。

【検索結果】ウィンドウが開きます。

2

ここでは、[ファイルとフォルダ全て]を選択します。

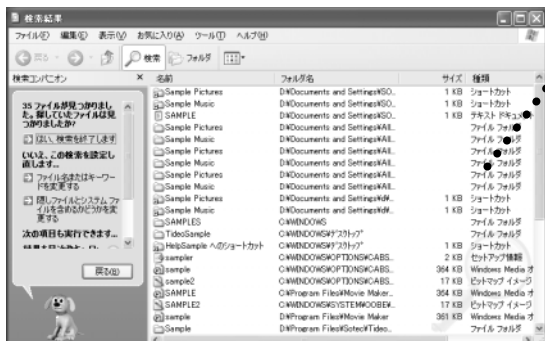
3

検索したいファイルの名前の一部、または全部を[ファイルまたはフォルダの名前]フィールドに入力します。

ここでは、SAMPLEと入力してみます。

[検索開始]ボタンをクリックします。

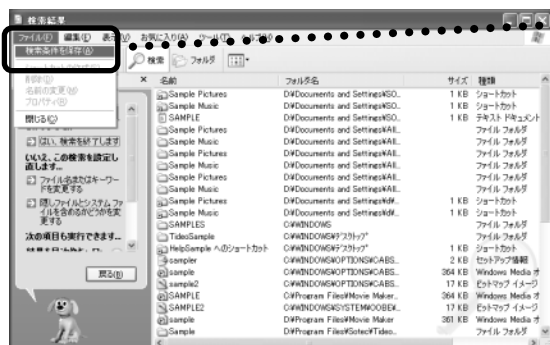
4

検索結果が表示されます。

アドバイス

[検索開始]ボタンの下にある「検索オプション 》」をクリックすると、サブメニューが表示されます。このオプションを選択することで、検索条件をより詳しく指定できます。

検索条件を保存する

同じ検索条件で、何度も検索することが予想される場合、検索条件を[マイドキュメント]に保存することができます。

1

【検索結果】ウィンドウの[ファイル]メニューの[検索条件を保存] をクリックします。

【検索条件を保存】ウィンドウが表示されます。

2

保存するファイル名を[ファイル名]に入力します。

[保存]ボタンをクリックします。
検索条件が保存され、[マイドキュメント]にアイコンが表示されます。

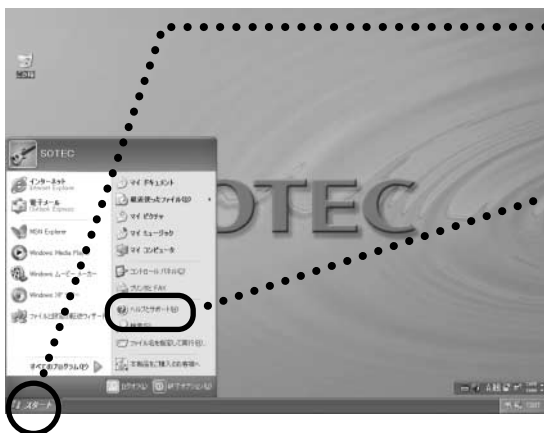
検索条件のアイコンをダブルクリックすると【検索結果】ウィンドウが表示されます。[検索開始] ボタンをクリックすると検索を再実行し、検索結果を更新できます。

4 ヘルプの使いかた

操作がわからなくなったときには、ヘルプ機能を使うと便利です。
ヘルプとはWindows XPの操作方法を画面上で確認できる機能です。

Windows XPのヘルプを見る

「Windowsのヘルプ」は、[スタート]ボタンから起動します。

1

[スタート]ボタンをクリックします。

スタートメニューが表示されます。

スタートメニューの中の[ヘルプとサポート]をクリックします。

アプリケーションごとのヘルプは？
アプリケーションのヘルプは、そのアプリケーションのウィンドウにあるメニューバーの[ヘルプ]をクリックすると起動します。

2

【ヘルプとサポートセンター】ウィンドウが表示されます。

調べたい内容や話題は、「ヘルプトピック」、「検索」、「インデックス」または「サポート」から探し出します。

【ヘルプとサポートセンター】にあるボタンは、それぞれ次の機能があります。

キーワードを入力して一覧から調べたい内容を探します。

トピックの検索、検索結果を [お気に入り] の一覧に追加し 今後の検索を簡単にします。

トピックの検索の履歴を一覧で表示します。

ヘルプとサポートセンターの表示、検索条件を変更します。

SOTECのホームページが表示されます。

インターネット経由でサポートを依頼します。

ヘルプとサポートの最初の画面(ホーム)に戻ります。

前のページに戻ります。

戻った後、次のページへ進みます。

ホームからヘルプトピックを開く

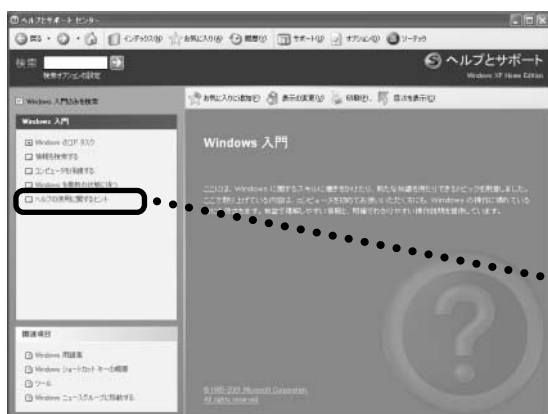
1

リンクをクリックします。

画面の左側にあるリンクから、調べたいリンクをクリックします。
ここでは例として「Windows 入門」をクリックします。

用語

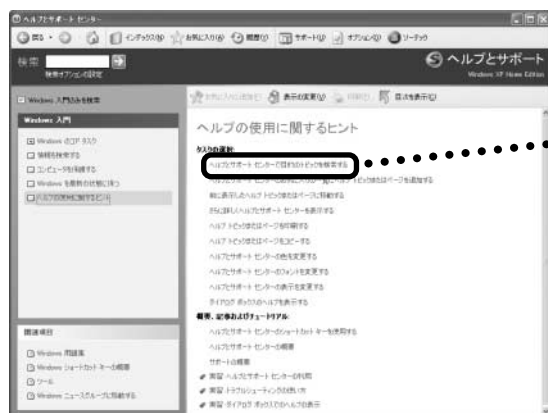
ここで説明する「リンク」とは画面左側に表示されている項目を指します。

2

手順1で選択した「Windows 入門」から、さらに詳しいリンクが表示されます。

このように、リンクの中に、さらに詳しいリンクがある場合もあります。

リンクをクリックします。

ここでは「ヘルプの使用に関するヒント」をクリックします。

3

手順2で選択した「ヘルプの使用に関するヒント」の、さらに詳しいリンクが表示されます。

目的のリンクをクリックします。

例えば、ここで「ヘルプとサポートセンターで目的のトピックを検索する」をクリックしてみましょう。

4

「ヘルプとサポートセンターで目的のトピックを検索する」に対する詳細が表示されました。

検索を使ってトピックを探す

ヘルプ全体の中から、入力したキーワードを含むトピックを探し出すことができます。

1

検索したいキーワードを入力します。

ここでは、大文字で D V D と入力してください。

2

ボタンをクリックします。

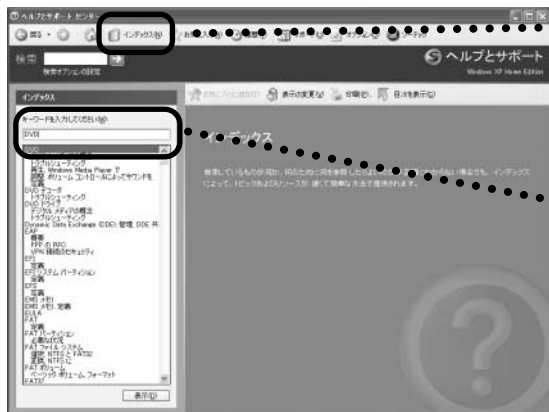
トピックの一覧が表示されます。

キーワードを含むトピックが複数ある場合は、このように選択画面が表示されます。
ここでは、「CDおよびDVDを再生する」を選択してみましょう。

3

トピックの内容が、画面右側に表示されます。

インデックスからトピックを探す

1

[インデックス]をクリックします。

画面左側の表示が、キーワードの入力画面になります。

キーワードを入力します。

ここでは、大文字で D V D と入力してください。

2

トピックの一覧がスクロールして、入力したキーワードで始まるタイトルが表示されます。

調べたい内容を選択し、[表示]ボタンをクリックします。

ここでは、「再生、Windows Media Playerで」を選択してみましょう。

3

トピックの内容が、画面右側に表示されます。

サポートから選ぶ

ここでは、インターネットを通じてリンクを調べます。

1

[サポート]をクリックします。

画面左側がサポート選択画面になります。

サポート用のWeb(ウェブ)サイトが紹介されているので、目的のサイトへ接続します。

チェック　この機能を利用するには、インターネットに接続できる環境にしておく必要があります。

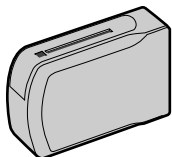
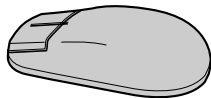
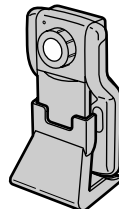
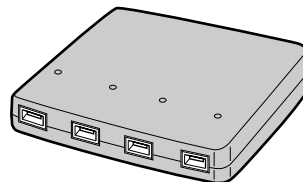
STEP4

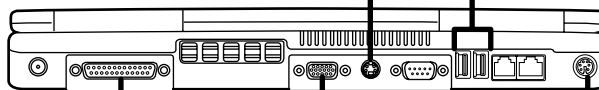
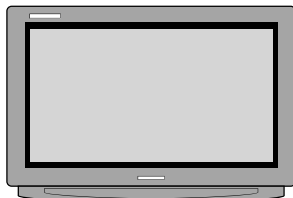
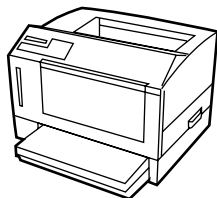
周辺機器を使いこなす

プリンタやスキャナなど、WinBookと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。
さまざまな周辺機器と接続することで、WinBookをより充実して使うことができます。ぜひ、お読みください。

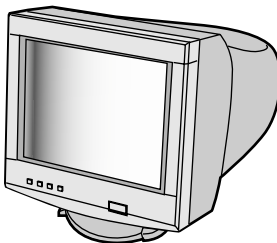
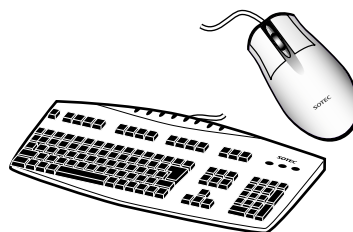
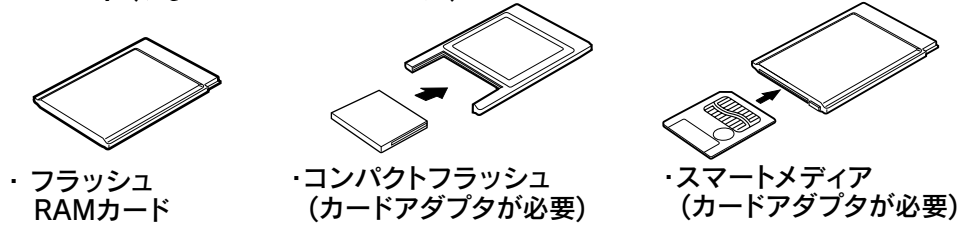
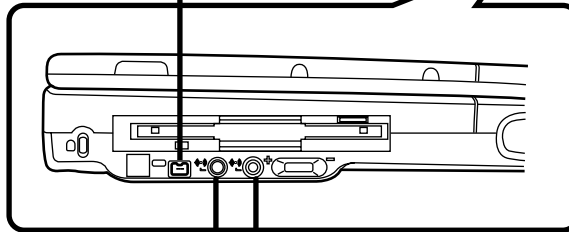
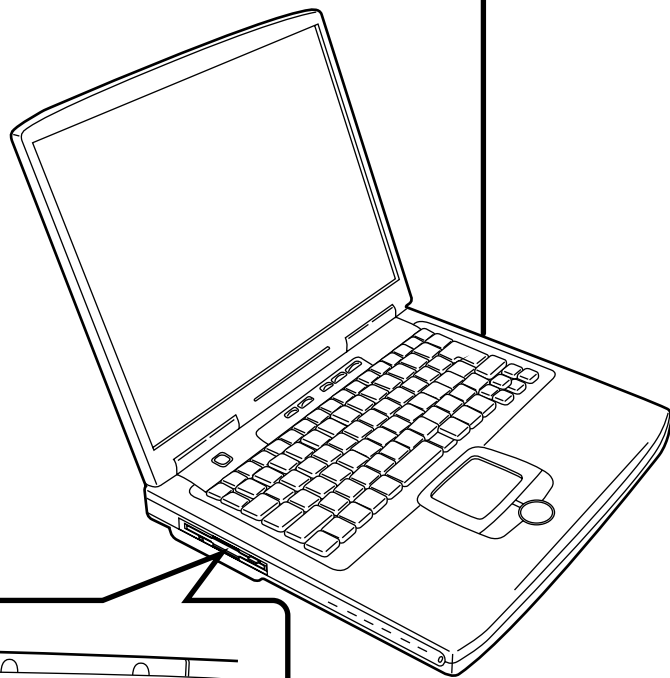
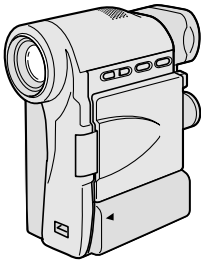
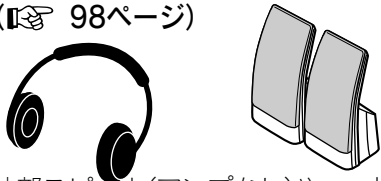
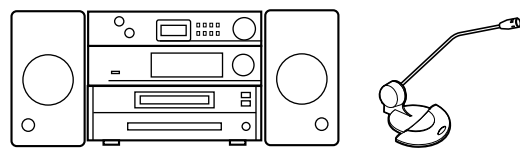
1 使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

USB対応の周辺機器(☞ 104～109ページ)

・カードリーダ/ライタ　・USB対応マウス　・CCDカメラ　・USBハブ など

S映像入力端子のある機器など
(☞ 98 ページ)

プリンタ

・インクジェットプリンタ
・レーザープリンタ など

外部ディスプレイ
(☞ 114 ページ)

キーボード、マウス
(☞ 113ページ)

PCカード(☞ 100〜103ページ)
・フラッシュ
RAMカード
・コンパクトフラッシュ
(カードアダプタが必要)
・スマートメディア
(カードアダプタが必要)
DV端子付きデジタルカメラ
(☞ 99ページ)
ヘッドホン
(☞ 98ページ)
スピーカ
外部スピーカ(アンプなし)やヘッドホンを接続することにより、パソコンから出力される音声をステレオで聞くことができます。
オーディオ機器(☞ 99ページ)

2 周辺機器を取り付ける前に

ここでは周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業をしなければならないことを説明します。

取り付けは電源をOFFにしてから

ケーブル類や、周辺機器を取り付けるときは、本機の電源をOFFにし、電源ケーブルをACコンセントから取り外します。電源ケーブルが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機を壊したり、感電してしまう恐れがあります。

PCカード、USB、IEEE1394対応の機器は、パソコンの電源をONにしたまま、取り付けや取り外しができます

1

[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

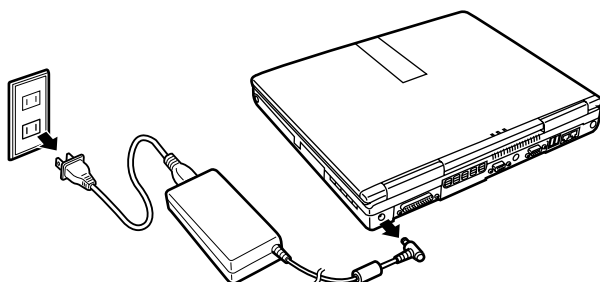
【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。

2

[電源を切る]を選択します。

電源がOFFになります。

3

4

電源ケーブルを取り外します。

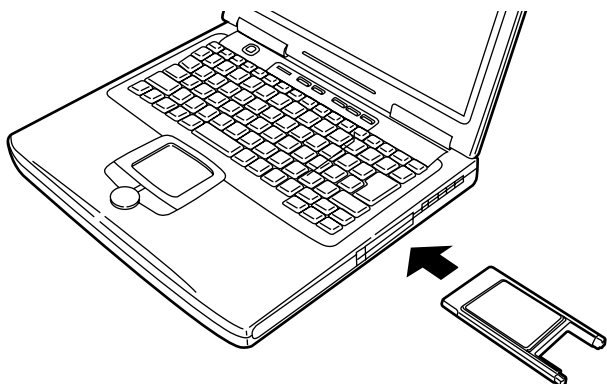
周辺機器を取り付けます。

本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

体の静電気を取り除いてください

基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。これらの機器を取り付ける前には、ドアのノブなど、身近な金属に触れて、帯電されている静電気を取り除いてください。

取扱説明書をよく読んでください

ユーザーズガイドをよく読んでください

周辺機器などの取り外しや、取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。周辺機器を取り付ける前には本書をよくお読みください。

周辺機器に付属の取扱説明書をよく読んでください

周辺機器に付属の取扱説明書には、取り付け方法や、取り付けた後に必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。

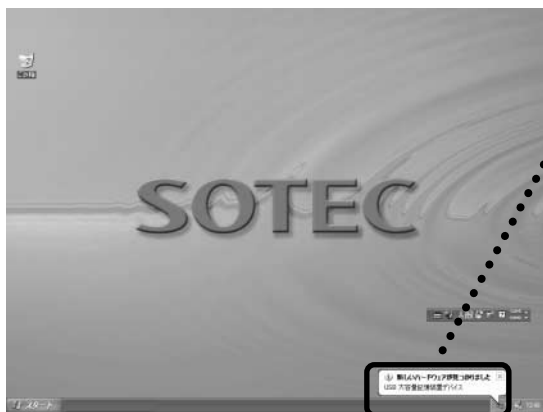
周辺機器を取り付ける前には、必ず周辺機器の取扱説明書をよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル(デバイスドライバなど)を理解し、これから始める拡張の作業に備えましょう。

プラグアンドプレイについて

Windows XPには、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使用できる状態に設定する「プラグアンドプレイ」という機能があります。
プラグアンドプレイを実現するには、周辺機器に対応したデバイスドライバがWindows側で用意されている必要があります。用意されていない場合は、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

対応したデバイスドライバがすでにWindowsにある場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、すでにWindows側で用意されている場合は、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使える状態になります。

1

接続するだけで周辺機器が使えるようになります。

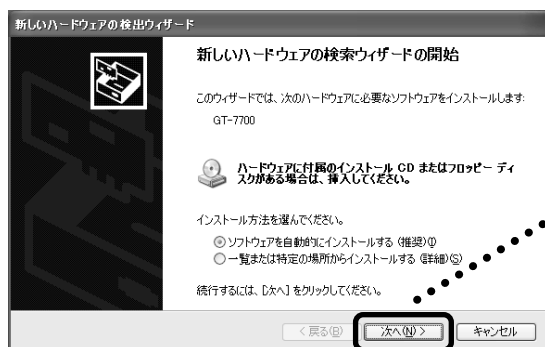
STEP4
周辺機器を使いこなす

対応したデバイスドライバがWindowsにない場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、Windowsにない場合は、周辺機器に付属のCD-ROMなどに収録されているデバイスドライバを用意し、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

チェック

プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、場合によっては、設定が自動で行われない場合があります。(☞ 138ページ)

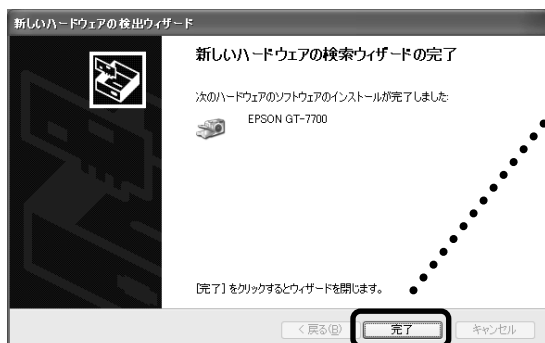
1

周辺機器を取り付けた後に、電源をONにすると、【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。

[次へ]ボタンをクリックします。

2

表示される指示に従って操作を行います。

デバイスドライバが正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、設定は終了です。

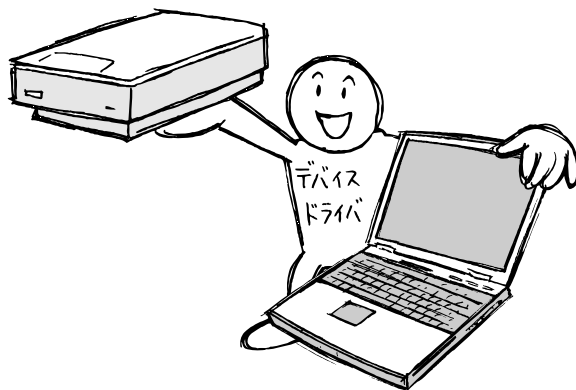
3

[完了]ボタンをクリックします。

これで、設定は無事終了しました。

チェック

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みやリソースの設定は自分で行う必要があります。また、周辺機器側のディップスイッチなどを変更する必要があります。周辺機器の取扱説明書などをよく読み、設定を行ってください。

アドバイス

デバイスドライバとは

周辺機器を使うときは、デバイスドライバという専用ソフトウェアが必要になる場合があります。デバイスドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトウェアです。デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows XPに付属されているものと、周辺機器に付属のもの(フロッピーディスクやCD-ROMで提供されています)があります。また、周辺機器メーカのホームページから最新のものを入手することもできます。
最新のデバイスドライバを入手することで、周辺機器の機能を最大限に引き出すことができます。

3 AV機器と接続する

ここでは、本製品と接続できるAV機器の紹介と接続方法を説明します。

ヘッドホンと接続する

市販のヘッドホンを使用すると、スピーカから音声を出力せずにヘッドホンから出力できます。

1

本機側面のライン出力端子に市販のヘッドホンのケーブルを接続します。

ヘッドホンはミニプラグ付ヘッドホンを、お近くの電器店でお求めください。

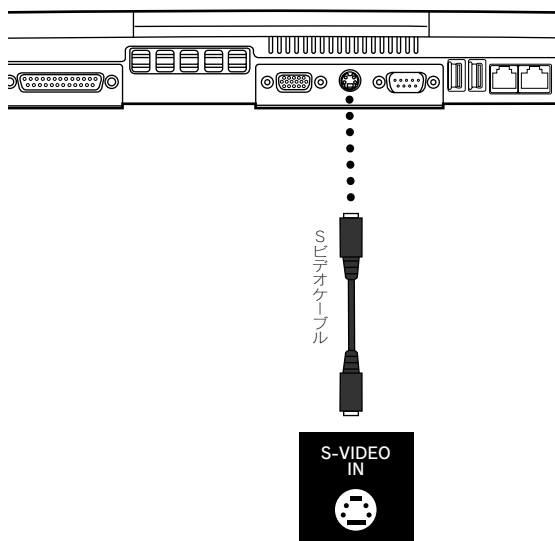
STEP4

周辺機器を使いこなす

S映像対応の機器を接続する

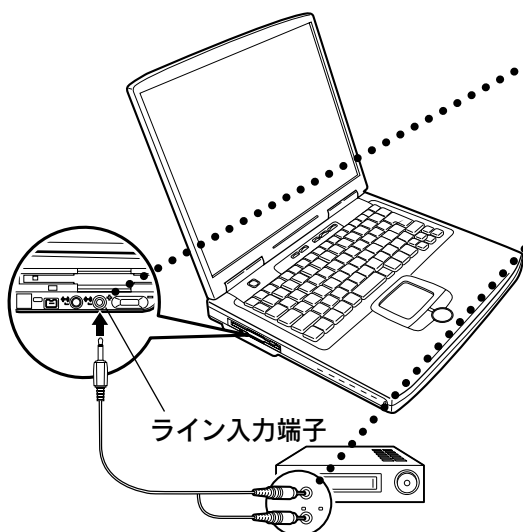
※Pentium 4 モデルのみ

市販のS映像入力端子付きのテレビやビデオなどと接続して、本機で編集したデジタルビデオ画像を、テレビやビデオに映し出すことができます。

1

ビデオデッキ、テレビなど

本機背面のS映像出力端子と、テレビやビデオのS映像入力端子を、市販のSビデオケーブルを使用して接続します。

オーディオ機器と接続する

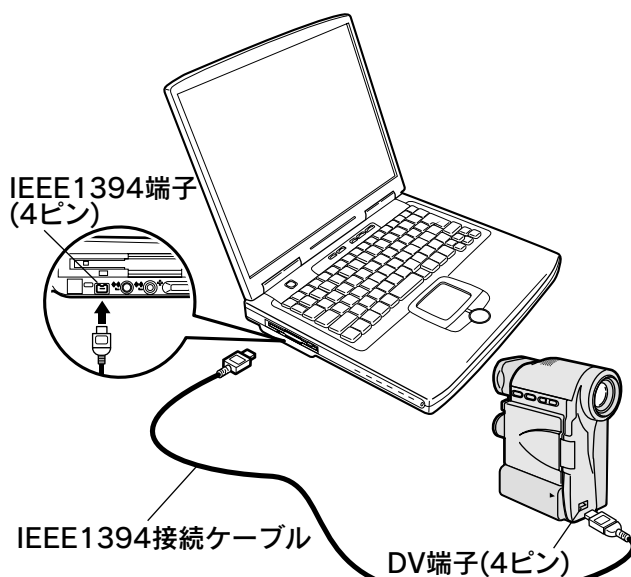
オーディオ機器からの音を本機の内蔵スピーカから出力したり、マイクロホンから本機に録音することができます。

1 **ステレオミニプラグ付きオーディオケーブルを、本機のライン入力端子に接続します。**

2 **オーディオケーブルのもう一方のプラグを、オーディオ機器側に接続します。**

ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。

オーディオ機器からの音声を録音するときは、Windows XPの「サウンドレコーダー」を使用します。(☞ 45ページ)

デジタルビデオと接続する

本機のIEEE1394端子(4ピン)と、DV端子を持つデジタルビデオを接続して映像および音声を取り込んだり、映像および音声をデジタルビデオに出力できます。

1 **本機のIEEE1394端子(4ピン)と4ピンのDV端子を持つデジタルビデオを、市販のIEEE 1394接続ケーブルで接続します。**

IEEE1394は、DV端子とも呼ばれています。

4 PCカードを使う

PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

PCカードとは

PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

カード規格について

PCMCIA(Personal Computer Memory Card International Associationの略)は、ノートタイプのコンピュータに使用するICカードを、コンピュータのメーカが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。

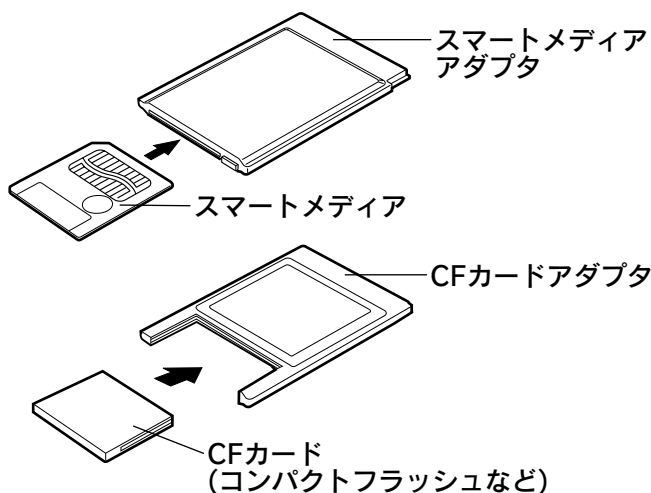
PCカードを使うには、本製品に、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードスロットに様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。

カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があります。

CardBus規格について

CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことで、高速なデータ転送が可能です。本製品のPCカードスロットはCardBusをサポートしています。

カードサイズについて

PCカードには、現在、TYPE Ⅰ(厚さ3.3mm)、TYPE Ⅱ(厚さ5.0mm)、TYPE Ⅲ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。

本製品では、TYPE Ⅱのカードを2枚、またはTYPE Ⅲのカードを1枚装着することができます。

スマートメディアやCFカードを装着する場合は、別売のアダプタを使用してください。

PCカードの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体として使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

コンパクトフラッシュを使ってみる

本機の電源をONにした状態で、PCカードを差し込むと、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、PCカードを使い始めることができます。

1

本機のPCカードスロットに、PCカードを差し込みます。

ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュをPCカードと呼びます。PCカードを差し込むと、PCカードイジェクトボタンが出てきます。

PCカードは差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。差し込む方向については、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

しばらくすると、自動的に認識されます。コンパクトフラッシュに画像などが保存されている場合は、スライドショーなどを自動的に行う機能が働きます。

2

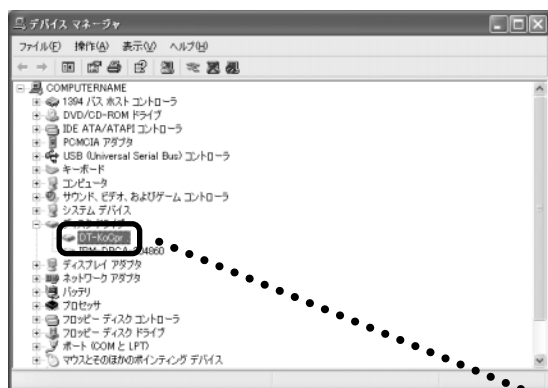
実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

正しく認識できたか確認する

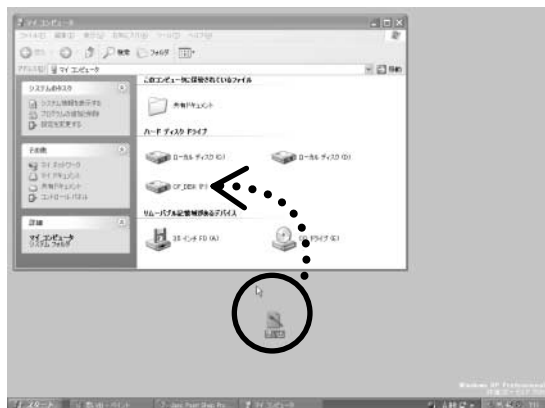
差し込んだPCカードが、正しく認識されているかどうかを確認します。

■マイコンピュータで確認する
例として差し込んだPCカードは、ファイルを保存するためのハードディスクのような機器なので、【マイコンピュータ】の中に新しいハードディスクのアイコンが追加されていることで確認できます。

新しく接続された機器がアイコンとして表示されているのを確認します。

■デバイスマネージャで確認する
コンパクトフラッシュは、「マイコンピュータ」に追加されたアイコンで確認できますが、差し込んだPCカードの種類によって、確認の方法は異なります。
一般的に、[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、[ハードウェア]タブの画面から、【デバイスマネージャ】ウィンドウを表示させて、差し込んだPCカードが登録されていれば、正しく認識されています。詳しくは、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

差し込んだPCカードが表示されます。

PCカードによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

ファイルをコピーしてみる

ハードディスクとして認識されたコンパクトフラッシュやスマートメディアのファイルは、ドラッグアンドドロップすることで、他のディスクにコピーできます。

PCカードの取り出し

PCカードへのアクセス中に、本機からPCカードを抜いたりすると、スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されているデータが壊れる場合があります。取り外しは必ず次の手順で行ってください。

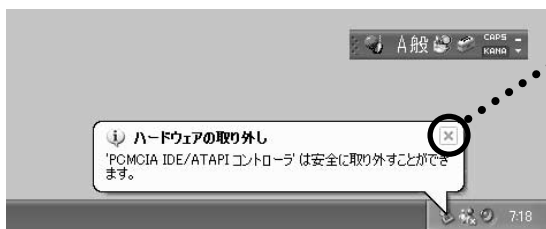
1

デスクトップ右下(タスクバー)の のアイコンをクリックします。

2

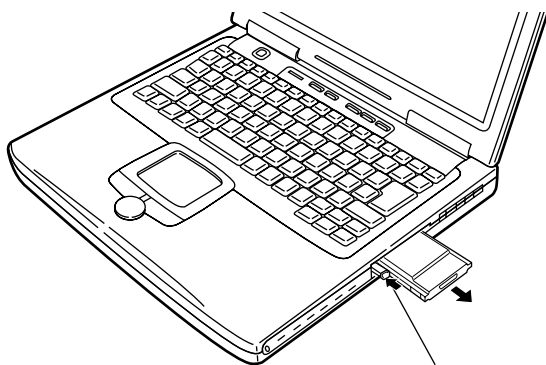
[PCMCIA IDE/ATAPI コントローラードライブを安全に取り外します]を選択します。

表示される名前は、差し込んでいるPCカードによって異なります。

3

次のダイアログが出たら ボタンをクリックします。

STEP4
周辺機器を使いこなす

4

5

PCカードイジェクトボタンを押し込みます。

PCカードがPCカードスロットから少し出てきます。

PCカードをゆっくりと引き抜きます。

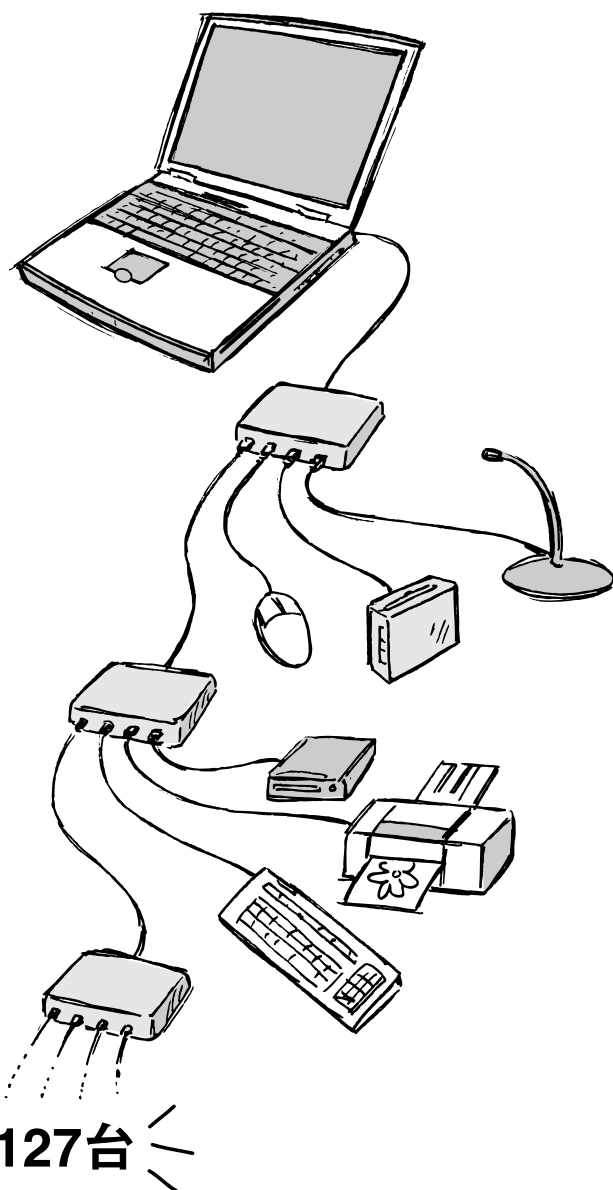
5 USB対応の周辺機器を使う

USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。ここでは、USB機器を本機で使用するための準備作業について説明します。

USB(ユーエスビー)とは

USBとはUniversal Serial Busの略で、USBに対応する機器を、最大127台まで接続できるインターフェースです。
本機には、USBポートが2つ用意されていますが、市販のUSBハブを複数使用することで、最大127台(USBハブを含む)のUSB機器を接続できます。

USB機器の特長は、なんといっても本機の電源をONにしたまま、取り付け、取り外しができることでしょう。ふだんは取り外しておいて、必要なときだけ接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができます。

本機のUSBポートは、USB1.1の規格に対応しています。USB2.0の規格のUSB機器は使用できません。

USB機器を接続する手順

ここでは、USB対応のスキャナを例に、本機に接続して使用するまでの手順を説明します。

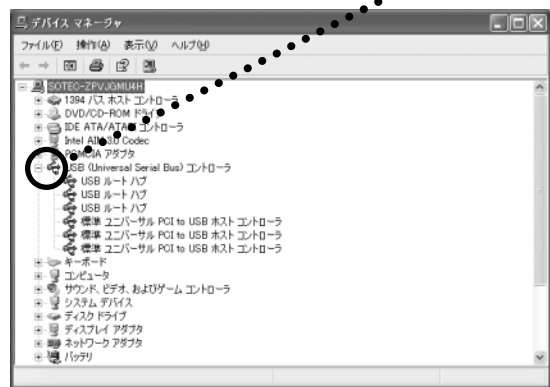
USBコントローラを確認する

Windows XPを起動して、USBポートそのものをコントロールするためのデバイスドライバが有効になっているかを確認します。

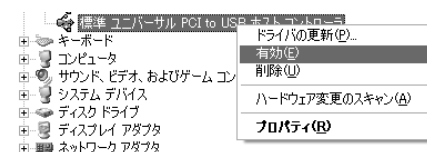
1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]の順に選択します。**

2 **[ハードウェア]タブをクリックします。**

3 **[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**

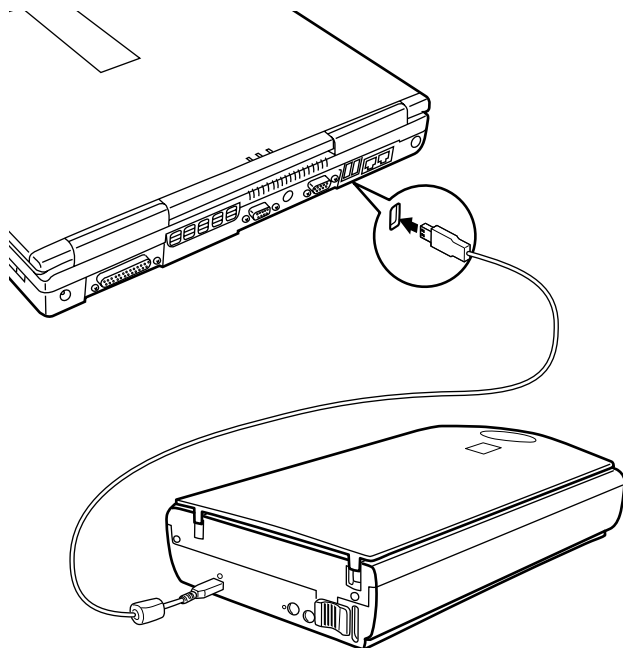
4 **[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]の[+]の部分をクリックし、[−]に変更します。**

のマークに×がついていないか確認します。

USBポートが使用できない状態の場合は

① ×印がついているUSBポートを選択し、右クリックします。
② [有効]をクリックします。

これで、USBポートが使用できる状態になります。

USB機器を接続する

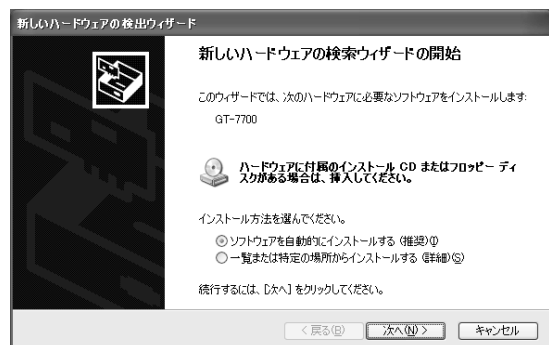
本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、USB機器をすぐに使い始めることができます。

1

コネクタを差し込む前に、デバイスドライバをインストールするUSB機器があります。USB機器に付属の取扱説明書をよく読んで、USB機器を接続してください。

本機のUSBポートに、USB機器のコネクタを差し込みます。

本機には、背面に2つのUSBポートを用意しています。どちらのUSBポートを使用しても構いません。コネクタには差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。

USBポートが足りないときは

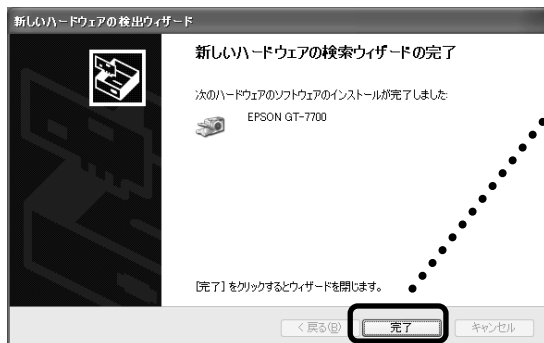
USBポートが2つでは足りないときは、市販のUSBハブを接続することで、USBポートの数を増やすことができます。
「複数のUSB機器を接続する」(☞ 109ページ)

USB機器を接続後、しばらく待つと、自動的に画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、3秒以上時間をおいてから、再度差し込んでみてください。

しばらくすると、自動的に必要なデバイスドライバを読み込み始めます。

上記の方法で画面の表示が切り替わらないときは、Windowsを再起動させ、再度USB機器を接続してください。

2

表示される指示に従って操作します。

USB機器に、Windows XP対応のデバイスドライバが付属されていない場合、USB機器をWindows XPで使うための専用デバイスドライバが別途必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書を読むか、USB機器販売メーカにお問い合わせください。

デバイスのインストールが終了したことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。

3

新しいハードウェアの検出ウィザード

新しいハードウェアの検索ウィザードの完了

次のハードウェアのソフトウェアのインストールが完了しました:

EPSON GT-7700

[完了] をクリックするとウィザードを閉じます。

< 戻る(B)　完了　キャンセル

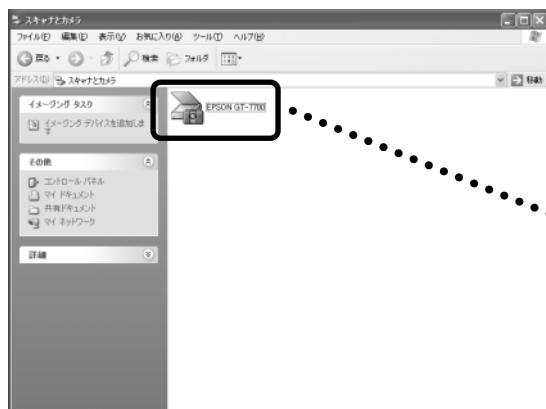
[完了]ボタンをクリックします。

USB機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

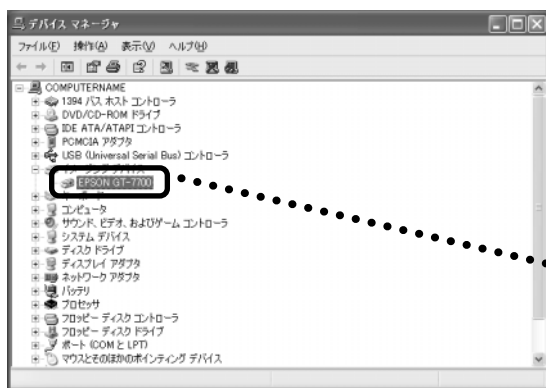
USB機器は、一度接続して設定が終了すれば、次回からはUSBポートにコネクタを差し込むだけで、すぐに機器が使用できるようになります。このとき【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログは表示されません。

USBポートごとにUSB機器が管理されるため、前回とは異なるUSBポートにUSB機器を接続すると【新しいハードウェアの検索ウィザード】が表示されることがあります。その場合はメッセージに従って操作してください。

正しく接続できたか確認する

接続したUSB機器が、正しく認識されているかどうかを確認します。

■マイコンピュータで確認する

例として接続したスキャナは、[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[スキャナとカメラ]にアイコンが追加されていることで確認できます。

新しく接続された機器のアイコンが表示されていることを確認します。

■デバイスマネージャで確認する

一般的に、[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]を選択し、[ハードウェア]タブ画面から【デバイスマネージャ】ウィンドウを表示させて、接続したUSB対応機器が登録されているか確認します。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

接続したUSB機器が表示されていることを確認します。

名前は接続した機器によって異なります。

USB機器によっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。USB機器に付属の取扱説明書をお読みください

複数のUSB機器を接続する

市販のUSBハブを使えば、1つのUSBコネクタを複数のUSBコネクタに分岐して増やすことができます。このUSB ハブを何台も使えば、USBハブも含めて最大127台(パソコン1台あたり)までの機器を接続できます。
ここでは、USBハブを使用し、複数のUSB機器を接続する方法について説明します。

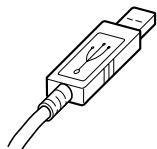
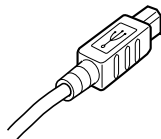
バスパワーとセルフパワーについて

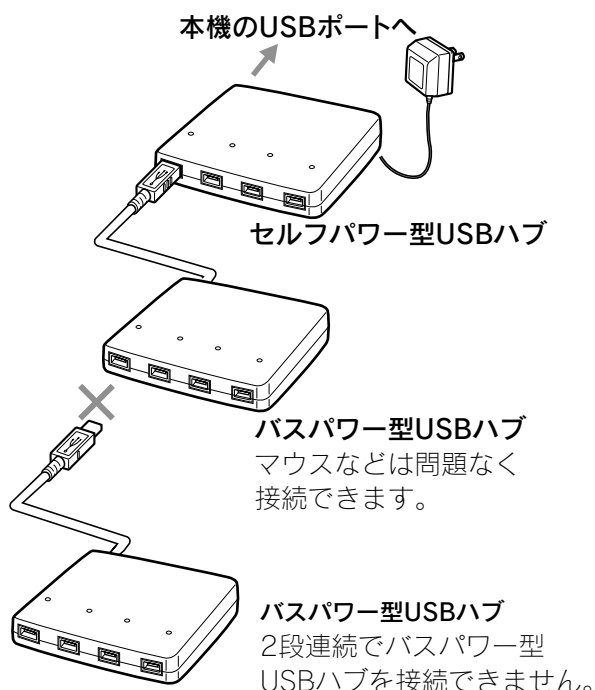
USB機器は、機器自身が動作するために必要な電流の大きさによって、次のタイプに分かれます。USBハブを使う場合は、お持ちのUSB機器がどのタイプかを確認することが必要です。

■バスパワー型
機器自身では電源を持たず、動作に必要な電流をUSBコネクタから消費して動作します。

■セルフパワー型
USB機器自体の消費電流が多く、USBコネクタからの電流では動作できないため、機器にACアダプタの接続が必要です。

アップストリームとダウンストリームのコネクタについて

アップストリーム
ポート用コネクタ
(Aコネクタ)

ダウンストリーム
ポート用コネクタ
(Bコネクタ)

通常USBハブには、本機(上流)のUSBコネクタから電流を受けるために接続するポート(アップストリームポートという)と、数珠つなぎにUSB機器をつなげるためのポート(ダウンストリームポートという)があります。それぞれのポートに接続するための、USBケーブルのコネクタ形状は、次のイラストのように形状が異なります。

USBハブを使った接続例

セルフパワー型の次に、バスパワー型の機器というように交互に接続できます。
バスパワー型の機器を2段連続で接続すると、接続するUSB機器によっては、使用できないものがありますので、注意してください。

USBハブの詳しい使用方法は、USBハブの取扱説明書をお読みください。

6 メモリの増設

複数のアプリケーションを使っているときなどに、処理速度が遅いと感じるようになってきたら、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設方法について説明します。

メモリについて

メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションの動作も快適になります。

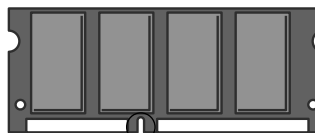
メモリが少ないと・・・

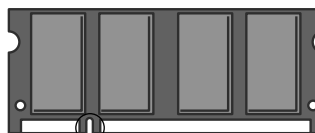
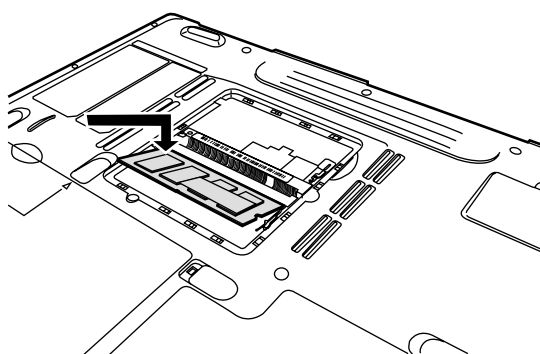
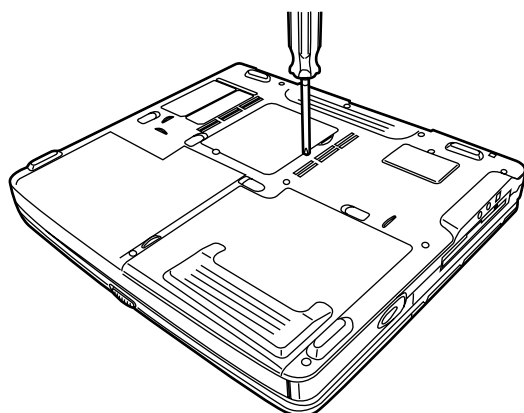
・増設するメモリは、必ず弊社純正品を使用してください。
・他社製のメモリを使用した場合、本製品の動作の保証はできません。

本機で使用するメモリ

本機には、メモリスロットが2つあります。使用できるメモリは、モデルにより異なります。
増設する場合は、間違わないようご注意ください。

Celeronモデルで使用できるメモリ

メモリの種類	PC133 SDRAM
メモリの規格	144pin S.O.DIMM
メモリの速度	133MHz

Pentium4モデルで使用できるメモリ

メモリの種類	PC2100 DDR SDRAM
メモリの規格	200pin S.O.DIMM
メモリの速度	266MHz

メモリの取り付けと取り外し

装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにして、バッテリパックとACアダプタを取り外してください。

1 **ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返しにします。**

2 **ネジを外し、メモリカバーを外します。**

3 **増設するメモリをゆっくりと装着します。**

メモリは差し込む向きがあります。向きを間違えないようにしてください。

4 **メモリカバーを装着し、バッテリパックもしくはACアダプタを取り付けます。**

5 **電源をONにすると、メモリ容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。**

6 **F2を押して、BIOSセットアッププログラムを表示させます。**

システムが装着された増設メモリの容量を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

7 **【Exit】→【Exit Saving Changes】を選び、BIOSセットアッププログラムを終了させます。**

Exit Saving Changes の詳しい操作方法については、「付録 BIOSを設定する」(☞ 166～167ページ)をお読みください。

増やしたメモリを確認する

電源をONにして、メモリが増えているか確認しましょう。

1 **電源をONにします。**

2 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。**

3 **[パフォーマンスとメンテナンス]を選択します。**

4 **[システム]を選択します。**

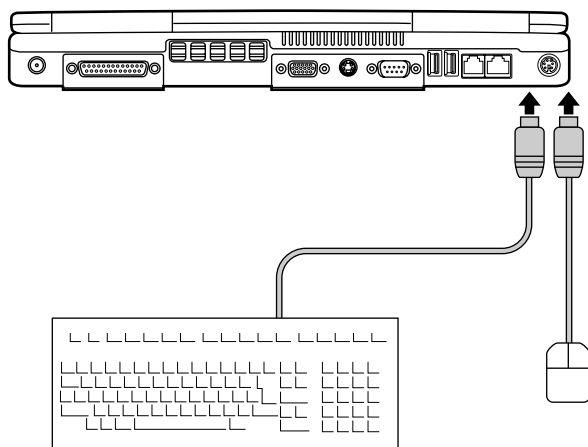
5 **ここに表示されている数字を確認します。**

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリを取り付けたかを確認してください。

7 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボードまたはマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードまたはマウスを接続することができます。

1 **本機の電源をOFFにします。**

・機器の接続の前に、本機の電源は必ずOFFにしてください。
・レジュームや休止状態といった省電力機能が働いている状態では接続しないでください。省電力機能の状態の場合は、再度電源をONにし、[コンピュータの電源を切る]から「電源を切る」を選択しパソコンの電源をOFFにしてください。(☞ 26ページ)

2 **本体後面にあるキーボード/マウスポートに、外部キーボード、マウスのケーブルを接続します。**

接続されたキーボードとマウスは、自動的に認識されます。

アドバイス

本機に接続したマウスまたはキーボードは、[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[マウス](または[キーボード])を選択して、マウスの移動速度や、キー入力の速度間隔を調整できます。調整方法についての詳細はWindowsのヘルプをご覧ください。

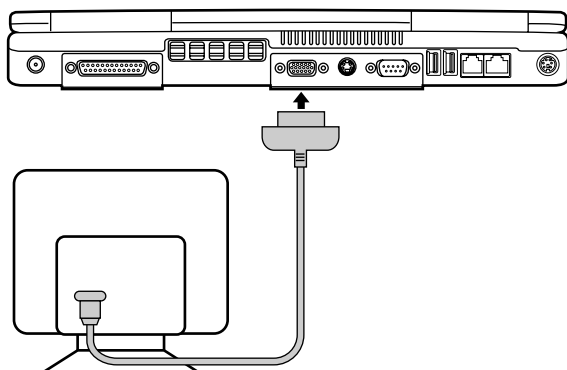
■[マウス]の調整画面

■[キーボード]の調整画面

8 外部ディスプレイを接続する

本機には、外部ディスプレイを接続するためのコネクタが装備されています。

1 本機の電源をOFFにします。

・機器の接続の前に、本機の電源は必ずOFFにしてください。
・レジュームや休止状態といった省電力機能が働いている状態では接続しないでください。省電力機能の状態の場合は、再度電源をONにし、[コンピュータの電源を切る]から「電源を切る」を選択しパソコンの電源をOFFにしてください。(☞ 26ページ)

2 本機の背面にあるアナログCRTポートに、外部ディスプレイのケーブルを接続します。

・本機の電源を入れてから、外部ディスプレイの電源を入れてください。
・外部ディスプレイを接続した場合Windowsのコントロールパネルの[画面]で、「ディスプレイの種類」を設定変更が必要なときがあります。
・本体ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示する場合、接続する外部モニタは、設定したデスクトップ領域(解像度)をサポートするものを使用してください。

一時的に表示ディスプレイを切り替える

Fn+F3キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。

STEP5

インターネットとホームネットワーク

インターネットは、「ブロードバンド」と呼ばれる高速通信接続サービスの普及により、今までと違った楽しみ方が生まれつつあります。また、パソコンの普及率も高くなり、家庭内で複数のパソコンを所有することも珍しくなくなりました。複数のパソコンでネットワークを構築すれば、ひとつのインターネット回線やプリンタを複数のパソコンで共有できるようになります。ここではインターネットとホームネットワークの概要を説明します。

1 インターネットに接続しよう

インターネットでは、世界中のさまざまな情報を自由に見ることができます。
また、お客様のパソコンから世界中に情報を発信することもできます。

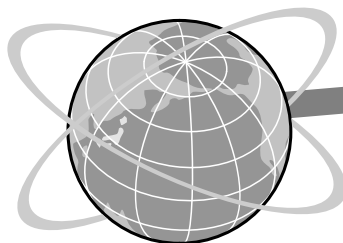
インターネットでできること

インターネットにはいろいろな使い方があります。ここではその一例を紹介します。

ショッピングをする
Webページを持っている世界中のお店で、時間や距離を気にせず、いつでもどこでも、ショッピングが楽しめます。欲しい商品を探す、注文する、配達してもらうなど、すべてのやり取りが、簡単にインターネットを通じて行えます。

電子メールをする
インターネットにつながったコンピュータどうしで、電子メールのやりとりができます。
お互いの電子メールアドレスを交換すれば、親しい友人や仕事仲間だけでなく、インターネット上で知り合った人にも、電子メールを送ることができます。

情報を発信する
自分のWebページを作って、世界中の人々に情報を発信することができます。インターネットを通じて自分の意見を知らせたり、同じ趣味を持つ仲間を集めたりすることができます。

新聞、テレビ、ラジオを見る
世界中のマスコミやメディアが独自のWebページを提供しています。ニュース番組や新聞記事に対する感想を一般から集めたり、番組や記事の内容を新聞や放送よりも詳しく、インターネット上で公開しています。

インターネットサービスプロバイダ(プロバイダ)
本機とインターネットとの接続を仲介します。インターネットを安全に利用するための設定等を代行してくれます。

プロバイダまでの接続方法

インターネットとの接続を仲介するインターネットサービスプロバイダへの接続方法はさまざまです。ここでは、アナログ電話回線以外の代表的な接続方法を紹介します。いずれの接続方法も接続サービス会社を通じて利用するのが一般的です。

ADSL

通信速度 ：1Mbps～8Mbps
(アナログ電話回線の約18～140倍速)

一般のアナログ電話回線の広域帯を利用した、アップロードとダウンロードの通信速度が非対称の接続サービスです。電話回線を利用できるので、導入工事が比較的簡単です。

ISDN回線

通信速度 ：64kbps
(アナログ電話回線の約1.1倍速)

日本全国のほとんどの場所に普及している接続サービスです。他の接続サービスにくらべて通信速度は劣りますが、デジタル回線を利用しているので、安定したインターネット通信ができます。

CATV

通信速度 ：256kbps～2Mbps
(アナログ電話回線の約4.5～35倍速)

ケーブルテレビのケーブル回線を利用した接続サービスです。接続サービス会社の選択の自由はありませんが、ケーブルテレビと同時に導入を申し込む場合などは、割安でサービスを受けられる場合もあります。

光ファイバー

通信速度 ：4Mbps～100Mbps
(アナログ電話回線の約70～1800倍速)

最大100Mbpsという超高速の通信を可能にする接続サービスで、次世代のインターネット接続サービスの中心と期待されています。ただし、サービスを開始している地域は限られています。

インターネットに必要なもの

インターネットを始めるには、次のものが必要になります。

通信機器

アナログ電話回線やISDN回線など、インターネットサービスプロバイダと物理的に接続するものです。インターネットサービスプロバイダへの接続方法により、必要なものは異なります。

プロバイダとの契約

プロバイダとは、インターネットと本機を仲介する役目を果たしているインターネット接続サービス会社のことです。プロバイダはインターネットを安全に利用するための設定等を代行してくれます。個人でインターネットを利用する場合は、契約する必要があります。

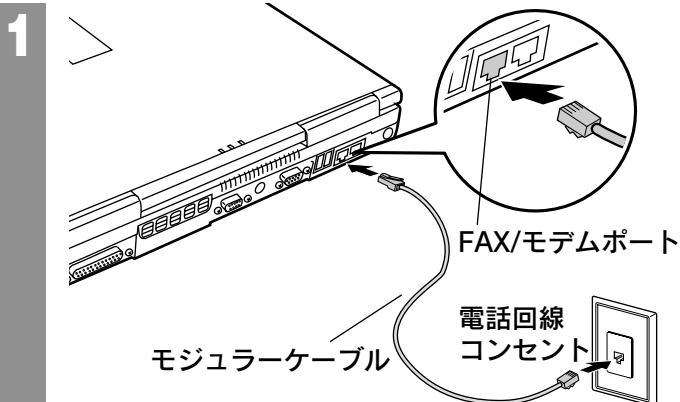
ソフトウェア(Internet Explorer & Outlook Express)

ホームページを閲覧するWebブラウザソフト「Internet Explorer」と、電子メールを送受信するメールソフト「Outlook Express」はWindows XPに付属しています。新たに準備する必要はありません。

インターネットに接続する

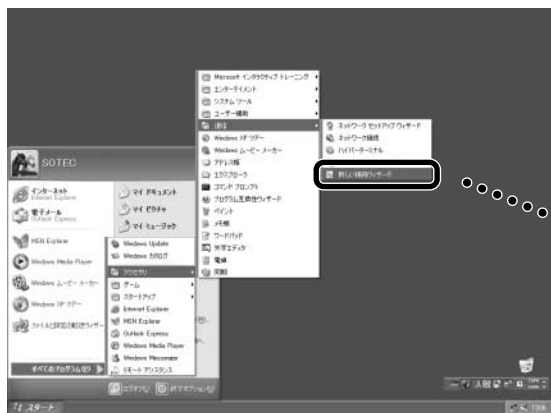
ここではアナログ電話回線を使ってインターネットに接続する方法を説明します。
その他の接続方法で接続する場合は、各接続サービス会社にお問い合わせください。

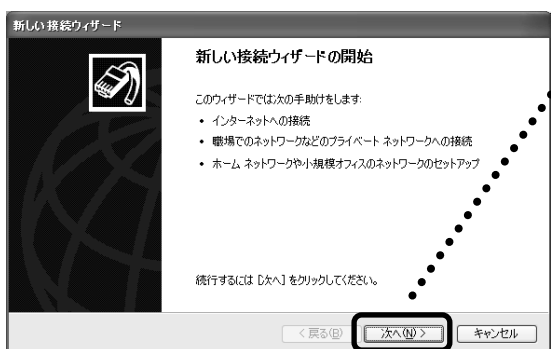
1

FAX/モデムポート
電話回線
コンセント
モジュラーケーブル

本機背面にあるFAX/モデムポートと電話回線コンセントを、付属のモジュラーケーブルで接続します。

・電話回線コンセントには、モジュラーケーブル以外は挿入しないでください。
・本機に内蔵のモデムは、V.90の規格に対応しています。V.90は、アナログ電話回線でプロバイダからユーザー側への通信方向のみ(データのダウンロード時など)、最高56000bpsの通信速度を実現しようという規格です。ユーザー側からプロバイダへの通信方向は最高33600bpsになります。なお、電話回線の状態が悪い場合、またはプロバイダがV.90に対応していない場合は、56000bpsで接続できません。

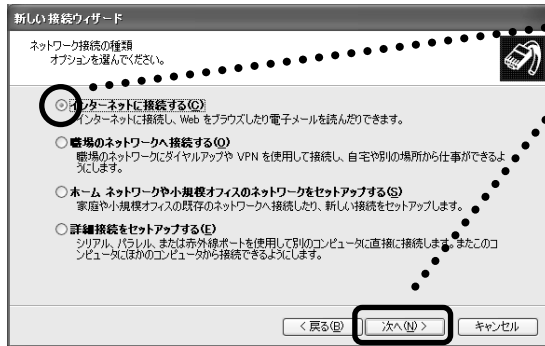
2

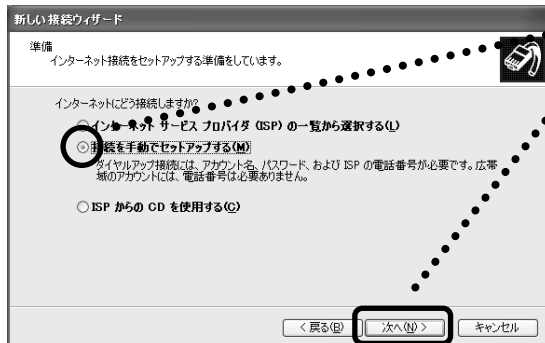
[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[新しい接続ウィザード]の順に選択します。

【新しい接続ウィザード】ダイアログが表示されます。

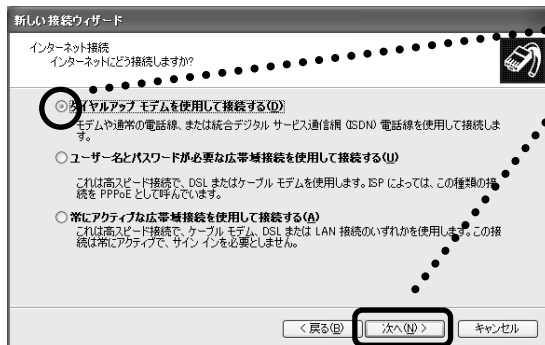
3

[次へ]ボタンをクリックします。

インターネットに接続する方法として、オンラインサインアップという方法があります。オンラインサインアップは、インターネットサービスプロバイダとの契約、およびインターネットに接続するまでの設定が同時にできます。
[スタート]ボタンから[本製品をご購入のお客様へ]を選択し、[選ぼう!インターネット]をクリックすると、オンラインサインアップができる各種インターネットサービスプロバイダが表示されます。

STEP5 インターネットとホームネットワーク

4

「インターネットに接続する」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

5

「接続を手動でセットアップする」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

6

利用している通信方式にあわせて任意で選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択します。

7

プロバイダの名前を任意で入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは例として「sotec」と入力します。

アドバイス

ISP名はどのような名前でも構いませんが、複数のプロバイダを利用する場合などは、それぞれを分かりやすく管理するために、プロバイダ名を入力するのが一般的です。

8

プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

9

「ユーザー名」にはプロバイダが提供するインターネットアカウント名を、「パスワード」および「パスワードの確認入力」にはプロバイダが提供するパスワードを、それぞれ入力します。

10

[次へ]ボタンをクリックします。

11

[完了]ボタンをクリックします。

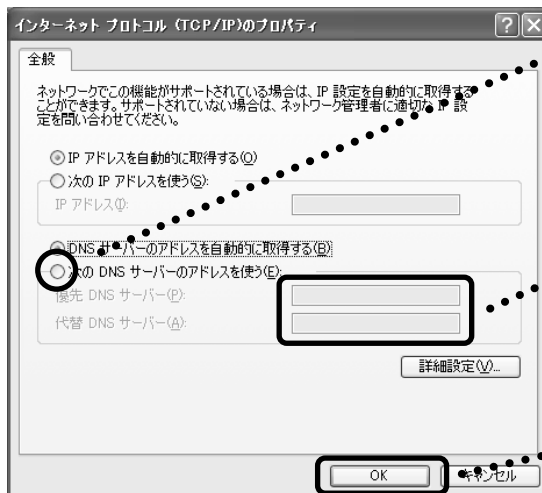
インターネットへ接続するためのダイアログが表示されます。

12

[プロパティ]ボタンをクリックします。

13
[ネットワーク]タブをクリックします。

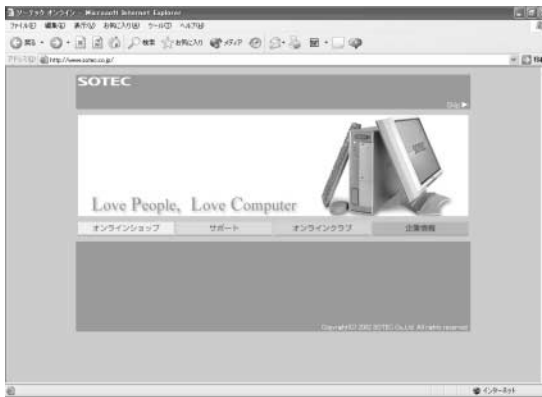
14
「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

【インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ】ダイアログが表示されます。

15
「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択します。

16
プロバイダが指定するアドレスを入力します。

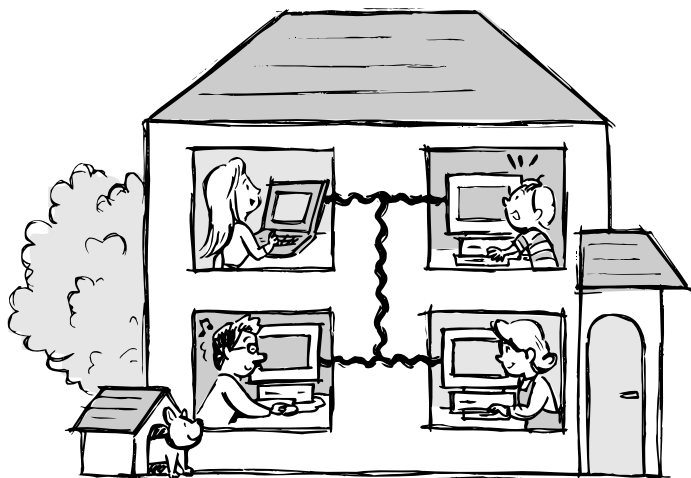
17
[OK]ボタンをクリックします。

18
[OK]ボタンをクリックします。

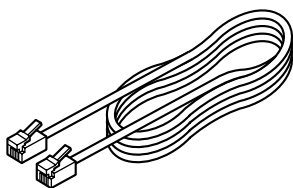
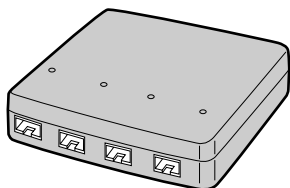
[ダイヤル]ボタンをクリックします。

正しく接続できると、ホームページが表示されます。

2 ホームネットワークを構築しよう

家にパソコンが複数ある場合、ホームネットワークの構築をおすすめします。
パソコンのハードディスク上にあるデータや、プリンタをすべてのパソコンで共有することが可能になります。

ホームネットワーク構築のメリット

複数のパソコンをネットワークで接続すると、それぞれのパソコンの使い勝手が大きく向上します。
1つのインターネット回線やプリンタをすべてのパソコンで使用することができ、さらにはパソコン同士でデータをやり取りすることもできます。

構築に必要なもの

ネットワークを構築するには、次のものが必要です。

ネットワークの設定は使用状況によって異なります。専門書籍を参照するか、Windowsネットワークシステムの技術者にご相談ください。

イーサネットケーブル

現在よく使われているのは10BASE-Tおよび100BASE-TXと呼ばれる規格のものです。
ネットワークケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの2種類がありますが、通常はストレートケーブルを使用します。

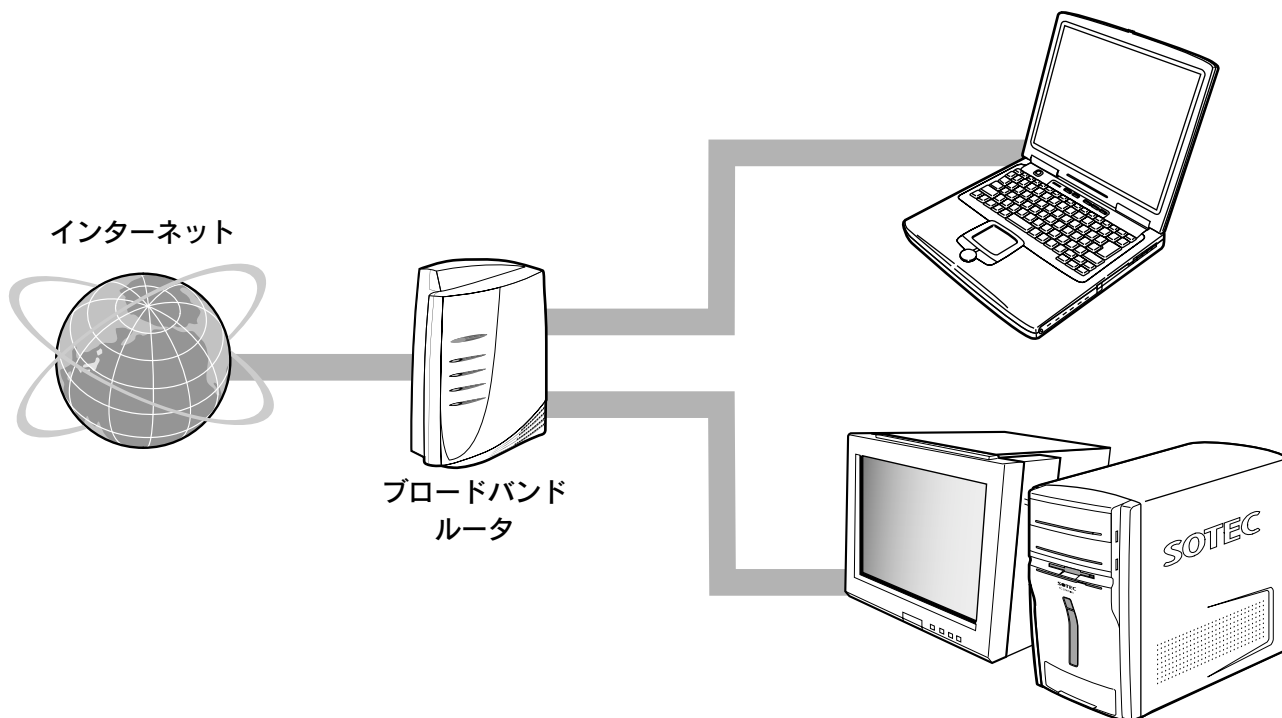
ハブ

複数のパソコンをネットワークに接続するための中継器です。10BASE-Tだけでなく、10BASE-Tと100BASE-TXを混在させて使用できるデュアルスピードハブもあります。

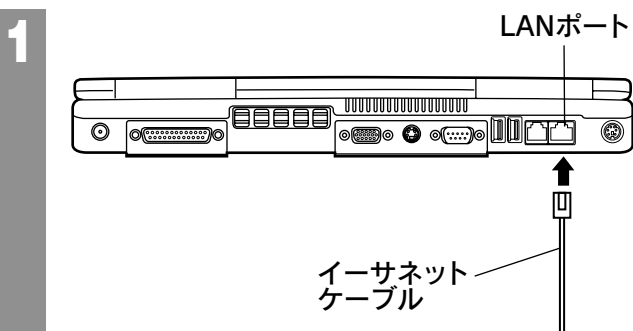
ブロードバンドルータ

複数のパソコンでインターネットを同時接続するための中継器です。ブロードバンド対応のインターネット回線をホームネットワークで共有する場合に必要です。ブロードバンドルータにはハブも内蔵されていますので、ブロードバンドルータを導入した場合は、ハブは不要になります。

ネットワークを構築する

ネットワークを構築するための手順を説明します。ネットワークの構築方法は多くの種類がありますが、ここでは次の図のように、2台のパソコンをブロードバンドルータに接続してネットワークを構築する、という設定で説明します。

イーサネットケーブルを接続する

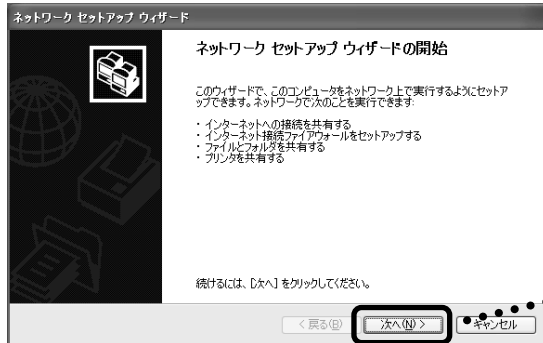
本機とハブやブロードバンドルータを結ぶ、イーサネットケーブルを本機に接続する方法を説明します。

1

本機背面のLANポートにイーサネットケーブルを差し込みます。

本機に対応するイーサネットケーブルは10BASE-T/100BASE-TX規格のケーブルのみです。それ以外のケーブルは使用できません。ISDNケーブルは、10BASE-T/100BASE-TX規格のイーサネットケーブルと同一の形状ですが、絶対に使用しないでください。故障の原因となります。

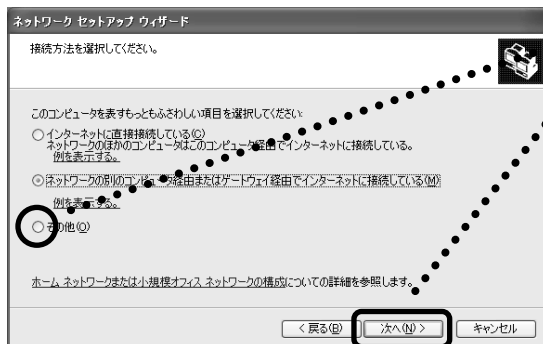
ネットワークを設定する

ネットワークを構築するために、パソコン上で行う設定を説明します。

ネットワークの設定は使用状況によって異なります。専門書籍を参照するか、Windowsネットワークシステムの技術者にご相談ください。

1 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワークセットアップウィザード]の順に選択します。**

【ネットワークセットアップウィザード】ダイアログが表示されます。

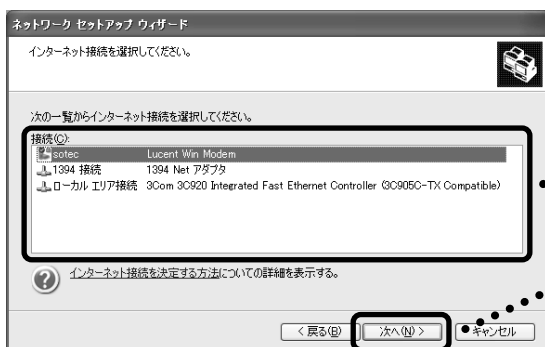
2 **[次へ]ボタンをクリックします。**

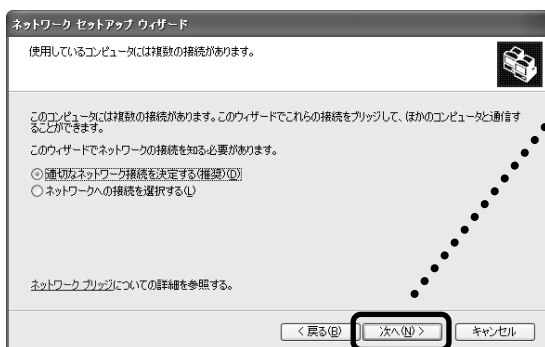
3 **表示内容を確認したあと、[次へ]ボタンをクリックします。**

4 **ネットワークの形態にふさわしいものを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。**

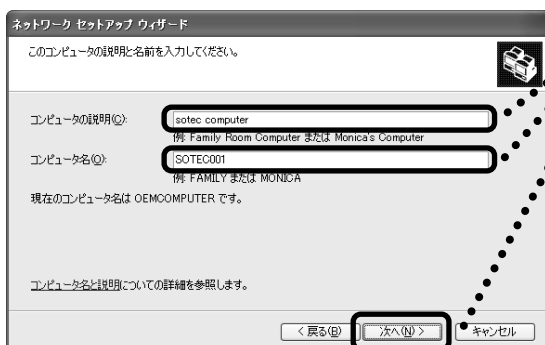
ここでは「その他」を選択します。

5

「直接またはネットワークハブを経由してインターネットに接続している」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

6

インターネットの接続に使用する通信機器を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

7

「適切なネットワーク接続を決定する(推奨)」が選択されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

8

「コンピュータの説明」と「コンピュータ名」に任意で名前を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

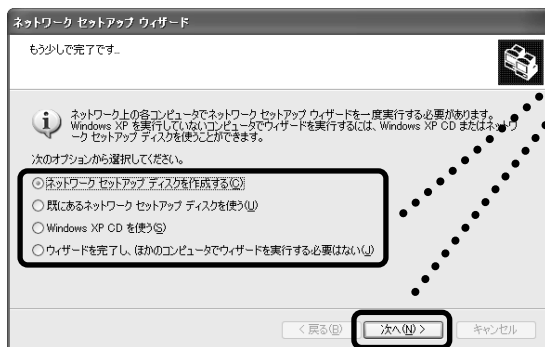
9

「ワークグループ名」を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

10

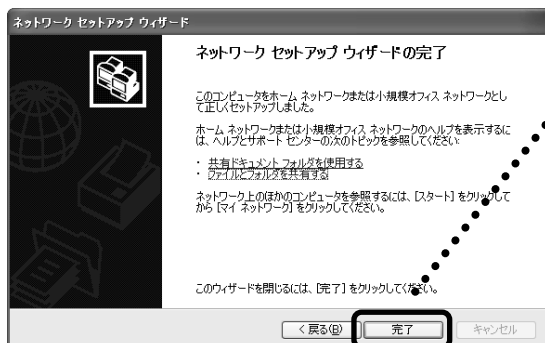
ネットワークの接続設定を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[次へ]ボタンをクリックしたあと、ネットワークの構築が始まります。

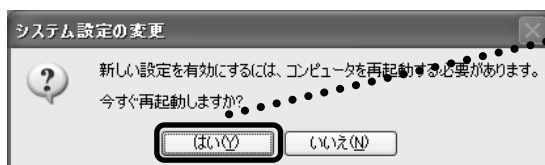
11

任意でオプションを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは「ウィザードを完了し、ほかのコンピュータでウィザードを実行する必要はない」を選択します。

ネットワークを構成する他のパソコンでネットワークのセットアップを行う場合は、「ネットワークセットアップディスクを作成する」を選択してください。

12

[完了]ボタンをクリックします。

再起動を要求するダイアログが表示されます。

13

[はい]ボタンをクリックします。

これでネットワークの設定は終了です。

ネットワークを確認する

ネットワークが正しく構築されていることを確認しましょう。

1

[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]を選択します。

2

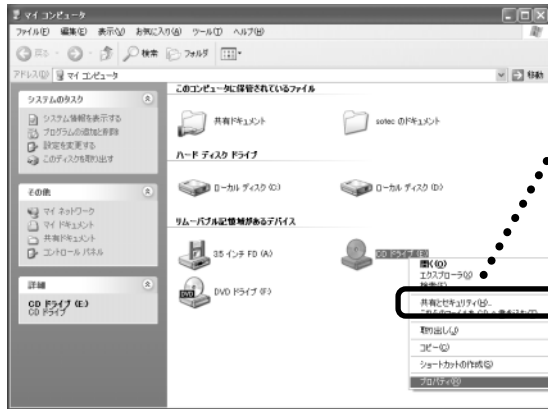
[マイネットワーク]を選択します。

3

マイネットワーク上のローカルネットワーク上に接続されたパソコンのアイコンが表示されていれば、ネットワークの構築は成功です。

ネットワークを共有する

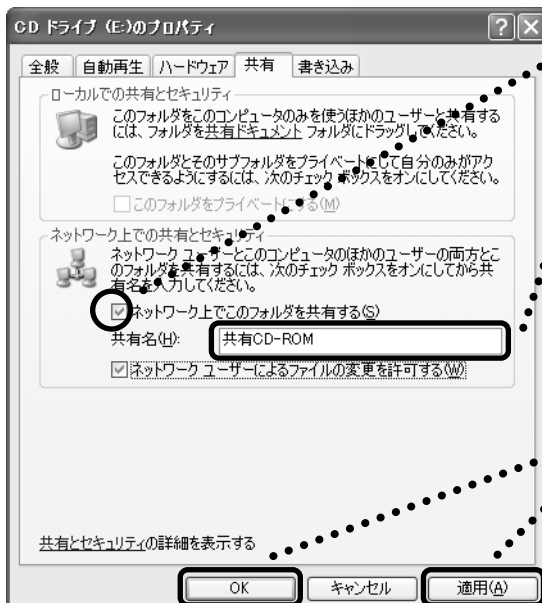
ネットワークで接続されたパソコン同士では、1つのパソコンに接続されているプリンタやCD-ROM ドライブを共有できます。ここではCD-ROM ドライブをするための設定方法を説明します。

1

マイコンピュータ上にある、CD-ROM ドライブのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[共有とセキュリティ]を選択します。

【CD ドライブのプロパティ】ダイアログが表示されます。

2

「危険を認識した上でドライブのルートを共有する場合はここをクリックしてください」をクリックします。

3

「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」をチェックして、「共有名」に任意の名称を入力します。

ここで入力した共有名が、ネットワーク上で表示されたときのドライブ名になります。

4

[適用]→[OK]の順にボタンをクリックします。

CD-ROM ドライブのアイコンに手のイラストがついていることを確認してください。

手のイラストがついていれば、共有設定は完了です。

STEP6

困ったときには

STEP6では本製品をより快適に使っていただくために、トラブルの解決方法と、トラブルを予防する方法について説明しています。本製品を長くお使いいただくために、ぜひご活用ください。

1 故障かなと思ったら

本機をご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、ここで説明する対処方法に従って処置してください。

参照

ここで説明する対処方法通りにしても解決できないときは「SOTECテクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(☞ サポートのご案内　参照)

パソコンの電源を入れたときに

電源ボタンを入れても動かない

・ACアダプタは正しく接続されていますか？

ACアダプタのプラグが本機と正しく接続されているか、ACアダプタの電源プラグが電源コンセントに正しく接続されているかを確認してください。(☞ 20ページ)

・バッテリは十分に充電されていますか？

ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。(☞ 20ページ)

・ACアダプタが故障していることがあります。

他の電気製品を本機が接続されている電源コンセントに接続して、他の電気製品が動くかどうか確認してください。他の電気製品が正常に動くようであれば、ACアダプタが故障している可能性があります。SOTEC テクニカルサポートセンタへお問い合せください。

・本機が故障していることがあります。

SOTECテクニカルサポートセンタへお問合せください。

画面に何も表示されない

・本機の電源は入っていますか？

本機の電源LEDが点灯しているか確認し、消えている場合は、本機の電源を入れてください。(☞ 19ページ)

・ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。

・表示モードの設定が外部ディスプレイになっていて、外部ディスプレイの電源がOFFになっていませんか？

本機の電源をONにし直してから再度、外部ディスプレイの電源ボタンをONにしてください。または、Fn＋F3で表示モードを液晶ディスプレイに戻してみてください。

Windows XPが起動しない

・フロッピーディスクがドライブにセットされたままになっていませんか？

フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

周辺機器を取り付けたら Windows XPが起動しない

・周辺機器のデバイスドライバが原因で Windows XPが起動できなくなった可能性があります。

「セーフモード」でWindows XPを起動して、トラブルの原因と思われるデバイスドライバを無効にしてください。この方法でWindows XPが正常に起動した場合、正しいデバイスドライバをインストールするか、デバイスドライバ自体を削除する必要があります。
[セーフモード]でデバイスを無効にするには、次の操作に従って設定してください。

①本機の電源をONにし、メモリチェックが終了したらF8キーを押し続けます。
②[Windows拡張オプションメニュー]が表示されるので、[セーフモード]をキーボードで選択します。
③[オペレーティングシステムの選択]で[Microsoft Windows XP]を選択します。
④ユーザー名を選択すると、セーフモードでWindows XPが起動します。
⑤【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させ、追加した周辺機器の【プロパティ】ダイアログで[全般]タブをクリックします。
(☞ 140～141ページ)
⑥[すべてのハードウェアプロファイルを使用する]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。

Windows XPを再起動すると、通常のモードでWindows XPが起動します。

この方法でもWindows XPが起動しない場合、本機の電源をOFFにしてから、新しく取り付けた周辺機器を外してください。

パソコンを使っていたら

いきなり画面が消えた

・ACアダプタのプラグが電源コンセントから外れていませんか？

コンセントまたはプラグを差し込みなおしてください。

・スタンバイもしくは休止状態に入った可能性があります。

電源ボタンを押してください。
(☞ 49～54ページ)

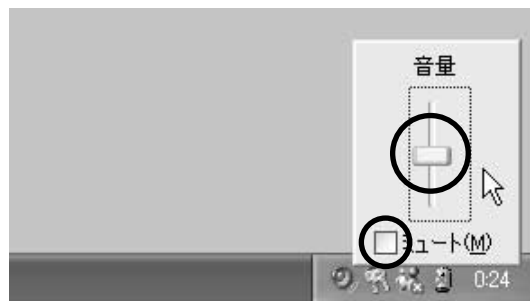
表示される日付や時刻が正しくない

・日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっていませんか？

Windowsのタスクバーの時刻をダブルクリックして「日付と時刻のプロパティ」を起動します。【日付と時刻のプロパティ】ダイアログで正しい日付や時刻を設定してください。

音が出ない

・スピーカの音量が「ミュート」になっていませんか？

ボリュームコントロールで「ミュート」のチェックを外してください。(☞ 43ページ)

・スピーカの音量は小さくなっていませんか？

スピーカの音量を調整してください。
(☞ 43ページ)

フロッピーディスクの内容が読み書きできない

・フロッピーディスクが正しくセットされているか確認してください。

フロッピーディスクを正しくセットして、もう一度やり直してください。(☞ 37ページ)

・フロッピーディスクをフォーマットしていますか？

フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。

・フロッピーディスクの内容が壊れていませんか？

壊れた内容は元に戻りません。バックアップを取ってある場合は、それを使用してください。大切なデータはバックアップを取るように心がけてください。

・フロッピーディスクドライブが故障していませんか？

別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときは、フロッピーディスクドライブが故障しています。SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

・フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっていませんか？

ライトプロテクトノッチを書き込み可能な状態にしてください。(☞ 36ページ)

・1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを使用していませんか？

本機のフロッピーディスクドライブでは1.2MBフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。

・フロッピーディスクの空き容量は十分ですか？

不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

取り付けたマウスが動作しない

・接続ケーブルが外れていませんか？

接続ケーブルを正しく接続してください。それでも動かない場合は、本機を再起動してください。

・本機の電源をONにした後にマウスを接続していませんか？

マウスを接続後、再起動してください。

押したキーと違う文字が表示される

・Caps Lock、ひらがな/カタカナキーなどが間違って押されていませんか？

目的の文字がタイプされるように、Caps Lock、ひらがな/カタカナキーを押してください。(☞ 35ページ)

・キーボードのドライバは適正なものですか？

キーボードのドライバがお使いのキーボードに対応したものではない可能性があります。キーボードのドライバを更新してください。
「ドライバの更新」(☞ 142ページ)

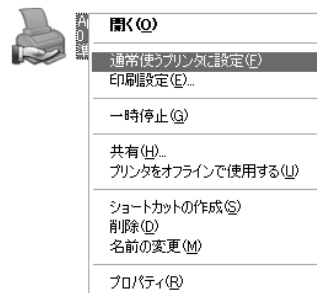
印刷できない 印刷がおかしい

・プリンタの電源は入っていますか？

プリンタの電源を入れてください。

・使用したいプリンタが「通常使うプリンタ」に設定されていますか？

次の手順で設定を変更してください。

①[スタート]ボタン→[プリンタとFAX]を選択します。
②【プリンタとFAX】ウィンドウが開きますので、使用したいプリンタのアイコンを右クリックし、[通常使うプリンタに設定]を選択します。

・プリンタケーブルが外れていたり、接触不良を起こしていませんか？

本体とプリンタが、プリンタケーブルで確実に接続されているか、ご確認ください。

・プリンタの用紙・トナー・インクが切れていませんか？

プリンタに付属の取扱説明書に従って、用紙・トナー・インクを補充してください。

・プリンタが印刷可能な状態になっていますか？

プリンタの状態が「印刷可」や「オンライン」の表示をしているかご確認ください。また、プリンタに付属の取扱説明書を参考に設定をご確認ください。

・プリンタのテスト印字はできますか？

プリンタには一般的にテスト印字機能があります。この機能を使ってテスト印字してください。テスト印字についてはプリンタに付属の取扱説明書を参照してください。テスト印字ができないときは、プリンタの故障が考えられます。プリンタの製造元にご相談ください。

・プリンタケーブルの種類は適切ですか？

プリンタによっては、製造元の指定したケーブルを使わないと印刷がうまくいかない場合があります。プリンタに付属の取扱説明書で、使用するケーブルをご確認ください。

・プリンタの設定は正しいですか？

プリンタに付属の取扱説明書を参考に、設定が正しいかご確認ください。

・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？

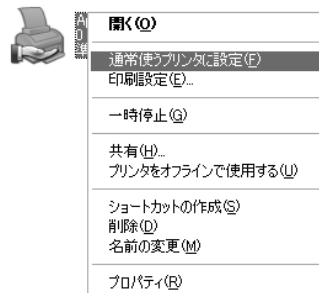
新しくプリンタを接続したときは、プリンタドライバのインストールが必要です。
「ドライバの更新」(☞ 142ページ)などを使い、インストールしてください。なお、なるべく最新のデバイスドライバを使用することをお勧めします。最新のデバイスドライバは周辺機器メーカのホームページから入手できます。

・プリンタドライバの設定を確認してください

プリンタドライバの設定によっては正しく印刷されないことがあります。プリンタの設定に関してはプリンタに付属の取扱説明書を参考にするか、プリンタのメーカにお問い合わせください。

・プリンタが「通常使うプリンタに設定」に設定されていますか？

プリンタが「通常使うプリンタに設定」に設定されているか、次の手順でご確認ください。

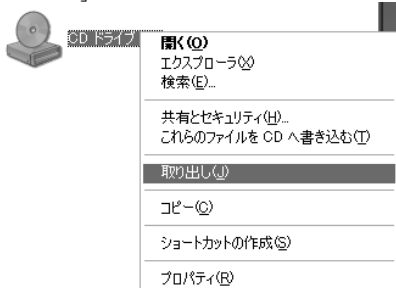
①[スタート]ボタン→[プリンタとFAX]を選択します。
②【プリンタとFAX】ウィンドウが開きますので、使用したいプリンタのアイコンを右クリックし、[通常使うプリンタに設定]を選択します。

CD-ROMを使っていたら

CD-ROMドライブのディスクトレイが出し入れできない

・本機の電源は入っていますか？

本機の電源を入れ、CD-ROMドライブのCDイジェクトボタンを押してください。電源が切れている状態では出し入れできません。
電源が入っているのにディスクトレイが出てこない場合は、ドライブ前面にある強制排出穴に細いピンを差し込んで、ディスクトレイを強制排出させます。

CD-ROMは次の方法でも取り出せます

[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]をクリック→CDドライブのアイコンを右クリック→[取り出し]をクリック。

音楽CDが音飛びする、CD-ROMのデータを読み出せない

・CD-ROMは正しくセットされていますか？

CD-ROMの表裏を確認して、本機のディスクトレイの中心に正しくセットしてください。CD-ROMは絵やタイトル文字が書かれている面を上にしてセットします。
(☞ 38～39ページ)

・CD-ROMに汚れや傷はありませんか？

CD-ROMが汚れている場合、乾いた柔らかい布で内側から外側に向かって拭いてください。
CD-ROMに傷がある場合、データを正常に読み出せません。

・動作中に何らかの振動を本機に与えませんでしたか？

再生中/読み込み中に振動を与えると、データの読み込みミスが起こります。本機に振動を与えないでください。

再生中の動画がとぎれる 再生がぎこちない

・他のアプリケーションと同時に実行していませんか？

他のアプリケーションを終了させてください。動画データなどの再生には、本機の処理能力が多く必要です。このため、複数のアプリケーションを同時に使用すると、動画データの処理が追いつかなくなり、画像がとぎれたり、動きがぎこちなくなります。

・画面設定は適切ですか？

画面の設定によっては再生に必要な処理能力が多く必要になります。解像度を下げるなどの確認をしてください。(たとえば、32ビットカラーから16ビットカラーへ変更する、再生ウィンドウを小さくする、など。)
(☞ 47ページ)

・再生中に、ウィンドウの大きさや位置を変えませんでしたか？

動画を再生中にウィンドウの大きさや位置を変えると、音飛びや画像の乱れの原因になります。ウィンドウの大きさや位置を変えるときは、いったん動画の再生を停止または一時停止にして実行してください。

動画の再生中に画面が消えてしまう

・省電力機能が働いている可能性があります。

動画を再生中、省電力機能が働くと再生画面が消えてしまいます。動画を再生するときは、省電力機能を無効にしておいてください。
(☞ 49～54ページ)

周辺機器を使おうとしたら

周辺機器を接続しても、自動的に設定が始まらない

・周辺機器によっては、自動的に設定が始まらないものがあります。

次の手順で周辺機器を認識さてください。

① [スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。
② [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックします。
③ 画面左の[ハードウェアの追加]アイコンをクリックし、新しいハードウェアの追加ウィザードを起動させます。

以降の操作は、画面に表示される指示、および周辺機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

これでも周辺機器を認識しない場合、ケーブルの接続やID番号などの設定を再確認してください。

デバイスドライバをインストールしようとしても、「デバイスドライバが見つかりません」と表示される

・周辺機器とデバイスドライバが合ってないか、デバイスドライバが壊れています。

デバイスドライバを更新してください。
「ドライバの更新」(☞ 142ページ)

電源をつけるたびに、同じプリンタドライバをインストールするようメッセージが表示される

・最初にプリンタドライバをインストールしたとき、正しくインストールされなかった可能性があります。

一度プリンタドライバを削除し、再インストールしてください。

① [スタート]ボタン→[プリンタとFAX]を選択し、【プリンタとFAX】ウィンドウ内のプリンタのアイコンを全て削除します。
② [プリンタの追加インストール]アイコンをクリックして、再度、プリンタドライバをインストールします。

周辺機器が動かない

・本機の電源を入れた後に、周辺機器の電源を入れませんでしたか？

周辺機器の電源を入れた状態で、本機を再起動してください。USB対応機器以外の外付けの周辺機器の場合、本機よりも先に周辺機器の電源を入れる必要があります。

・取り付けた周辺機器は、本機に対応しているものですか？

取り付けた周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器に付属の取扱説明書をよく読むか、周辺機器メーカに問い合わせて確認してください。

・ケーブルは正しく接続されていますか？

周辺機器と本機がケーブルで確実に接続されているか、そのケーブルが周辺機器に対応しているか、コネクタの位置は正常かを確認してください。

・本体内部のケーブル類は確実に接続されていますか？

内蔵型の周辺機器を取り付ける際、本機内部のケーブルがコネクタから外れている場合があります。本機内部のケーブルに異常がないか確認してください。

・デバイスドライバは正常に組み込まれましたか？

周辺機器によっては、周辺機器を取り付けた後、本機にデバイスドライバやソフトウェアを組み込む(インストールする)必要があります。周辺機器に付属の取扱説明書をよくお読みになり、デバイスドライバを組み込んでください。

・周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を１つずつ外して、動作確認をしてください。

・他の機器と競合していませんか？

SCSI機器の場合、他の周辺機器とID番号が重なっていると認識できません。他の周辺機器とID番号が重複していないか確認してください。また、その他にドライブ番号やリソース番号が重複していることも考えられます。ドライブ番号の変更や、リソースの割り付けを見直してください。(☞ 143ページ)

USB機器のコネクタを差し込んだが認識されない

・USBコネクタを一度抜き、すぐに差し込みなおしませんでしたか？

USBコネクタの抜き差しは、３秒以上の間隔をあけてください。USB機器が何も反応しなくなってしまった場合は、Windows XPを再起動させ、再度USB機器を接続してください。
(☞ 106ページ)

SCSI機器がうまく動かない

・ケーブルは各SCSI機器に確実に接続されていますか？

ケーブルが本機(SCSIカード)とSCSI機器に確実に接続されているかご確認ください。

・ケーブルの品質は大丈夫ですか?

ケーブルが断線していないかテスターなどでご確認ください。また、SCSIでは高速データ転送を行うため、ハイインピーダンスケーブルをお勧めします。

・ケーブル長は制限範囲内ですか？

SCSI-2使用時、SCSIケーブルの総延長は3m以内という制限があります。なるべく短いケーブルを使用し、3mを超えない範囲にしてください。

・SCSIケーブルは適切なものですか？

SCSIケーブルは取り付けるSCSI機器のコネクタの形状により、使用するケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認し、対応したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

・終端設定(ターミネータ)は正しいですか？

終端のSCSI機器に、終端設定が行われているかご確認ください。

・SCSIカードは正常に認識されていますか？

SCSIカードが正常に組み込まれていない場合、SCSI周辺機器は認識されません。SCSIカードの確認はデバイスマネージャで確認してください。組み込みが正しくできていない場合、SCSIコントローラの項目に警告が表示されます。

・ID番号の設定は正しくできていますか？

同じID番号を複数の機器で設定していると、各機器を認識できません。各機器のID番号が重複していないかご確認ください。また、ID番号は０～６の範囲で設定してください。

・電源を入れる順番は正しいですか？

起動時、本機より先に外部周辺機器の電源を入れないと、外部機器は認識されません。電源入れる順番を間違えた場合、一度本体の電源を切ってから再起動をしてください。また、デバイスマネージャでSCSIコントローラを選択し、更新を選択すると認識される場合もあります。

使用できるSCSIケーブルについて

使用できるSCSIケーブルについては、各SCSI機器に付属の取扱説明書を参照するか、メーカにお問い合わせください。

2 デバイスマネージャの設定

周辺機器がおかしいときや、手動で周辺機器を設定するときは、デバイスマネージャを使用します。ここではデバイスマネージャの基本的な使い方をはじめとした、周辺機器を取り付けるための予備知識を説明します。

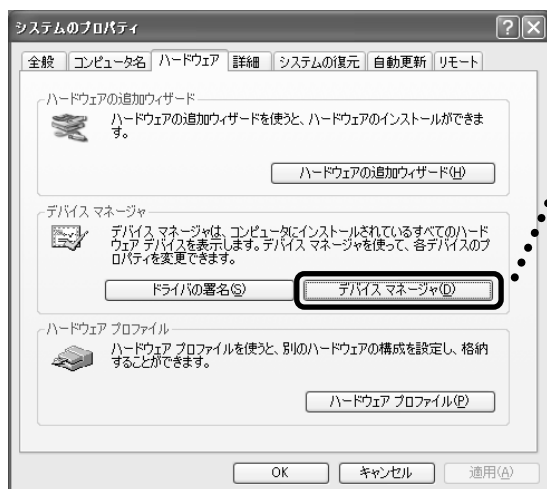
デバイスドライバの表示

ここではUSB機器を例に、周辺機器の状態をデバイスマネージャで確認します。

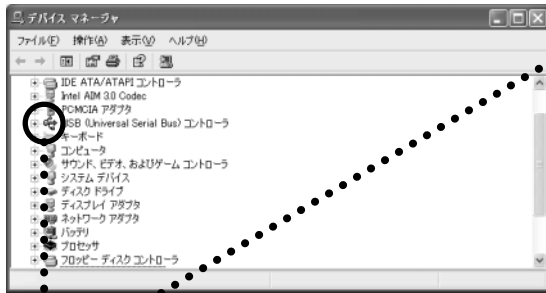
1

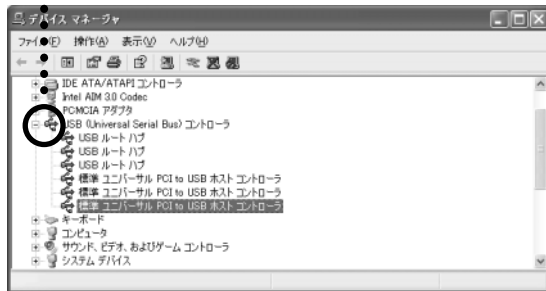
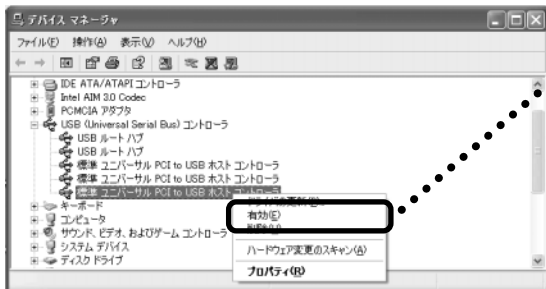
[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。

【システムのプロパティ】ウィンドウが表示されます。

2

[ハードウェア]タブを選択し、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

【デバイスマネージャ】ウィンドウが表示されます。

3

[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]の ＋ の部分をクリックし、－ に変更させます。

のマークに×印が入っていないか確認します。×印が入ってなければ有効です。

4

USBに×印が入っているときは、×印がついているUSBポートを右クリックし、表示されるプルダウンメニューから「有効」を選択します。

×印がなくなり、USB機器が使用できるようになります。

手順3で×印が入っていないときは、この手順は必要ありません。

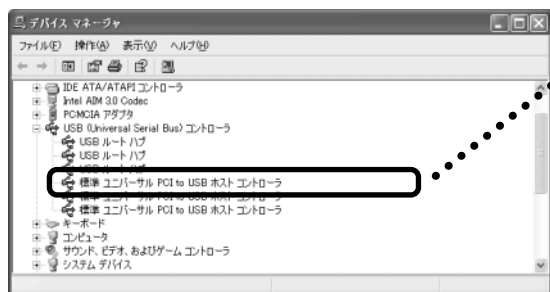
ドライバの更新

周辺機器のドライバが自動的にインストールされないときは、以下の手順でデバイスドライバをインストールしてください。

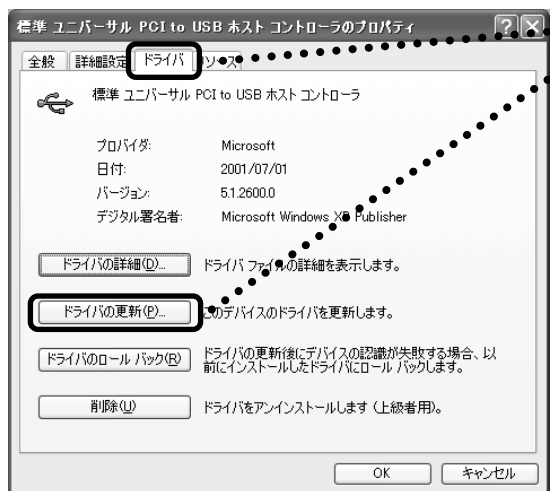
1

設定したい周辺機器のデバイスドライバを表示します。

「デバイスドライバの表示」(☞ 140～141ページ)

2

設定したい周辺機器をダブルクリックします。

設定したい周辺機器のプロパティが表示されます。

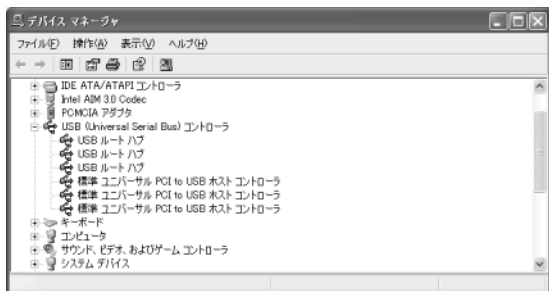
3

[ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]ボタンをクリックします。

【ハードウェアの更新ウィザード】ダイアログが表示されます。

4

ウィザードの指示に従い、ハードウェアをインストールします。

リソースの競合について

リソースとは、本機と周辺機器が円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。これらリソースの総数は限られており、周辺機器を増設する際には、残りの番号にそれらを割り当てる必要があります。
リソースは通常、Windowsが自動的に管理をするので自分で設定を管理する必要はありませんが、まれに同じリソース番号を複数の周辺機器に割り当ててしまうことがあります。この状態を「リソースの競合」といい、競合した状態では周辺機器は正常に作動しません。

■リソースの確認
増設した周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、【デバイスマネージャ】ウィンドウで調べることができます。

デバイスマネージャを表示したときに警告マークが付いていたら、その機器の[プロパティ]を表示させます。[デバイスの状態]欄に「競合」を意味するメッセージが表示されているときは、リソースの競合が発生しています。

■リソースの変更
リソースが競合している場合、リソースの割り当ての変更が必要です。

デバイスマネージャでリソース番号の空きを調べ、その番号を割り当てるか、当面使わない機器を一時的に「使用しない」に設定することで、その機器が使用していたリソースを解放し、新たに増設した周辺機器に割り当てることができます。リソースの割り当ての変更や、リソースの解放は、デバイスマネージャで設定します。

リソースについてさらに詳しく知りたい方は、市販のWindows XPの解説本やパソコン専門誌などをご参照ください。

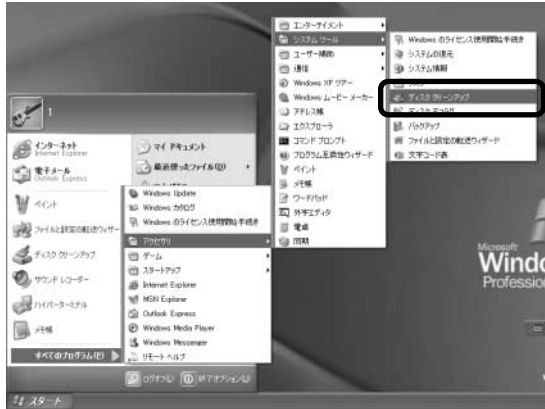
・リソースの競合を避けるために、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使用できなくなります。再びその機器を使用する場合、リソースの再設定が必要です。
・機器によってはリソースの割り当て方に、制限がある場合があります。詳しくは、その機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

3 ハードディスクのトラブル予防

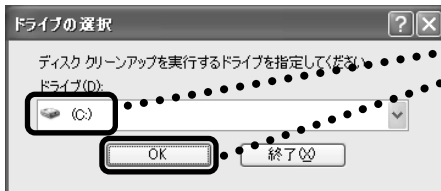
ファイルを保存するハードディスクは、長く使っていると処理速度が遅くなったり、容量が少なくなってきます。ここでは本製品のハードディスクを、より快適に使うための機能を紹介します。

不要なファイルを削除する

Windows XPを使っていると、ソフトウェアで一時的に使用したファイルや、ごみ箱に捨てたファイルなどがたまります。これらは不要なファイルで、多くたまるとハードディスクの容量が少なくなり、ハードディスクの処理速度が遅くなります。不要なファイルは「ディスククリーンアップ」を使って削除できます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ディスククリーンアップ]の順に選択します。

【ドライブの選択】ダイアログが表示されます。

2

対象となるハードディスクを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

【ディスククリーンアップ】ダイアログが表示されます。

アドバイス
ハードディスクがCドライブの場合、自動的にCドライブが設定されます。【ドライブの選択】ダイアログは表示されません。

3

ディスク クリーンアップ － (C:)
ディスク クリーンアップ　詳細オプション
ディスク クリーンアップを実行すると (C:) の空き領域が 6,717 KB 増加します。
削除するファイル(F):
ダウンロードされたプログラム ファイル　0 KB
Temporary Internet Files　531 KB
ごみ箱　6,154 KB
一時ファイル　0 KB
WebClient/Publisher の一時ファイル　32 KB
増加するディスク領域の合計:　531 KB
説明
特定のページを表示したときにインターネットから自動的にダウンロードされる、ActiveX コントロールや Java アプレットです。これらは、ハード ディスクの [Downloaded Program Files] フォルダに一時的に保存されます。
ファイルの表示(V)
OK　キャンセル

削除するファイルにチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。

アドバイス
削除するファイル名を選択することにより、ウィンドウ下部の「説明」欄にそれぞれのファイルについて説明文が表示されます。

4

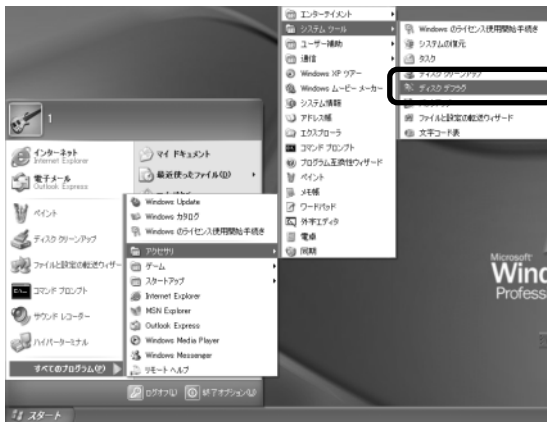
ファイル削除を確認するダイアログが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。

選択したファイルが削除され、自動的に【ディスククリーンアップ】ダイアログが閉じます。

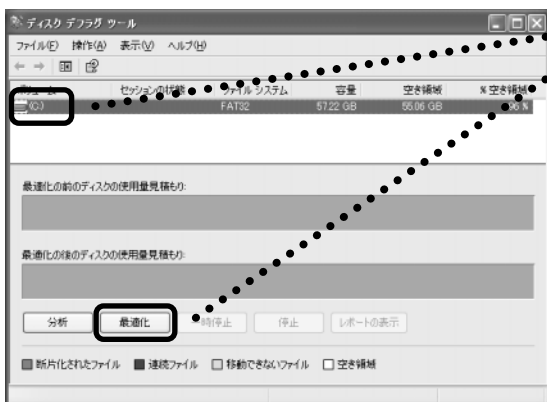
処理速度を速くする

データA データB データC
データD データE データF データG

ファイルの保存と削除を繰り返していると、左の図のようにハードディスクのデータにすき間ができます。
「ディスクデフラグ」を使ってデータのすき間を詰めることにより、ハードディスクの処理速度は速くなります。この操作のことを、最適化(デフラグ)といいます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ディスクデフラグ]の順に選択します。

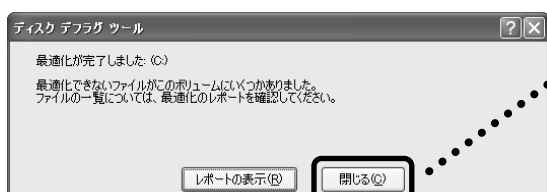
【ディスクデフラグツール】ダイアログが表示されます。

2

対象となるハードディスクを指定し、[最適化]ボタンをクリックします。

ハードディスクの最適化がはじまります。

最適化中はなるべくWindowsを使用しないでください。アプリケーションを起動したり操作すると、その都度最適化が中断されるので、最適化の終了が遅くなります。

3

ディスク デフラグ ツール
最適化が完了しました: (C:)
最適化できないファイルがこのボリュームにいくつかありました。
ファイルの一覧については、最適化のレポートを確認してください。
レポートの表示(R) 閉じる(C)

最適化の終了を知らせるダイアログが表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックします。

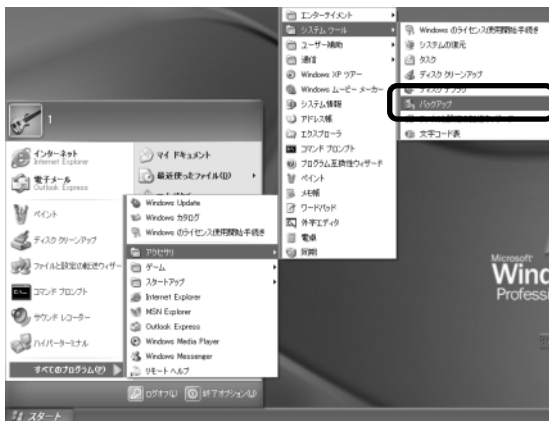
自動的に【ディスクデフラグツール】ダイアログが閉じます。

STEP6 困ったときには

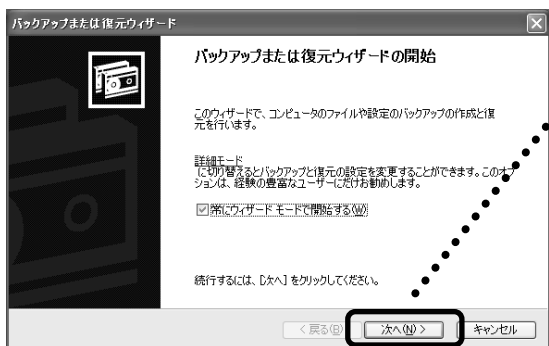
バックアップをとる

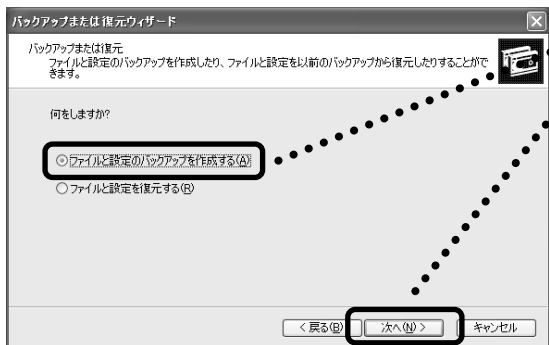
※XP Proモデルのみの機能です。

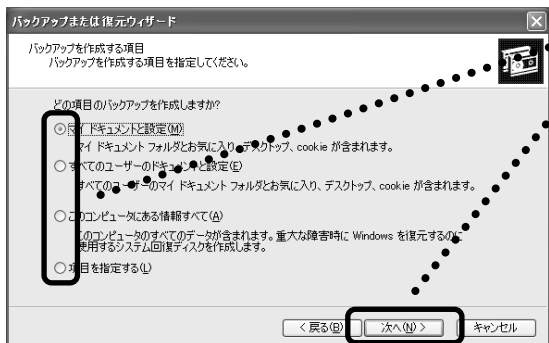
誤って大切なファイルを削除した場合、一度消えたファイルは元に戻りません。万が一に備え、ハードディスクの内容を別のディスクにコピーしておきましょう。この操作のことをバックアップといいます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[バックアップ]の順に選択します。

【バックアップまたは復元ウィザード】ダイアログが表示されます。

2

[次へ]ボタンをクリックします。

3

「ファイルと設定のバックアップを作成する」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

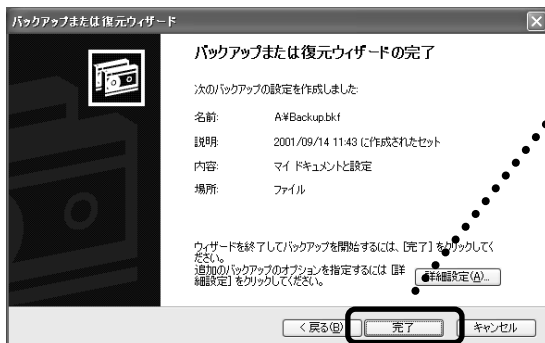
4

バックアップを作成する項目を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

5

バックアップするファイルの保存場所を選択します。

6

バックアップの名前を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

7

手順5で選択したバックアップの保存場所にディスクが準備できているか確認し、[完了]ボタンをクリックします。

バックアップが始まります。

アドバイス

次の画面が表示されたときは

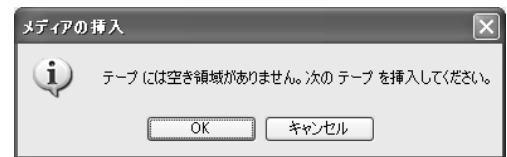
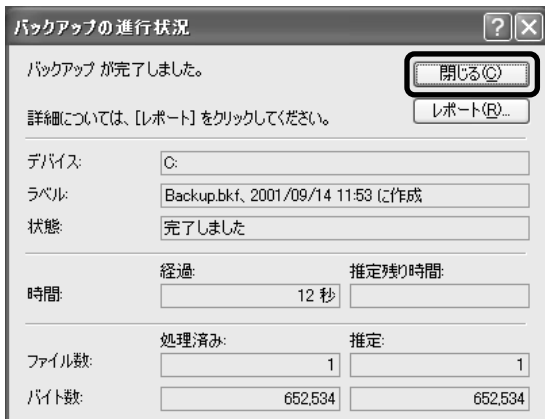
バックアップファイルの大きさが、保存するディスクの空き領域を超えると、ディスクの交換を知らせるメッセージが表示されます。新しいディスクを入れ、[OK]ボタンをクリックしてください。

8

バックアップの進行状況

バックアップ が完了しました。 閉じる(C)

詳細については、[レポート] をクリックしてください。 レポート(R)...

デバイス:	C:	
ラベル:	Backup.bkf、2001/09/14 11:53 に作成	
状態:	完了しました	
	経過:	推定残り時間:
時間:	12 秒	
	処理済み:	推定:
ファイル数:	1	1
バイト数:	652,534	652,534

バックアップの完了を知らせるダイアログが表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックします。

STEP6

困ったときには

アドバイス

バックアップを使ってファイルを復元するには

バックアップを取っていれば、誤って削除してしまったファイルを復元することができます。「バックアップをとる」の手順3(☞ 146ページ)で「ファイルと設定を復元する」を選択し、表示される指示に従って操作してください。

ハードディスクのエラーをチェックする

ハードディスクは外部からの磁気や衝撃を過度に受けると、ディスクそのものが壊れる恐れがあります。ディスクが壊れると、Windowsが起動しなくなったり、保存していたファイルが使えなくなることがあります。そのようなことを防ぐために、「エラーチェック」を定期的に使用して、ハードディスクのエラーをチェックしましょう。

1

[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]を選択します。

【マイコンピュータ】ウィンドウが表示されます。

2

[ローカルディスク]アイコンの上で右クリックし、表示されるプルダウンメニューから「プロパティ」を選択します。

【ローカルディスク(C:)のプロパティ】ダイアログが表示されます。

3

「ツール」タブを選択し、「エラーチェック」欄の[チェックする]ボタンをクリックします。

【ディスクのチェックローカルディスク(C:)】ダイアログが表示されます。

4

必要に応じて「チェックディスクのオプション」をチェックし、[開始]ボタンをクリックします。

エラーチェックが始まります。

アドバイス
「チェックディスクのオプション」を選ばずに実行すると、ハードディスクのエラーが検出されるだけで、エラーは修復されません。

5

エラーチェックの終了を知らせるダイアログが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

4 システムの復元

ソフトウェアのインストールやシステムの設定変更などが原因で、Windows XPが正常に動かなくなることがあります。「システムの復元」を使うと、Windows XPを正常だったときの状態に戻せます。

1 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[システムの復元]をクリックします。**

【システムの復元】ウィザードが表示されます。

2 **「コンピュータを以前の状態に復元する」が選択されているのを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。**

3 **復元ポイントのある日付を選択します。**

4 **復元ポイントを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。**

アドバイス

復元ポイントとは、パソコンを復元するときに必要なデータのことです。復元ポイントは、パソコンが起動している10時間ごと、もしくはパソコンの電源を24時間以上切った状態で次に電源を入れたときに、自動的に作成されます。また、手動で作成することもできます。手順2で「復元ポイントの作成」を選択し、ウィザードの指示に従い操作してください。

5

[次へ]ボタンをクリックします。

復元がはじまり、Windowsが再起動します。

6

[OK]ボタンをクリックします。

システムを復元したことにより、大事なファイルを失ってしまったときは、システムの復元作業を取り消すことができます。前のページの手順2で、「以前の復元を取り消す」を選択し、ウィザードの指示に従い操作してください。

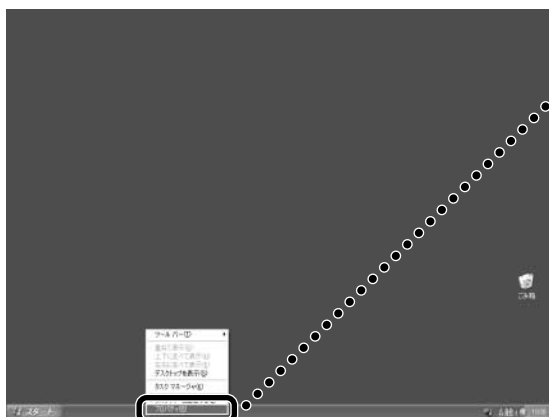
5 Windows XPの便利な機能

ここでは、Windows XPの、知っておくと便利な機能を紹介します。

Windows Meのように表示する

Windows XPの表示画面は、今までのWindowsと大きく異なります。ここでは、Windows Meの操作に慣れ親しんできた方でも、違和感なく操作できるようにWindows XPの表示画面を変更します。

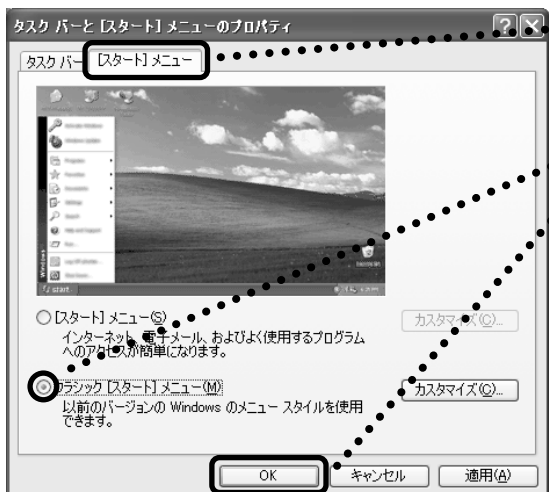
[スタート]メニューを変更する

[スタート]メニューの表示画面をWindows Meのように変更します。

1 **マウスポインタをタスクバー上にあわせて右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。**

【タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ】ダイアログが表示されます。

用語

タスクバー

デスクトップの最下部に表示されているバーのことです。

2 **[[スタート]メニュー]タブをクリックします。**

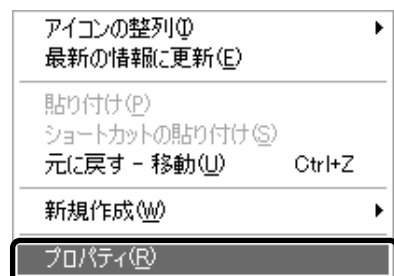
3 **「クラシック[スタート]メニュー」を選択して、[OK]ボタンをクリックします。**

これで設定は完了です。[スタート]ボタンをクリックしてください。

[スタート]メニューの表示画面がWindows Meのように変更されます。

デスクトップにアイコンを表示させる

Windows XPではデスクトップ画面上に「ごみ箱」アイコンしか表示されません。
ここでは、Windows Meのようにデスクトップ上に「マイコンピュータ」などのアイコンを表示させる方法を説明します。

1

デスクトップの画面上にマウスポインタをあわせて右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2

[デスクトップ]タブをクリックします。

3

[デスクトップのカスタマイズ]ボタンをクリックします。

【デスクトップ項目】ダイアログが表示されます。

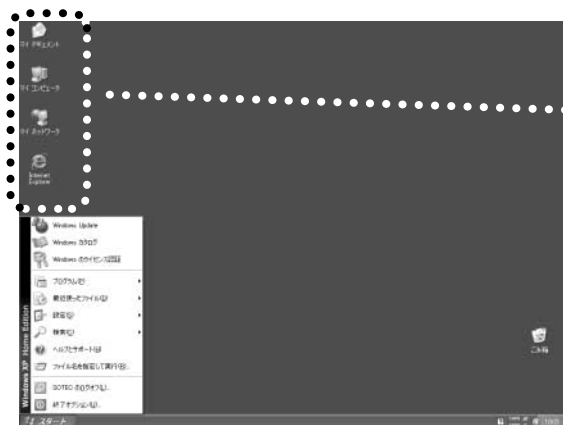
4

「デスクトップアイコン」内にある各項目のうち、デスクトップに表示させたいアイコンについて、それぞれチェックを入れてください。

5

[OK]ボタンをクリックします。

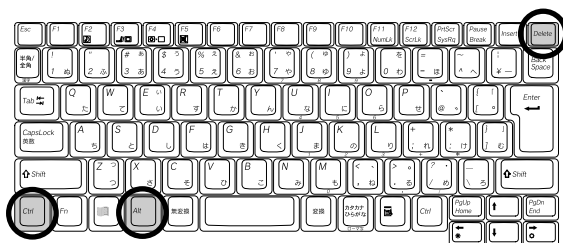
【画面のプロパティ】ダイアログに戻ります。

6

[OK]ボタンをクリックします。

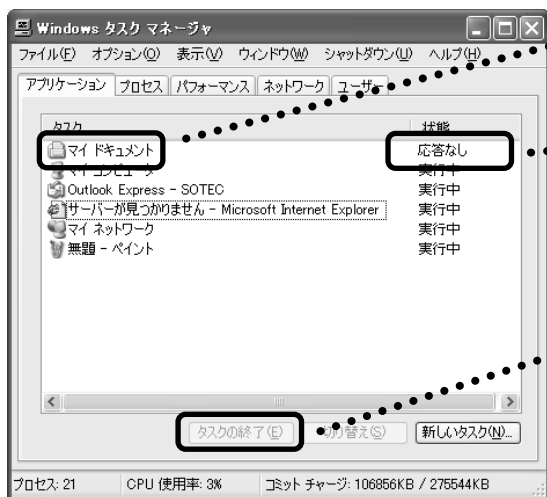
デスクトップ上に「マイコンピュータ」などのアイコンが表示されます。

Windowsが動かなくなったときは

一度に多くのアプリケーションソフトを起動したり、多くのウィンドウを開いたりすると、Windowsが正常に動作しなくなることがあります（この状態を「フリーズする」、「固まる」などと言います）。
Windowsが正常に動作しなくなったときは「Windowsタスクマネージャ」で復旧作業を行います。

1

Windowsが正常に動作しなくなったことを確認したら、Ctrl キーと Alt キーを押しながら、Delete キーを押します。

【Windowsタスクマネージャ】ウィンドウが表示されます。

2

「状態」欄に「応答なし」と表示されている項目をクリックします。

「応答なし」と表示されている項目が、Windowsの操作を受け付けなくしている原因です。この項目を終了させれば、Windowsは正常に動作するようになります。

3

[タスクの終了]ボタンをクリックします。

しばらくすると、Windowsが正常に動作するようになります。

視覚効果の調整

Windows XPでは視認性を高めるために、さまざまな視覚効果が初期設定されています。ただし、視覚効果は高い処理能力を必要とするため、本機の処理速度が低下する原因となります。
そこで、本機の処理速度を遅いと感じた場合は、必要に応じて視覚効果を調整してください。ここでは、本機のパフォーマンスを最優先にする設定を説明します。

1

[スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。

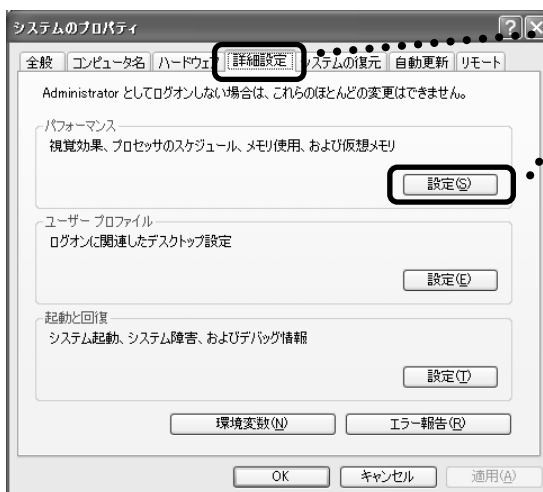
2

[システム]をダブルクリックします。

【システムのプロパティ】ダイアログが表示されます。

3

[詳細設定]タブを選択して、「パフォーマンス」内の[設定]ボタンをクリックします。

【パフォーマンスオプション】ダイアログが表示されます。

4

[パフォーマンスを優先する]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

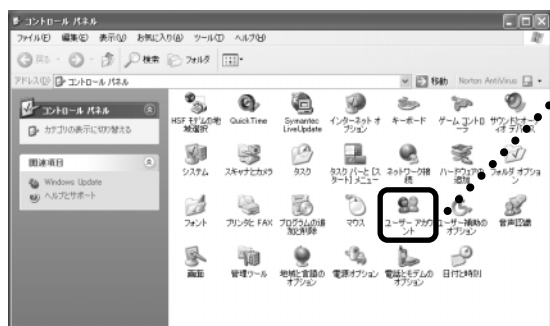
しばらくしたあと、Windowsの表示画面が変更されます。これで設定は完了です。

複数のユーザーで使用するには

Windows XPは1台のパソコンを2人以上のユーザーが使用することができます。
ここでは、各ユーザーがWindows XPを使用するために必要なユーザーアカウントとそのパスワードの設定方法、またユーザーの切り替え方法についても説明します。

> **用語**
> **ユーザーアカウントとは?**
> ユーザーアカウントとは、Windows XPに登録するユーザー情報のことです。
> ユーザーアカウントをWindows XPに登録すると、各ユーザー専用の「マイドキュメント」やデスクトップ画面が利用できるようになります。

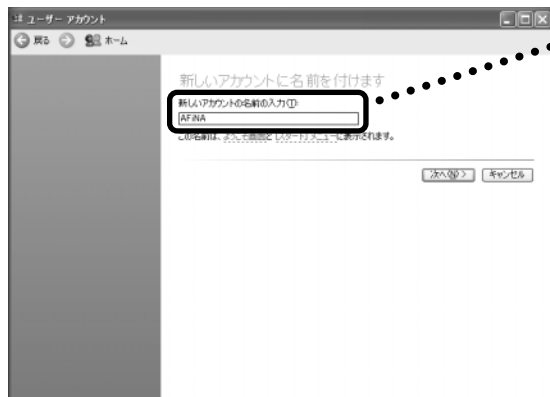
ユーザーアカウントの設定

ユーザーアカウントの設定は、[コントロールパネル]内の[ユーザーアカウント]から行います。
ここでは新しくユーザーアカウントを登録する方法を説明しますが、変更や削除も[ユーザーアカウント]で設定できます。

1 **[コントロールパネル]から[ユーザーアカウント]アイコンをダブルクリックします。**

【ユーザーアカウント】ウィンドウが表示されます。

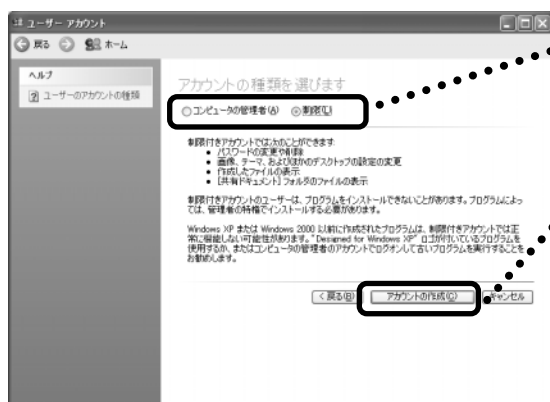
2 **[新しいアカウントを作成する]を選択します。**

アカウント名を入力する画面が表示されます。

3

アカウント名を入力します。

アカウントの種類を選択する画面が表示されます。

4

5

アカウントの種類を[コンピュータの管理者]、[制限]のいずれかから選択します。

[アカウントの作成]ボタンをクリックします。

以上で操作は終了です。新しいアカウントが作成されます。

ユーザーアカウントのパスワードの設定

他人に自分のユーザーアカウントを使用されたくない場合、ユーザーアカウントにパスワードを設定できます。

1

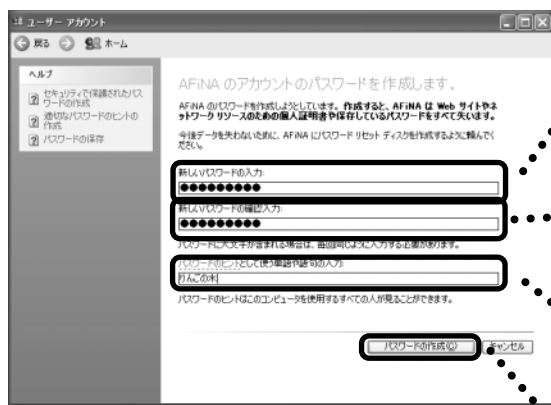
【ユーザーアカウント】ダイアログから、パスワードを設定したいユーザーを選択します。

ユーザーアカウントを変更する画面が表示されます。

2

[パスワードを作成する]を選択します。

パスワードを設定する画面が表示されます。

3

[新しいパスワードの入力]に任意でパスワードを入力します。

4

[新しいパスワードの確認入力]に手順3で入力したものと同じパスワードを入力します。

5

パスワードを忘れた際に、思い出すためのヒントを入力します。

6

[パスワードの作成]ボタンをクリックします。

以上でパスワードの設定は完了です。

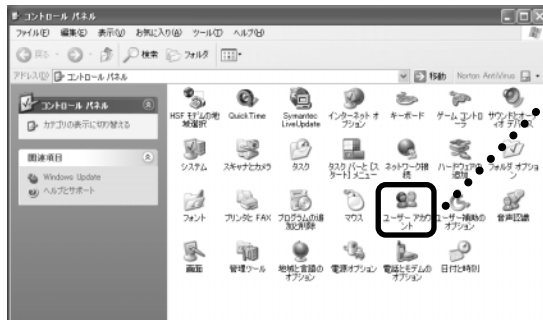
アドバイス

万一パスワードを忘れた場合に備えて、「パスワードリセットディスク」の作成をおすすめします。(☞159ページ)

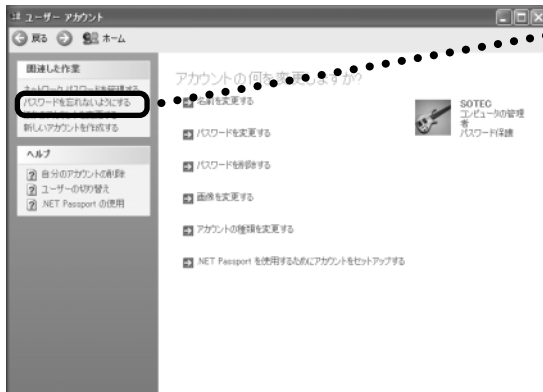
パスワードを忘れた場合に備えて…

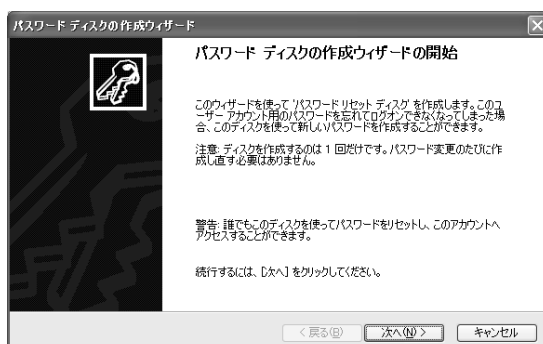
万一パスワードを忘れた場合に備えて、「パスワードリセットディスク」の作成をおすすめします。
「パスワードリセットディスク」を使用すると、パスワードを忘れた場合でも、そのパスワードをリセットできます。

「パスワードリセットディスク」の作成に、空のフロッピーディスクが1枚必要になりますので、ご準備ください。

1

[コントロールパネル]より[ユーザーアカウント]を選択します。

2 **「パスワードリセットディスク」が必要なユーザーアカウントを選択します。**

3

[パスワードを忘れないようにする]を選択します。

【パスワードディスク作成ウィザード】ダイアログが表示されます。

ここからはウィザードの指示にしたがい操作して、「パスワードリセットディスク」を作成してください。

ユーザーの切り替え方法

別のユーザーがWindows XPを使用する場合、ユーザーアカウントを切り替える必要があります。
切り替えの操作手順は、今まで使っていたユーザーがWindows XPの利用を終了して(ログオフ)、新たなユーザーがWindows XPの利用を開始する(ログオン)、という2つの順序で行います。

1

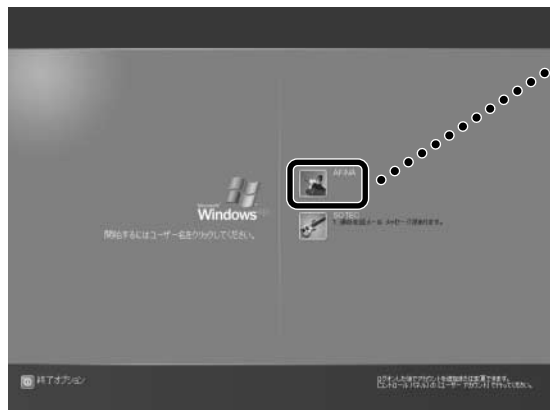
[スタート]ボタン→[ログオフ]を選択します。

【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。

2

[ログオフ]ボタンをクリックします。

今まで使用していたユーザーアカウントがWindows XPよりログオフされ、ログオン画面が表示されます。

3

新しく使用するユーザーアカウントを選択します。

新たなユーザーアカウントでWindows XPにログオンしました。
以上でユーザーの切り替えは終了です。

設定情報を転送する

「ファイルと設定の転送ウィザード」を使用すると、本製品をご購入いただく前に使用していたパソコンの各種設定やデータを、現在使用している本製品に簡単に転送できます。
ここでは、以前使用していた、Windows Me機の設定情報を、本機に転送するケースを説明します。

ウィザードディスクの作成(本機の操作です)

1

[スタート]ボタン→[ファイルと設定の転送ウィザード]を選択します。

【ファイルと設定の転送ウィザード】ダイアログが表示されます。

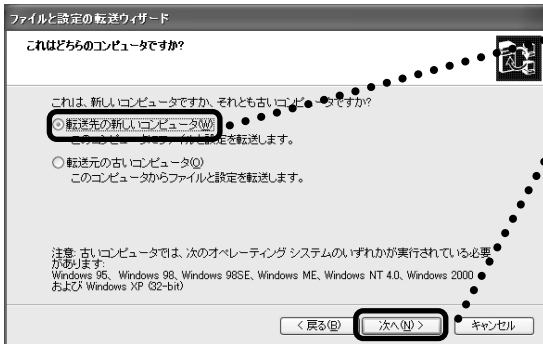
アドバイス

[スタート]メニューに[ファイルと設定の転送ウィザード]がない場合、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ファイルと設定の転送ウィザード]を選択してください。

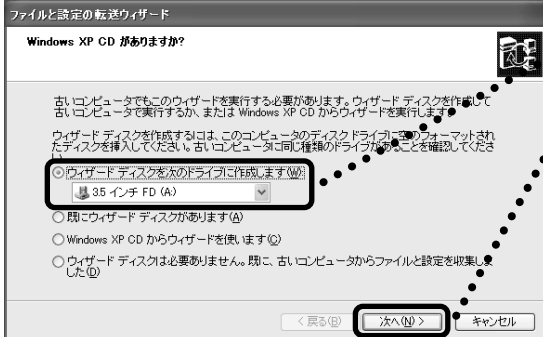
2

[次へ]ボタンをクリックします。

新しいダイアログが表示されます。

3

[転送先の新しいコンピュータ]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

しばらくすると新しいダイアログが表示されます。

4

「ウィザードディスクを次のドライブに作成します」を選択し、ウィザードディスクを作成するドライブを一覧から選択したあと、[次へ]ボタンをクリックします。

ここから先はウィザード指示にしたがい、ウィザードディスクを作成します。
ここからは古いパソコンでの操作になりますが、本機は電源を切らずに、この状態のまましておいてください。
どうしても本機の電源を切る必要がある場合、[キャンセル]ボタンをクリックして、「ファイルと設定の転送ウィザード」の終了後、本機の電源を切ってください。

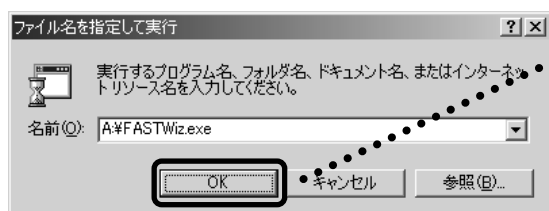
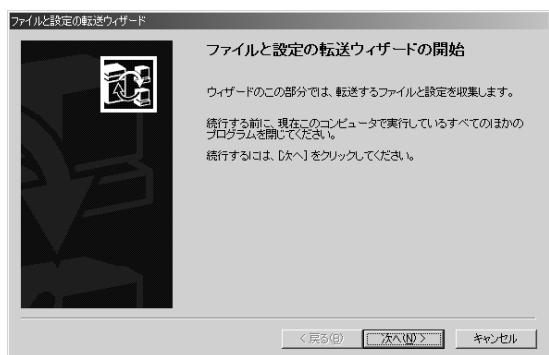
転送元より設定情報を収集する(Windows Me機の操作です)

ウィザードディスクを使用して、Windows Me機の設定情報を収集します。

1 **Windows Me機にウィザードディスクをセットします。**

2 **[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。**

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

3

「A:¥FASTWiz.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

【ファイルと設定の転送ウィザード】ダイアログが表示されます。
ここから先はウィザードの指示にしたがい、任意で転送方法および転送内容を選択してください。

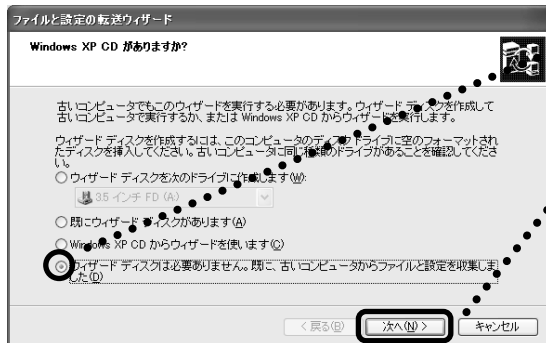
収集した設定情報を転送する(本機での操作です)

Windows Me機から収集した設定情報を本機に転送します。

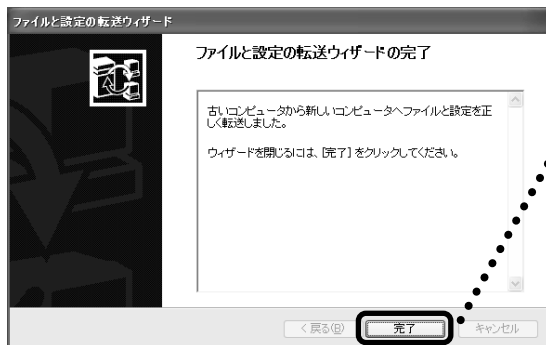
1

「ウィザードディスクの作成」の手順3までを実行します。

「ウィザードディスクの作成」の手順3を実行後、新しいダイアログが表示されます。

2

[ウィザードディスクは必要ありません。既に…]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

新しいダイアログが表示されます。ここから先はウィザードの指示にしたがって操作してください。
転送が完了すると、完了を知らせるダイアログが表示されます。

3

[完了]ボタンをクリックします。

以上で設定情報の転送は終了です。転送した設定情報を有効にするには、一度ログオフしてください。

フォルダの表示方法を変更する

Windows XPでは、ファイルやフォルダを任意のグループに分けて表示することができます。

フォルダを開いている状態で、[表示]メニューから[アイコンの整列]-[グループで表示]を選択する

グループ分けの方法は、次の４種類があります。

名前でグループ化

ABC順、あいうえお順でグループ分けします。

種類でグループ化

ファイルの種類でグループ分けします。

サイズでグループ化

ファイルのサイズでグループ分けします。

更新日時でグループ化

ファイルの更新日時でグループ分けします。

付　録

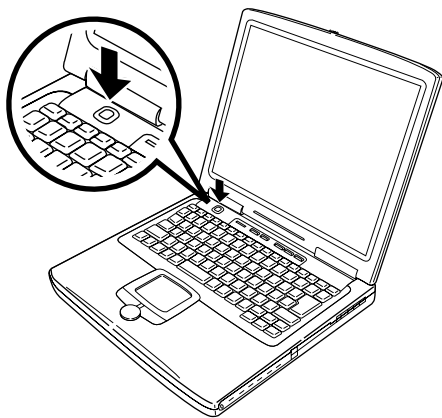
1 BIOSを設定する

ここではBIOSの概要と、BIOSを設定するための「BIOSセットアッププログラム」の操作方法について説明します。

BIOSとは

"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、具体的にパソコンを動作させるためのプログラムです。このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能を正しく引き出すことができます。
本機ではあらかじめ、最適の状態でBIOSが設定されています。ただし、本機の拡張などを行った際には、拡張する機器に合わせてBIOSの設定を変更する必要があります。

BIOSの設定は複雑で、誤った設定をしてしまうと、本機が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更しないでください。
誤った設定により本機が正しく動作しなくなった場合には、BIOSが起動している状態で F9 キーを押します。BIOSの設定を初期設定に戻すかどうかのメッセージが表示されるので[YES]を選択してください。BIOSの設定が初期状態に戻り、Windowsが再起動されます。

BIOSセットアッププログラムの起動

1 本機の電源がOFFであることを確認します。

2 本機の電源ボタンを押して、電源をONにします。

3 "SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、F2 キーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

付録

項目の選択・設定の方法

BIOSセットアッププログラムは、次のキーを使って操作します。

- ・メインメニューの項目を左右に移動するには　→←キー
- ・項目を上下に移動するには　↓↑キー
- ・サブメニューへ移動するには　↵キー
- ・ヘルプを見るには　F1キー
- ・変更した設定を保存するには　Escキー
- ・サブメニュー・メニューを終了するには　Escキー
- ・設定値を変更するには　-+キー

参照

BIOSの詳しい操作方法についてはWindowsのデスクトップ画面から[スタート]ボタン→[必ずお読みください]→[BIOSマニュアル]を、ご参照ください。

BIOSセットアッププログラムの終了

設定した内容を保存して終了する

① Escキーを押します。

② メッセージが表示されるので、[Yes]にカーソルをあわせて↵キーを押します。

設定した内容を保存せずに終了する

① Escキーを押します。

② メッセージが表示されるので、[No]にカーソルをあわせて↵キーを押します。

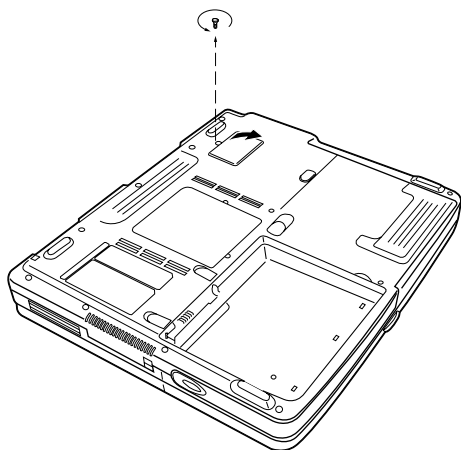
BIOSセットアッププログラムのメニュー構成

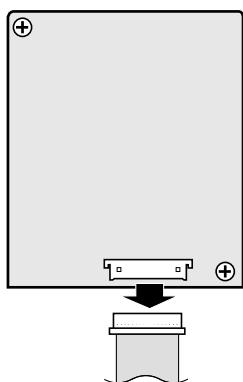
BIOSセットアッププログラムは６つのメニューから構成され、それぞれのメニューで設定できる内容は次のようになっています。

メニュー	内　容
System Information	本製品のシステム情報が表示されています。
Basic System Settings	内部のシステムクロック(時分秒)やカレンダー(年月日)の設定をします。
Startup Configuration	起動時の各種設定ができます。
Onboard Device	本機のシリアルポートやパラレルポート、外部接続マウスなどの設定をします。
System Security	BIOSやWindowsを起動するときに、パスワード入力を必要にさせる設定をします。
Load Default Settings	BIOSの設定を初期設定の状態に戻したいときに選択します。

2 miniPCIカードの取り外し

本機のminiPCIカードの取り外しかたを説明します。

・特に理由がない限り、miniPCIカードは取り外さないでください。本機が正常に動作しなくなる恐れがあります。
・装着の前には、必ず本機の電源をOFFにして、バッテリパックとACアダプタを外してください。

1 本機の電源がOFFになっていることと、バッテリパックとACアダプタが本機から外れていることを確認します。

2 ネジを外して、miniPCIカードカバーを外します。

3 miniPCIカードを取り付けているネジを取り外してください。

4 miniPCIカードをゆっくり引き抜きます。

5 miniPCIカードに取り付けられているケーブルを引き抜きます。

6 miniPCIカードカバーを元通りに取り付けます。

3 用語集

本機に関連する用語を説明しています。

bit

「ビット」と読む。データの大きさの単位のこと。
8bit=1Byte
と換算できる。
→Byte

bps

「bit per second」の略で「ビーピーエス」と読む。通信速度の単位のこと。インターネットなどでよく使われる。
8Mbpsで1秒間に8Mbit(1MByte フロッピーディスク1枚弱くらい)の情報量が通信されるということになる。
→bit、Byte、通信速度

Byte

「バイト」と読む。データの大きさの単位のこと。
1KB=1024Byte
1MB=1024KB
1GB=1024MB
と換算できる。
1Byteは半角文字1文字分のデータ量に相当する。
→GB、KB、MB

CPU

「Central Processing Unit」の略で「シーピーユー」と読む。人間の体で例えるならば大脳にあたる。コンピュータの中心となる部分で、いろいろな演算や制御を行う。

dpi

「Dots Per Inch」の略で「ディーピーアイ」と読む。プリンタやスキャナなどでの印字の精密さを表す単位のこと。一般的にこのdpiの数値が高ければ高いほど、精密な印刷などができ、高性能の製品ということになる。
→スキャナ

GB

「Giga Byte」の略で「ギガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1GB=1024MBである。
→Byte、MB

Hz

「Helz」の略で「ヘルツ」と読む。周波数・振動数の単位で、コンピュータのCPUのクロック周波数を表すのによく使われる。一般的にCPUのHzの数値が高ければ高いほど、そのCPUは高性能である。
→CPU、クロック周波数

JPEG

「Joint Photographic Expert Group」の略で「ジェイペグ」と読む。カラー静止画像の圧縮・伸長方式のこと。現在では国際標準の規格となっていて、コンピュータの機種に関係なくファイルの交換できるメリットがあることなどから、インターネットなどでよく使われている。

KB

「Kilo Byte」の略で「キロバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1KB=1024Byteである。
→Byte

MB

「Mega Byte」の略で「メガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1MB=1024KBである。
→Byte、KB

MO

「Magnet Optical」の略で「エムオー」と読む。光磁気ディスクとも呼ばれていて、レーザー光を磁場を利用して高密度でデータを記憶できる円盤型の記憶媒体である。記憶容量はさまざまなタイプのものがある。
→GB、MB

MPEG

「Motion Picture Expert Group」の略で「エムペグ」と読む。カラー動画像の圧縮方式のこと。カラーの動画像データを再生するためには膨大な処理能力を必要とするので、そのための動画像を圧縮処理をする標準化したものを指す。
また、MPEGは音声圧縮も扱っており、mp3(MPEG Audio Layer-3)などが有名である。

OS

→オペレーティングシステム

RAM

英語のランダムアクセスメモリ(Random Access Memory)の略で「ラム」と読む。自由に読み書きができるメモリのこと。プログラムのほとんどが、RAMに読み込まれてから動作するようになっている。また、データもRAMに読み込んでから処理される。
→メモリ

ROM

英語のリードオンリーメモリ(Read Only Memory)の略で「ロム」と読む。読み込むことしかできないメモリのこと。システムソフトウェアはROMに書き込まれていることが多い。
→ソフトウェア、メモリ

RS-232C

米電子工業会(EIA)によって規定されたコンピュータと周辺装置とのインターフェースの規格のこと。外付けのモデムに接続する場合、このインターフェースを利用するのが一般的である。
→インターフェース、モデム

VRAM

「Video RAM」の略で「ブイラム」と読む。ディスプレイに文字や画像を表示するためのデータを書き込む、画像表示専用メモリのこと。文字を表示するテキスト用VRAMと、画像を表示するグラフィック用VRAMに分けられる。
→メモリ

Windows

「ウィンドウズ」と読む。「見ただけでわかる、誰でも簡単に操作できるOSを」という趣旨で、マイクロソフト社が開発したOSのこと。操作する内容は、ひと目でわかるさまざまな色のグラフィック(絵や図形)で画面に表示され、基本的なほとんどの操作は、マウスで行える。
→オペレーティングシステム(OS)

アイコン

マウスを使用するソフトウェアで、命令や処理を表現するために使用する絵文字のこと。
→ソフトウェア

アプリケーションソフトウェア

文書作成、データ管理、表計算といった作業を実行するために開発されたソフトウェアのこと。
→ソフトウェア

アンインストール

ハードディスクなどに組み込まれたソフトウェアをそのハードウェアから削除すること。
→ソフトウェア、ハードウェア

インストール

ソフトウェアをハードディスクに組み込んで使用できる状態にすること。
→ソフトウェア

インターフェース

装置と装置の接続仕様のこと。通常、パソコン本体と周辺機器とをつなぐコネクタなどを指すことが多い。
→コネクタ、周辺機器

オペレーティングシステム(OS)

ハードウェアとアプリケーションソフトウェアの間で、プログラムの制御や管理、入出力の制御などを行うためのソフトウェア全般のこと。Windowsもこれにあたる。
→Windows、アプリケーションソフトウェア、ハードウェア

カーソル

ディスプレイ上に文字や図形を入力、表示する位置を示すマークのこと。四角が画面上に点滅するもの、下線が点滅するものなどがある。

解像度

ディスプレイ上で表示するとき、どれだけ精密に表示できるかを示す基準のこと。ディスプレイの画面は、ドット(点)で表示されていて、このドット数が多ければ多いほど、ディスプレイの表示範囲が広くなる。

クロック周波数

パソコン本体に内蔵されているCPUの動作周波数のこと。同じCPUであれば、この数値が大きいほど、パソコンの処理速度は速くなる。
→CPU、Hz

コネクタ
パソコン本体と周辺機器をつなぐ接続部分のこと。
→周辺機器

コンピュータウイルス
電子世界でのウイルスはプログラムのことである。コンピュータウイルスに感染したコンピュータはデータが破損されるなどの症状を引き起こす。
→ワクチン

システムソフトウェア
オペレーティングシステムなど、コンピュータを動かすための基本的なソフトウェアのこと。
→オペレーティングシステム(OS)、ソフトウェア

周辺機器
プリンタ、ディスプレイ、モデムなど、コンピュータ本体に接続して使用する本体以外の機器全般のこと。
→モデム

初期化
周辺機器や記憶媒体を使用できる状態にすること。記憶媒体の場合、どこをどういう情報に書き込むか、どの情報を読むかなどコンピュータにわかるように、いわば区画整理をして、あるソフトウェアのもとで使用できる状態にすることをいう。
→周辺機器、ソフトウェア

シリアルポート
主としてモデムを中心とした、周辺機器とコンピュータを接続するためのコネクタのこと。一度に1bitずつしかデータを送れないため、転送速度はあまり速くない。
→bit、周辺

スキャナ
絵や写真などを画像データとしてコンピュータに取り込む周辺機器のこと。
→周辺機器

スクロール
画面に表示する範囲を、上下左右に移動させること。

ソフトウェア
アプリケーションソフトウェア、システムソフトウェアなどプログラム全般のこと。コンピュータ本体、周辺機器などのハードウェアに対して、このように呼ばれる。
→アプリケーションソフトウェア、システムソフトウェア、周辺機器

ダウンロード
一般的に、インターネット上にあるファイルを自分のコンピュータに転送すること。

通信速度
単位時間あたりのデータの伝送速度のこと。よく使われる単位として、bps(bit per second)がある。
→bps

デジタルカメラ
撮った画像をネガではなくデジタルデータとして保存するカメラのこと。撮った画像をコンピュータに転送したり、編集することが容易である。

デバイス
コンピュータに接続される周辺機器のこと。
→周辺機器

デバイスドライバ
周辺機器をコンピュータと接続させて動かすときに、コンピュータが周辺機器を制御するために必要となるソフト。
→周辺機器

ドライブ
一般的にフロッピーディスク、CD-ROM、ハードディスクなどを動かす装置のことを指す。また、ハードディスク内などで論理的に分けられた場合などにもそれぞれを1つのドライブとよぶ。

ネットワーク
複数のコンピュータを電話回線などの通信網でつないで、データのやりとりをする形態のこと。インターネットやLANもネットワークの一種である。

バージョン
ソフトウェアやハードウェアなどの開発された順序を示す表現。書籍などの第X版にあたる。通常は数値などで表現される。
→ソフトウェア、ハードウェア

ハードウェア
コンピュータ本体や周辺機器などの機械類を総称して、ハードウェアという。これに対して、ハードウェアを動かすプログラムのことをソフトウェアという。
→周辺機器、ソフトウェア

パラレルポート
主としてプリンタを中心とした、周辺機器とコンピュータを接続するためのコネクタのこと。一度に複数個のデータを送れるため、シリアルポートより高速なデータ転送ができる。
→コネクタ、周辺機器、シリアルポート

フォーマット
ディスク(記憶媒体)を、OSで使用できるように設定すること。
→オペレーティングシステム(OS)

プラグイン
アプリケーションソフトウェアに追加機能を設定するためのプログラムのこと。
→アプリケーションソフトウェア

ポインティングデバイス
特定の指示した位置に入力をする装置の総称。マウスもポインティングデバイスの1つ。

補助記憶装置
メモリの容量不足を補うための記憶装置のこと。フロッピーディスクやハードディスクなどがそれにあたる。
→メモリ

マルチメディア
グラフィックス、サウンド、動画などを表現するメディアのこと。パソコン上ではこれらのメディアを、デジタル処理によって組み合わせて表現することもできる。

メモリ
CPUがデータを処理する際に、そのデータを一時的に保管する場所をいう。一般的にメモリにはRAMが使われる。
→CPU、RAM

モデム
「MODEM:MOdulator=変調器、DEModulator=復調器」という変復調器の英語からの造語されたもので、データ(情報)通信に用いられる機器のこと。電話回線の音声信号(アナログ信号)をコンピュータが処理できるデジタル信号に変調したり、あるいは、この逆の処理(復調)を行う。

ワクチン
コンピュータウイルスを発見・修正するためのプログラムのこと。
→コンピュータウイルス

4 索　引

付録

P

S

T

U

V

W

数字